

新春



世界の山旅

2010年の山

「一人ではないけどでも行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

スイス&チロル・ハイキング・フェスティバル 2010

- 日時：1/28(木) 14:00~16:00
- 会場：大原科学技術センター(OSTEC)B102
(地下鉄本町線大原駅西口、西口徒歩約10分)
- 予約：☎06-6444-3033(アルパインツアー)

シーズンに先駆けスイス&チロルでのハイキングの魅力、
美しい映像をまじえ、経験豊富なスタッフが詳しくご紹介！
入場無料、ご予約は大阪支店へ。



ニュージーランドの山旅 大自然がさまざまな表情を見せる“地球の箱庭”

美しい自然と、数百年にわたるマウントクックの歴史を
ミルフード・トラックと
マウントクック 11日間

出発日：1/20, 1/27, 2/10, 2/20, 3/3
旅行代金：¥556,000~¥628,000 (大阪発着)



ニュージーランドの自然を満喫する
ルートバーン・トラックと
マウントクック 10日間

出発日：1/24, 2/16, 2/26, 3/12
旅行代金：¥568,000~¥588,000 (大阪発着)



ニュージーランドアルプス国立公園
サザンアルプス・3大国立公園
パノラマ・ハイキング 8日間

出発日：1/24, 2/7, 2/28, 3/14, 3/21
旅行代金：¥443,000~¥475,000 (大阪発着)



ヒマラヤの山旅 一度は行きたい憧れの“世界の屋根”の懐へ

多くの登山者が目指すエベレスト山頂をたどる
エベレスト展望トレッキングと
シェルパの里 10日間

出発日：2/7, 3/14, 3/21, 3/28, 4/4
旅行代金：¥306,000 (大阪発着)



アンナプルナとダウラギリの雄姿を眺める
アンナプルナ・ダウラギリ
パノラマ・トレッキング 10日間

出発日：2/7, 3/14, 3/21, 3/28, 4/4
旅行代金：¥298,000 (大阪発着)



今も伝統文化を守り続ける素朴な小国へ
雷籠の国・ブータン
ヒマラヤ・ハイキング 7日間

出発日：2/21, 3/21
旅行代金：¥386,000 (大阪発着)



アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

南アフリカ・ドラケンスバーグ山脈ハイキングと
南部アフリカ最高峰登山、ケープタウン 9日間

大阪・福岡・名古屋・東京
出発日：2/21, 3/14
旅行代金：¥480,000

エジプト・ヨルダン周遊ハイキングと
シナイ山頂 10日間

大阪
出発日：2/12, 3/12, 4/9, 5/21
旅行代金：¥438,000~¥458,000

北欧屈指のオーロラ観測地
アビスコゆったり滞在 7日間

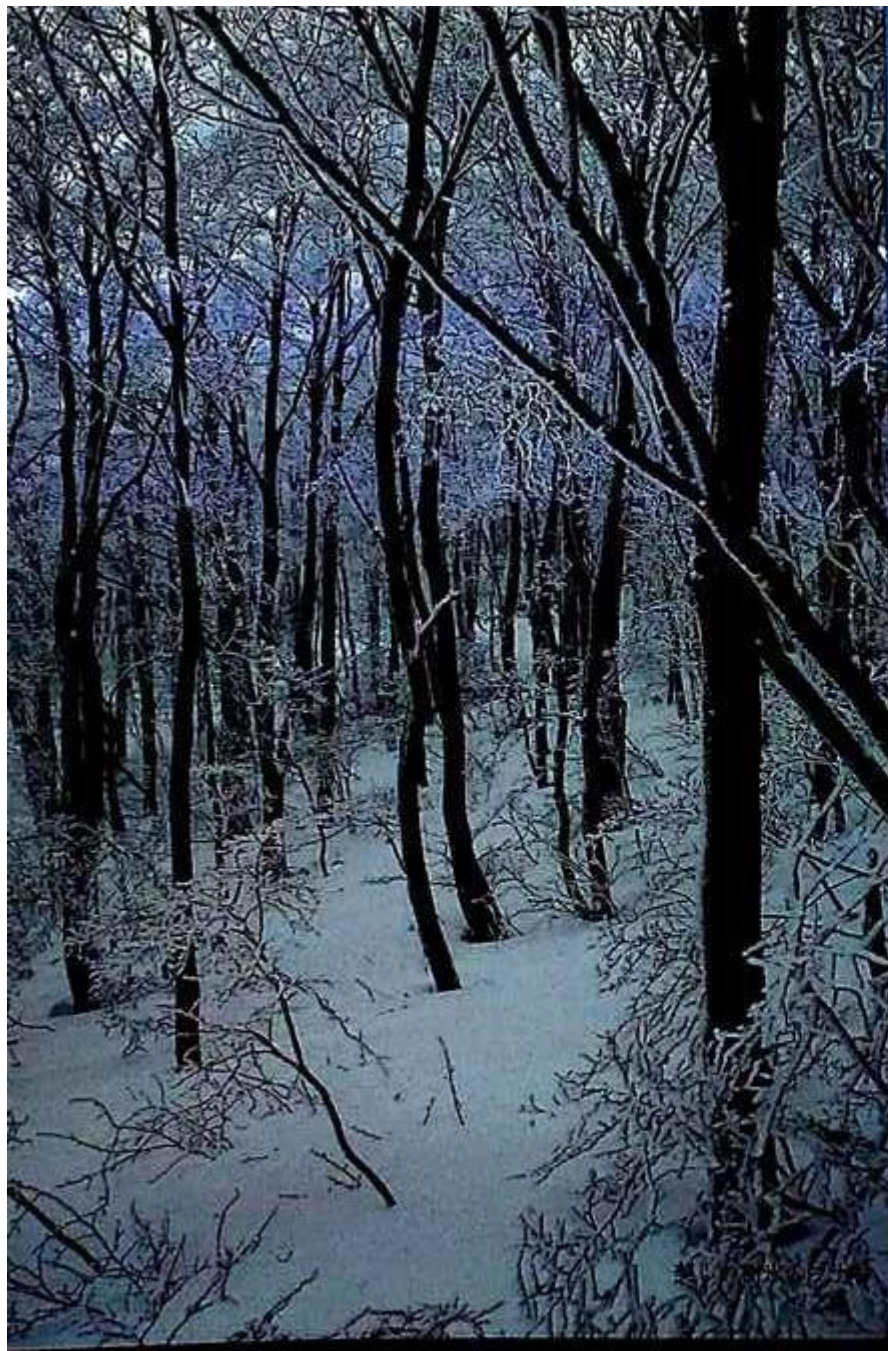
東京・大塚/東京駅西口徒歩約10分
出発日：2/14, 2/28, 3/7, 3/21
旅行代金：¥340,000~¥352,000

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

アルパインツアー株式会社
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
(南) 八千ゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)
e-mail: osaka@alpine-tour.com

40th Anniversary
たくさんのお客様に
支えられ
アルパインツアーは
創業40周年を
迎えることができました。
心よりお礼申し上げます。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します。



比良山系(コヤマノ岳山頂付近)

近江の山 樹木の四季 —新春—

山本 武人

比良・コヤマノ岳フナ林雪景色

(滋賀県大津市)

比良山系は04年4月にリフト・ロープウェイが廃止。比良スキー場もなくなった。そのため、武奈ヶ岳・コヤマノ岳への積雪期入山は難しくなった。

しかし、近年は雪も少ないことから、充分な装備とできれば数人で、多雪時でもラッセルしてフナ林へたどり着けば、すばらしい雪景色を味わうことが可能である。

特にコヤマノ岳フナ林は樹氷ができ、四季の中でこの時期だけが登山道以外のフナに出会える。姿・形のよい木を探して彷徨するのが楽しみである。



夕景 (檜原神社付近)

芹乃栄 (せりすなわらさかう)
 芹は七種粥の具になる野菜
 芹 薺 御行 繁樓 仏の座 菘
 蘿蔔 これぞ七種 「河海抄」
 萌え出た生命を自分に取り込む
 若菜摘は遊びではない厳肅な行事
 君がため春の野に出て若菜摘む
 我が衣手に雪は降りつつ
 年の初めに国や氏を望み見る国見
 竈から炊煙が上がってないのを見
 三年間租税を免除した仁徳天皇
 ゆったりと歳月が流れてゆく
 西の空が紅橙色に燃えている
 二上山の駱駝の瘤のような山あい
 に夕日が落ちていった



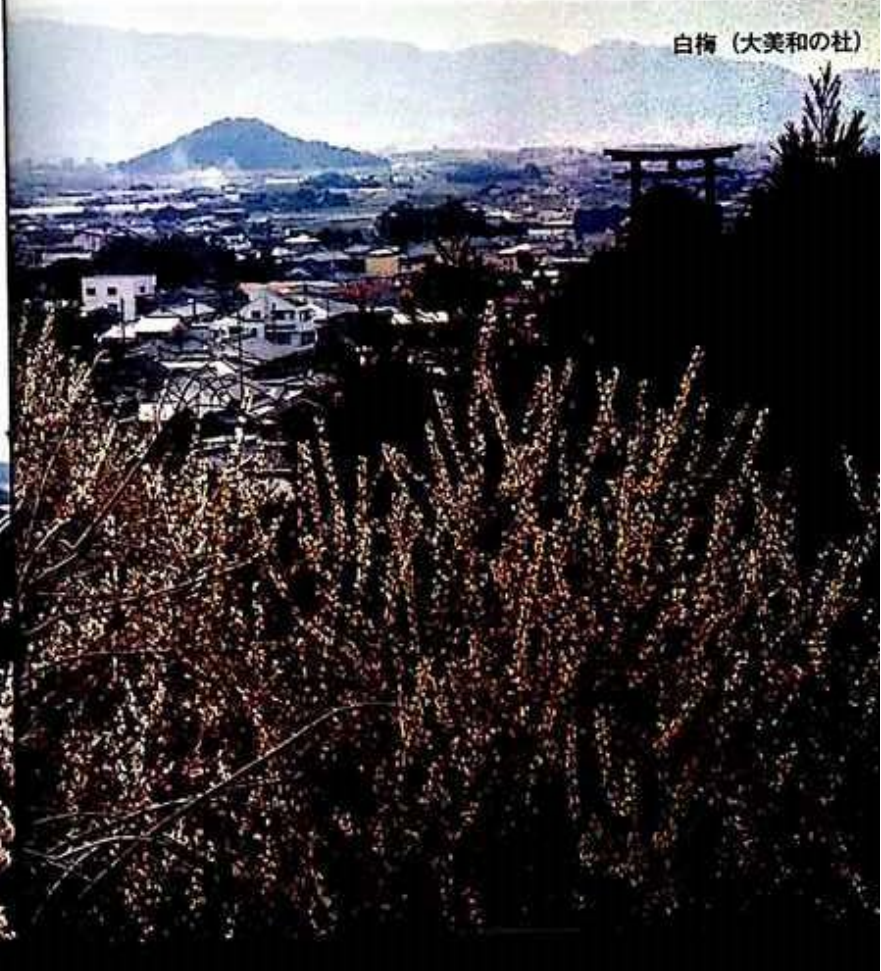
Photo essay

芹乃栄



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

白梅 (大美和の社)



季節の



竹林着雪



冬の日差し

実景

雪の美山 (京都北山)

撮影 武市通治

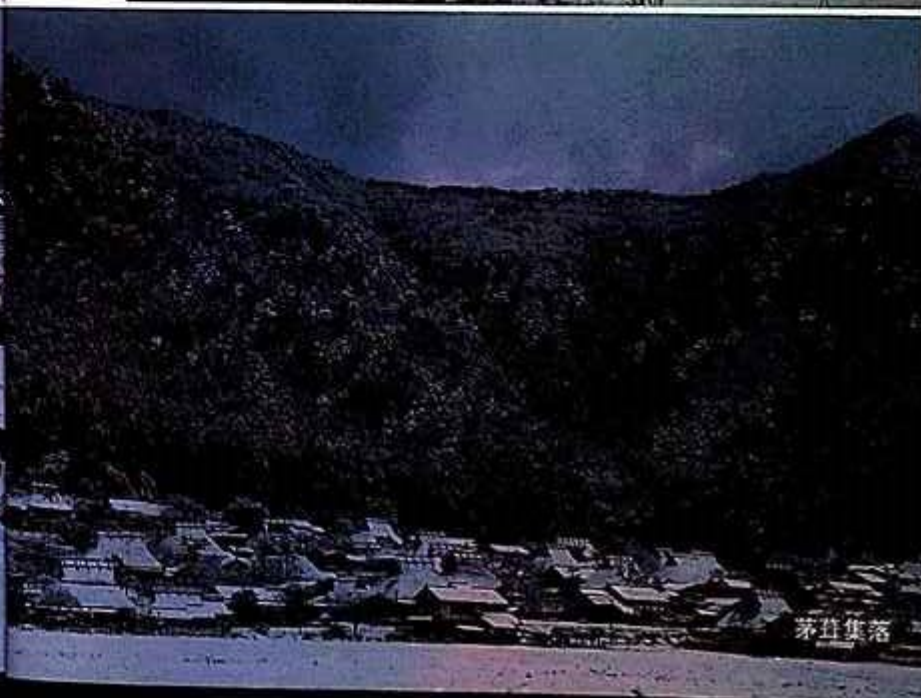
新春



由良川



道



茅葺集落



白旗のツナギ (北一乗院の北方) 松田 敏男



北アルプス遠景 (美ヶ原・王ヶ頭) 今村 克美



大御影山を望む (湖西・寒風の西方から) 西村 敏夫



冬日和 (鈴鹿・綿向山) 一芝 義雄

- 表紙 上高地より穂高岳を望む(北アルプス)→松田敏男
- 口絵 近江の山・樹林の四季→山本武人
- Photo essay「芹乃榮」→松水恵一
- 季節の実景「雪の美山」→武市通治
- 今村克美・一芝義雄・松田敏男・西村敏夫
- ゴーキョへの道で→奥田英一郎



フクジュソウ (西村文男)

ゴーキョへの道で —ネパールトレッキング—

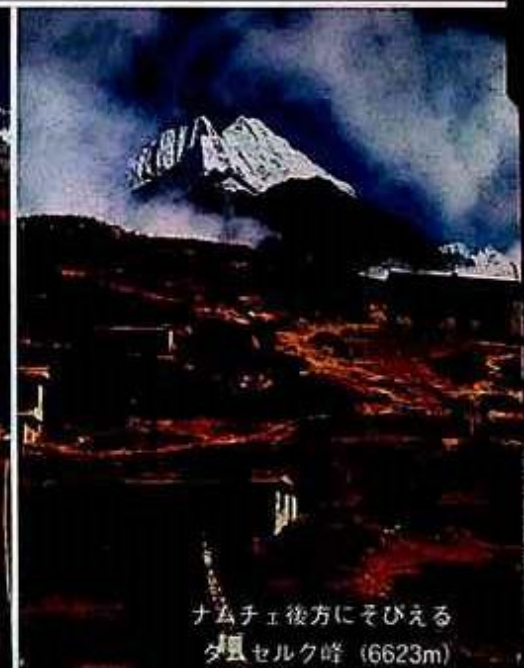
奥田 英一郎



アーヘントロートに映える
タウェツェ峰 (6501m)



クムション村の少女達
(後方はクンテリ峰 6011m)



ナムチェ後方にそびえる
ナムセルク峰 (6623m)

| | | | |
|-------------------------|-------------------------|-------|----|
| 特集 | 新春に歩く山 | 編集室 | 14 |
| ①横山岳 | | 18 | 16 |
| ②三國山 | | 16 | 14 |
| ③浅敷ヶ岳から城丹國境尾根 | | 14 | 12 |
| 紀行 | 大峰・鉢伏山・朝日山 | 磯部 純 | 20 |
| 武奈ヶ岳西南稜第一陸起直登 | | 小山 誠次 | 24 |
| 秀麗富嶽12景 | | 田中 明 | 30 |
| 明ヶ田尾山・鉢伏山・天上ヶ岳 | | 木村 太郎 | 44 |
| 連載紀行 | 標高による山の紹介 △△10位の山 | 松田 敏男 | 36 |
| 三角点を訪ねて「能内山と西峰山へ」 | | 磯部 純 | 57 |
| 韓国登山シリーズ「八公山」 | | 吉見 英樹 | 62 |
| 文学歴史ハイイク「傳聖・芭蕉の生誕地を訪ねて」 | | 松永 恵一 | 66 |
| 随想 | 愛宕山域に足踏み入れて | 長宗 清司 | 38 |
| 情報 | 登山と食事の改善でがんを治す | 村田 智俊 | 40 |
| 研究 | 旗振り通信の新研究「伊賀市で新発見の旗振り山」 | 柴田 昭彦 | 49 |
| レポ | 山の地名を歩く「大崩山」 | 西尾 寿一 | 70 |
| ①赤 | 寅年の山 | 生駒 俊峰 | 72 |
| ②赤 | 無限江山「新春に雪の積もる裏山へ登る楽しみ」 | 植上 俊雄 | 73 |
| コースガイド | ①一乗城山と朝倉氏館遺跡 | 長宗 清司 | 76 |
| ②榎(例)形山 | | 萩木 伸人 | 78 |
| ③男山(鳩ヶ峰)から石清水八幡宮 | | 松尾 一郎 | 80 |
| せせらぎ | 会員募集・新入会員紹介 | 111 | |
| サービスエディン | 原稿募集・編集後記 | 112 | |
| 山行計画・報告 | 広告索引 | 112 | |

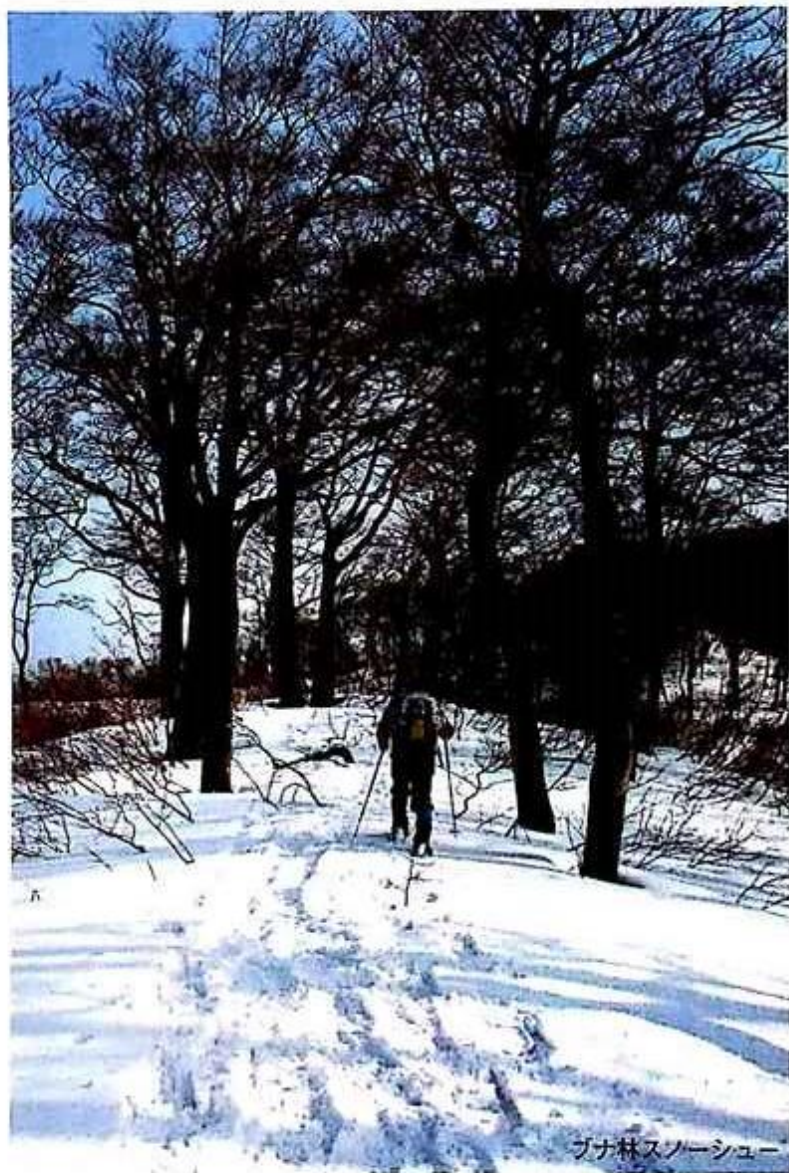
巻頭言

山を趣味とする人は幸せである。私も若い頃は魚釣りと将棋に熱中した一時期もあったが、30歳前に山登りを始めて30年以上になり、いまだに登山に夢中である。昨年は退職して時間に余裕ができたので、病は患ったものの、大いに山を楽しんだ。山登りは飽きがこないのだ。あれだけたくさんの山に登ったのにまだまだ登りたい山が残っている。リーダーとして例を計画するのだが、あの山にもこの山にもと迷ってしまう。

幸せとは、自分の好きなことが思い切り楽しい、いつまでも元気で頑張れることだろう。お金はいくらもないし、一山が終わってからもしばらく楽しかった余韻が残る、一週間経つとまたどこかの山に行きたくなる。

今年も元気がかぎり、大いに山に登って充実した毎日を通せればと考えている。

新ハイキング関西(代表) 村田智俊



ブナ林スノーシュー

特集

新春に歩く山 3コース

— 編集部 —

- ① 横山岳 (湖北・余呉トレイル・横山ルート)
- ② 三国山 (湖西・高島トレイル)
- ③ 栈敷ヶ岳から城丹国境尾根 (京都北山)

山頂を目指す



菅並から西尾根コースを登る

横山岳

中級コース(★★★)

余呉湖へ行くと必ず東側の新羅崎まで足をのばし、湖越しに横山岳を眺める。春夏秋冬装いを新たにしていそいそと立つ姿は感動的だ。呉枯ノ峰から首山寺の尾根、幕谷山を前山にして、その奥に頭をもたげ、山頂から東峰の吊り尾根を斜めに見せ、そして山頂から西側の尾根を高時川本流側へ長くゆるやかにのぼす。

横山岳の余呉側の麓には菅並集落があつて、この山をはじめとする高時川

源流の山と共に生きた歴史、民俗を今に伝えていて、それは洞寿院や六所神社の由来からも、在所には横山姓の多いことからもうかがい知ることができ。それが昔話になりつつあり、多くの山仕事の道もやぶに埋もれてしまひ、余呉側からの登路がすっかりなくなつてしまつたのである。

そうしたなか、ウッディバル余呉を拠点とする余呉トレイルクラブが山頂に至るルートの草を刈り、古道を復活

させたことは朗報だ。横山岳は一回登つて満足する山ではなく、季節を変え、様々なルートから登るにふさわしい名山であるからだ。余呉側からのルートは山頂西側の峰から菅並へのびる尾根とその南側の谷小市川沿いの鳥越への二ルートからなる。これによつて三高尾根道を経出して周回できる。尾根には天狗の森、山上にはブナ林、また杉林の谷には苔むした石垣があつて、その自然の雄大さや味わい深い歴史民俗とあいまって登りがいがある。

積雪期の横山岳は雪が積もつて歩きやい春先が一般的だ。特に4月になると麓の網谷林道の雪が融け、林道登山口の少し上から雪を踏んで快適にブナ林の東尾根を登るのが一般的だ。厳冬期はアプローナの長さ21000mに近い高度差から日帰りには容易でない。こうしたなかで菅並からの西尾根コースは、完全除雪される車道から直接尾根に取り付くことができ、大きな利点である。スノーシューは残雪の時は快適にちがひなく、新雪を蹴散らせて

登り下りする醍醐味もある。

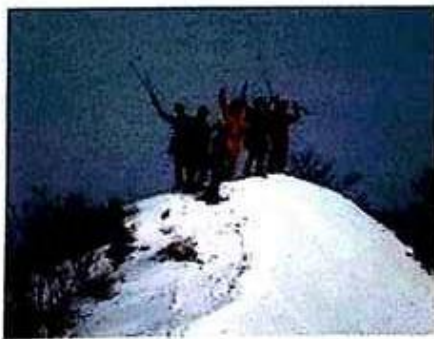
西尾根への取付点は、菅並手前の橋から県の指定木であるケヤキの巨樹を目印にする。スギ林を抜け林道へ出て南へ少し進むと法面の低くなった所だ。尾根頭の三角点までは急なので忠実に小尾根を登ろう。その先からは傾斜がゆるくなり、樹林の尾根を忠実に進む。ケヤキ広場は支尾根とのジョイント部分にあたり、台地上の枝振りのいい巨樹が印象的だ。ここから少し登ると展望が開け、高時川を挟んじつ頭

ケ岳が姿を見せる。尾根頭へ出て再び急登となるが、ここは広い斜面となつていて南側を登る。下りで迷いやすい地形なので帰りのために目印を付けて先へ進む。

やがて尾根は狭まりこんもりとした森が行く手を遮る。雪で隠されているが石灰岩の露頭天狗の森である。北側は切れ落ちているのでここも南寄りに登る。ここまで来ると前方にブナの巨樹が立ち並ぶ頂上の稜線が見えてくる。急な尾根を登り切ると頂上の西側へ出て、西峰と呼んでいよいよ頂上だ。北側が開け、三国岳から上谷山の中央分水嶺がとつさり雪を纏い迫力満点だ。三角点のある頂上へは高低差のない広いブナ尾根を稜線散歩で5分ほどで、余呉湖や琵琶湖の展望が広がる。《コースタイム》菅並から山頂まで無雪期では3時間30分ほどの登りだが、積雪期は雪の状態により4時間から4時間30分はみておきたい。下りはスノーシューに慣れた人なら無雪期の3時間30分をかなり短縮できるだろう。



横山岳山上の眺め



△地形図V2万5千「横山」救賢
(問い合わせ先)
ウッディバル余呉

☎074918614145
冬山経験の少ない人は、ウッディバル余呉・余呉トレイルクラブがスノーシュー登山のツアーを行なうので、これに参加して冬の横山岳を目指すといいだらう。2万5千の「余呉トレイルマップ」もここで手に入れることができる。

マキノ林道入口にのびる岩と雪のアルペン尾根

三
国
山

中級コース(★★★)

積雪期のこの山は見事なまでに姿身する。低木がすっかり雪に埋まり一面に雪原が登場し、雪庇を乗り越えて立つ山頂などりつばな雪稜となつて視界をさえぎるものは何もない。眼下に広がる隆起準平原はまさに雪の王国といった面持ちである。

とはいえ、マキノ高原から雪を踏みしめて赤坂山を越えて、または黒河峠からの道のりは遠く、雪の状態や天候に恵まれ、早朝から登り始めても道の

りは長い。登ることができたとしても、帰路のことを考えると気が抜けない。

ここに一本の尾根がある。明王禿からマキノ林道入口にのびる尾根だ。雪があれば三国山への最短路となり、さらに高島トレイルでは珍しく明王禿の雪と岩のすばらしい風景も堪能できる。林道入口は在原への道で除雪されていてアプローチも容易だ。

この尾根は、栗柄越へ登る尾根と同様に断層地形のケルンパットとコルを

も自由自在に歩くことができる。隆起準平原の雪山歩きは実に楽しいものだが、ホワイトアウトになれば一転してとても危険であり、赤布を付けて進むたい。

夏道とちがえて冬は中央分水嶺俵いに進む。山上のゆるやかな起伏の尾根を歩きやすい雪原をつないで行けば、山頂の雪稜は近くなり、斜面を登り雪庇を突き抜ければ目指す山頂だ。

天気がよく時間の余裕があれば、さらに尾根俵いに北へ歩を進めてみよ



う。隣のピークは山頂よりもさらに白い峰となって眼前に現れる。トレイスの無いすばらしい頂を独り占めする至福、そうそう味わえるものではない。

帰路は往路を戻るのが冬山の基本だ。自らのトレイスによって安全確実に下山することができる。冬の午後は風が吹き出すことが多く、トレイスが吹き消されがちなので、必ず赤布などの目印も付け、安全を期したい。

山慣れた人は準平原道過の後、天気が安定していれば黒河峠へ尾根俵いにくだり、峠からマキノ林道をたどる。自然歩道は擁道が多く積雪期はこれを避けてあくまでも尾根を忠実に伝う。

峠からの林道歩きは雪が積もれば快適で、スノーシューの滑りをきかせてリズムカルに歩けばあつという間に林道入口にたどり着く。

マキノ林道入口から明王禿まで、雪の状態にもよるが登り3時間はみておきたい。ここから山頂まで赤布を付けてながら1時間あまりのアルパイトとな

もち、その先は一気の登りで高度を稼ぐ急斜面となって、明王禿手前の尾根へ続く。そしてその先には黒河峠への白谷の支沢の源流が割り込んでいて、冬でも雪を融かして水は流れ、格好の水場となっている。山上は今までは一転してなだらかで広い。

ひと息ついたら正面に姿を現す明王禿の岩峰を目指して、尾根頭から傾斜がゆるくなった広い尾根を進む。どこか遠くの高山を登っているような気分にはさせられる所だ。12山12峠の高島トレイルだが、岩と雪のアルペン的ともいえる場所はここだけだ。岩場北側の夏道へ出て雪の急斜面を登って上に出る。眼下に広がるマキノの里山と琵琶湖の絵のような風景を味わったら、なだらかな雪尾根の上に頭を出す三国山へ向かう。

山上は隆起する前の穏やかな丘陵地帯が残る。小川のような沢があつて、わずかなアルパイトで残丘の山頂に立つことができし、あちらこちらに残る生きものの足跡を追って谷でも尾根で

る。スノーシューに慣れた人なら山頂から黒河峠まで1時間、林道は1時間足らずだ。

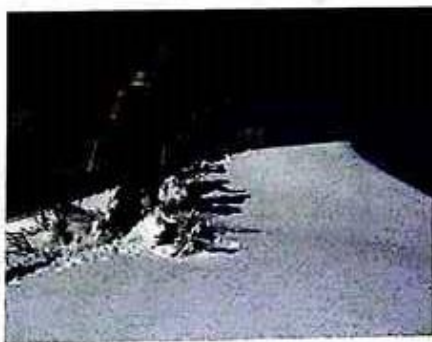
△地形図V2万5千Ⅱ教習
(間い合わせ先)

マキノ高原観光

☎0740-27-0936

雪の朝など、登山の前にメクセコイア並木に立ち寄りしたい。新雪を纏った姿はすばらしいの一語。帰路では雪が融けてしまつて美しさは半減する。

三国山山頂へ



雪山を楽しむ

棧敷ヶ岳から城丹国境尾根

さじき

じょうたん

中級コース(★★★)

城丹国境尾根は北山の雪山歩きに最適だ。積雪は多くとも20cmまで、展望を楽しみながら尾根歩きを堪能することができる。雪のなかを棧敷ヶ岳から周山までたどることになり、ややロングコースの中級向きとしたが、高低差の少ない尾根道なので、雪道に慣れた人ならまず大丈夫だろう。

京都地下鉄北大路駅からタクシーを利用して祖父谷林道の車止ゲートまで

行く。雪があってもスノータイヤのタクシーなら40分位で入ってくれる。下車後、すぐの鉄塔展望路に取り付く。稜線の鉄塔広場まで雪があっても1時間弱で登り着ける。鉄塔からは展望が広がり、北西方向に長くのびている城丹尾根を展望することができる。鉄塔広場でしばらく休憩したら、北へ棧敷ヶ岳を目指す。いったん鞍部に下り、樹林の尾根を登りつめれば棧敷ヶ岳の雪原が広がってくる。ここで

はザックを下ろし、ゆっくりと展望を楽しみながら、しばらく憩いたい。なおも北方にのびる尾根道をたどって行けば、やがてナベクロ峠にくだる。峠からやや登りになるが、鉄塔に登り着くと大パノラマが広がり、北山の峰々が眺望できる。ここでいよいよ、方角を西向きに変えて城丹国境尾根に入る。しばらく自然林のなかに平坦な雪道が続く。これからは、北山の雪山歩きの醍醐味と言わんばかり、雪道をルンルン気分です楽しんで歩くことができる。動物の足跡も点々とのびていよう。やがて、杉の植林帯に入り、くだって行くと大谷峠の鞍部に出合う。大谷峠からやや急な登りが続くがすぐに終わり、登り着いた山頂が飯森山である。ちょうどお昼時であろう。雪原のなか、弁当を広げてゆっくりと休憩できる。飯森山から天童山までは約1時間かかる。いったん急坂を滑るようにして鞍部にくんだり、電波反射板のピークへ

登り返す。反射板を過ぎればまたゆるやかな雪道を進み、少し登ったピークが天童山だ。山頂の直下にはパラグライダーが飛び立つ基地がある。松林に囲まれた広い山頂で北の展望が広がっている。

天童山からやや南に方向を変え、茶呑峠を目指す。しばらく植林帯の下り一方だが、急な箇所もあるので、いったん鞍部の時に下り立ったら休憩して先に進みたい。休憩地は樹林のなかで展望も無いが風も無いので、静かなひ

とときをコーヒーでも飲んでゆっくりしたい。

岩場を越えて茶呑峠にくだれば、城丹国境尾根歩きは終わる。ここからは方々に登山道がのびていて、左は大森へ、まっすぐは東俣山から余野へ、右へは鳴の堂を経て山国集落へ。いちばんのお薦めコースは山国への道だが、下りでも都合のよい京北町営のバス便は無い。周山までの長い国道歩きはつらいものがある。

このコースは、周山に直接くだるかモチ谷林道をとることにする。東俣山と山国への間の南西方向へくだる林道だ。上部は石ころが多く荒れているが、くだるにつれてやさしい地道の林道歩きとなる。峠から約1時間30分で周山バス停に近い下町集落に出る。殿橋を渡って国道を歩いてよいが、下町集落の山沿いの里道を伝って周山バス停へ行こう。周山からはJRバスの京都駅行きがある。

*なおこのコースは、1月24日(日)の新ハイ例会で実施する(村田)。



棧敷ヶ岳から城丹国境尾根付近図

北山の雪道



△雪山コースタイム▽
地下鉄京都駅(電車15分)北大路駅(タクシー40分)祖父谷林道車止め(40分)稜線の鉄塔(20分)棧敷ヶ岳(20分)ナベクロ峠(15分)鉄塔分岐(1時間)大谷峠(10分)飯森山(1時間)天童山(40分)茶呑峠(1時間30分)下町(30分)周山バス停(バス1時間30分)京都駅
△地図▽昭文社「京都北山」

湖北の里山 葛籠尾崎の北の山

おおのみね はちぶせやま あざひやま
大峰・鉢伏山・朝日山

湖北

磯部 純

琵琶湖の北、湖中に浮かぶ竹生島の真北にある名もなき半島の先端を葛籠尾崎と呼ぶ。日計山から南下した山並が、この半島の中央で東西に分かれる。この山に囲まれた半島南の入江には菅浦集落がある。昭和46年に奥琵琶湖パークウェイが建設されるまでは、菅浦への陸路は無く、外界との交通は船に頼っていたという。

菅浦には、天武天皇の孫の淳仁天皇が、惠美押勝（藤原仲麿）の乱で幽閉されていたが、集落にある須賀神社のある所が天皇の御陵であるといわれている。ちなみに葛籠尾崎の葛籠とは、淳仁天皇崩御の後、亡骸を葛籠に入れて運んだことによる。こんな「隠れ里」の周りの山を巡る低山山行があると聞き、参加することにした。

大峰山頂にて



この半島には7座の三等、四等三角点があるが、この半島の南半分を歩くこの山行では、3座の三角点を訪ねた。

京都の四条烏丸へ7時に集合。参加者は、私が京都府の三角点を訪ねるきっかけになった「京都府の三角点峰」（ナカニシヤ出版）を書いた横田和雄氏

がリーダーで、計5人。

二台の車に分乗して北へ走る。この日の降水確率は午前午後共40%で、雲は低く垂れ込め、今にも雨が降りそう。海津大崎から大浦を通り抜け、葛籠尾崎の半島を西側から廻り込んだ菅浦の国民宿舎前の駐車場へ車を置く。

ルートの説明を受け、奥琵琶湖パークウェイの舗装路を登り出す。道路が東から西へ向き、その先のヘアピンになっていく所から山の斜面に取り付く。斜面は急ですり落ちてしまいう

な杉林。先頭を登るリーダーはアツという間に姿が見えなくなるが、後に続く4人は滑り落ちないように一歩一歩登って行く。杉林が雑木林に変わり、勾配がゆるくなると尾根にのった。

この尾根の東南の先端には三角点、点名「菅浦」があるが、そこまでの距離が400m程あり、しかも四等三角点であることから踏むのを諦める。尾根上に残っているところからのびたのか古い踏跡をたどって北へと登る。踏跡といっても木の隙間や浅くえぐれた道跡で随所で枝が行く手を遮る。枝を払い木々を避けての登りだった。

次第に傾斜を増す尾根を登り、左からの尾根を合わせ、登る方向を右手へ振ると、雑木林から杉林の尾根に変わった。尾根に残る石垣の残骸が散らばる斜面を登ると、再び雑木林へ入った。下には獣道とも柚道ともとれる道跡が現れたり消えたりして上へと続いていた。あたりはミズナラやブナが目立つ。こんな低山に、深山を思わす林があることに感動すら覚えた。

緑濃い林を眺めながら尾根を登り、左手に平坦な尾根が見えてくると傾斜もゆるくなり、前方の木々の間に社の屋根を見る。近づくと、人の背丈程の社の前には二基の石灯籠が置かれている。社は古い時代のもではなさそうで、確たる道が無いのに人が再三訪れているようにうかがえる。社の中には幾つもの鈴がぶら下がっていて、社の奥には石仏が鎮座している。この祠を権現堂と呼ぶそうだが、何を祀っているのかわからない。

この社の横を通って50m程登ると、平坦な尾根になる。尾根の南斜面は杉林だったが、尾根上はすばらしい雑木林。平坦な山頂を東へ70mも歩くと、テーパーが賑々しく巻かれた木の下に、四つの保護石に囲まれた四等三角点埋められている。大峰、標高470.1mで、点名は「大浦」である。標石はシツカリと磁石の南を向いている。この山が、この半島の最高点で、木には山名標識もぶら下がっている。この山頂の西にあるピークをひとり



で踏みに行ったりリーダーが帰ってくる
と、すぐに出発となる。右手杉林左雑
木林の尾根を東へ向かうが、展望の無
い林のなかでは方向感覚が狂い、南へ
向いているような錯覚に陥る。ゆるく
くだって登り返し、東のピークから方
向を東南へ変え、やぶの尾根を時へ下
りた。時には「近江湖の辺の道」が左
斜面から来ている。

「近江湖の辺の道」とは、大津市の
近江舞子を基点として、琵琶湖沿岸を
北廻りに、近江八幡市の近江八幡国民
休暇村までを結ぶ全長約140⁰に及
ぶ長距離歩道のことである。この歩道
は、この峠から尾根を通過して標高
376⁰のピークを越え、奥琵琶湖
パークウェイの交点まで続いているの
で、峠から先はやぶを滑がないで済ん
だ。

西へ下りる歩道と分かれ、パーク
ウェイへ出た所が「羽衣の丘」と呼ぶ
展望所。眼下に琵琶湖を見下ろし、向
かい側には山本山から賤ヶ岳へ続く尾
根が横たわっている。遠くには己高

山の連なりや、小谷山の盛り上がり
霞んでいたが、横山岳や伊吹山はモヤ
に霞んで見ることはできない。こんな
光景を見ながら、ベンチに腰を下ろし
て昼食となった。

昼食後、車道を100⁰歩歩いて東側
の尾根に取り付く。やぶのなかの薄い
路跡をたどって、300⁰もゆるく登
ると、平坦な山頂のササやぶのなかに
三角点が埋められている。鉢伏山、標
高356⁰・5⁰で、点名も「鉢伏山」、
三等三角点である。標石は四つの保護
石に囲まれて立っており、磁石の南を
向いている。

写真を撮り終えんとすぐ出発する。
やぶの尾根を南へくだると、横を走っ
ているパークウェイへ下りた。パーク
ウェイからの東の展望がすばらしく、
西側の尾根を歩くことを止めて車道を
行くことにした。この先にある「もみ
じヶ丘」展望台でも休憩をとって展望
を楽しむが、すぐ出発となる。

左手に広がる琵琶湖の風景を見なが
ら車道を南へ歩く。大駐車場を左下に

見ると車道の先端は間近。車道のヘア
ピンから南へのびる道へ踏み込む。

ヘアピンから先はやぶ滑きを覚悟し
ていたが、地形図にある道が朝日山ま
でのびているようでホッとする。遊歩
道を400⁰も行くと「近江湖の辺の
道」の看板が立っていて、その道は西
へくだっている。ここで初めて「羽衣
の丘」で分かれた道が、どこをどう通っ
てきたのかわからなかったが、ここま
でのびているのを知った。最初の計画
では、南の朝日山の山頂から西へのび
る尾根をくだり、湖岸へ下りることに
なっていたが、この道があるならやぶ
滑きをして湖岸へ下りることはなく
引き返すことにした。

朝日山へは、尾根を登れば距離が短
いが遊歩道を歩く。道はピークを左か
ら右へ捲くようにゆるく登っていき、
ピークを一周したと思われる地点から
林を突っ切って登ると、山頂広場へ出
た。

広場正面の林が切れ、目の前に竹生
島が浮かび、カワウの糞書で枯れた

木々もシッカリと見えていた。平坦な
広場の真ん中に三角点標石だけがポツ
ンと立っている。標高293⁰・1⁰で、
点名は「朝日」、四等三角点である。
この標石も、磁石の南を向いている。

山頂でひと息ついて、「近江湖の辺
の道」分岐まで遊歩道を戻る。ここか



尾根にある近江湖の辺の道

ら西へ急斜面に切られた道をジグザグ
にくだと、20分程で湖岸の道へ下り
た。時間は14時20分とまだ早く、そこ
にあった「休憩所」まで300⁰の看
板を見て、葛籠尾崎にのびる道を行っ
てみることにした。行くと看板に偽り
ありで休憩所までは300⁰どころで
はなく500⁰はあり、皆は「ブツブ
ツ」。文句を言いながらも休憩所まで
来てみると、展望がすばらしく「来て
よかった」ことを実感した。

しばし休憩の後、湖岸の道を戻る。
左方の対岸には、車を置いた国民宿舎
が間近に見えているが、まだ3⁰は歩
かなくてはならない。10分も歩くと、
菅浦の集落。江戸時代には贈所藩の所
領であり、平安時代の記録にも載って
いる古い集落である。

集落入口には、厚い茅葺屋根を四本
の柱で支えた中空の建物が建ってい
る。その下には大きい板石が何枚も置
かれている。後で調べると、菅浦集落
の東西の入口にある「四足門」と呼ば
れる古い門で、下に置いてある板状の

石は、何か事がある時に出入口を塞い
だ石だという。

菅浦集落の湖岸道を西へ向かうと、
立派な船着場があった。そこを過ぎる
と、この集落には不釣り合いなほど立派
な神社が右手にある。

須賀神社と称し、祭神は素戔嗚尊と
言われているが、この地に幽閉された
淳仁天皇の御陵跡という。

フウフウ言いながら、やっと車へ
戻ってくると、それを待っていたよう
に、雨が降りだしてきた。

(平成20年9月5日歩く)

《コースタイム》

菅浦の国民宿舎前駐車場(5分)尾根
取付点(15分)支尾根(1時間)権現堂(5
分)大峰(40分)羽衣の丘展望台(20分)
鉢伏山(1時間)朝日山(30分)湖岸道
(10分)葛籠尾崎休憩所(30分)国民宿舎
前駐車場
△地形図V2万5千II竹生島

三舞谷さんまい両股間尾根から武奈ヶ岳

武奈ヶ岳西南稜第一隆起直登

比良

小山 誠次

本誌83号の「三舞谷南方尾根登高」で、三舞谷本流に沿う普濟禪寺からの登路を標高520mまで登り、そこから右股南方尾根ルート^ルートを報告した。その際、北方を眺めると常に現在地よりも標高の高い尾根がそびえていて、その当時から気になっていた。

今年の初回のチャレンジャーとして三舞谷両股間尾根から、武奈ヶ岳西南稜第一隆起（標高1120m）に達するルートを選ぶこととした。

(写真1) 第一隆起と西南稜と武奈ヶ岳



まだまだ開花には縁遠いようだ。

また、川の水辺には数羽のシラサギがいつも見かけるように小魚を狙っているが、本日はアオサギを目にしないようだ。先日、江戸時代の漢方書で、夏のアオサギはシラサギより美味で薬としても有用との記事を読んだので、その内容を思い出した。一度実際に食べてみたいものだ。今の時期はまだ薬しむべき花もないかと思っていると、高野玉岡町あたりの川辺にはユキヤナギが満開、白くて清楚な小さい花の集団が車窓からの景色を飾っていた。

大原では気温3℃、沿道の田畑には霜注意報の通り、一面に霜が降りている。坊村でも3℃。本日も相変わらずここで降車する人が多い。その中でひとりだけ輪ワカンジキを持参している人がある。筆者もネット情報で琵琶湖パレーの積雪が70cmと見て、やはり持参している。

8時45分、葛川梅の木に到着した。高度計を270mにセットし、ただちに三舞谷道登山口まで歩き、ここで

ゆっくりと登山準備を整えた。本日は途中までは三舞谷ルート^ルをそのままとる予定である。同57分、普濟禪寺すぐ横の三舞谷道との標識をあとにした。

といっても、久しぶりの登路なので、以前の記憶をたどりながら、杉の植林地帯のなかの急斜面をジグザグに登って行く。本誌83号のときは9月25日だったので、ヤマビルがアチコチに蠢いていたが、さすがに今の時期はヤマビルも非活動期にあるようだ。

そして、いよいよジグザグ道の最後は大きく三舞谷からいったん離れる。再び近づき、そのままガレ場を高巻きながら三舞谷本流に沿うユリ道に差し切り、見覚えのある地点に到着した。本誌83号のときは、ここから三舞谷南方尾根を目指したのだった。

すこし休憩したのち、三舞谷本流左岸に沿って、あまり高度も稼ぐことなく徐々に谷に近づいて行く。この道は本流から右股に沿っているが、途中で左右両股の合流部が左手下方にはつき

3月21日、前日の天気予報では、大阪・京都・滋賀及び福井嶺南の降水確率は全て午前・午後共0%で、滋賀県では強風注意報と霜注意報が発令されていた。当日朝には、近畿地方全域の内、大阪の午後の降水確率10%を除き、その他は全て0%である。ただし、滋賀県の霜注意報は引き続き出されている。

出町柳で朽木学校行きの京都バスを待っている間、いつものように準備体操しながら遠方を眺めると、確かに雲ひとつない青天であるが、黄砂によるのか何となく全天が霞んでいる。本日は降雨の狭間の快晴の日である。7時45分、バスは定刻に満員の乗客を乗せて発車した。

高野川辺にはセイヨウカラシナが大分成長しつつあるが、一茎だけもうすでに開花している。一方、川端通り沿いのソメイヨシノはまだまだ蕾は固く、かろうじてピンク色を呈している蕾が散見される。19日には京都で桜が開花したとのことだが、この桜はま

りと確認できた。そこからすぐの地点で、9時55分、ついに右股を渡った。このあたりではもう全く残雪すら見かけない。

そのまま本来の三舞谷ルート^ルをしばらくたどるが、大きく再び右股に近づくとようにルートが設定されている地点からは、いよいよ独自の三舞谷両股間尾根に向けてのルートを選んだ。しかし、最初から傾度50度位の急斜面が続く。このあたりでは尾根志は不明瞭なので、登高のために少しでもとりやすい斜面を選択するだけである。

時に直登したり、時にジグザグに登ったりするが、せめて獣道でもと思うが、鹿の糞は所どころに散見するものの、足跡はさほど明瞭でない。相変わらず木々の幹が支えになってくれることは言うまでもない。本日は降雨後の翌日なので、落ち葉の表面は乾燥しているが、一枚葉がすと中はまだジツトリと濡れている。

筆者にとっては2月11日以来の比良山登山だが、久しぶりのわりには少々



食をとって、そのまま御殿山コースを坊村までくだらうと、つい先刻までは思いつめていた。

しかしながら、北方に雄大な武奈ヶ岳と雪原の西南稜、さらには蓮葉山からコヤマノ岳に到る残雪風景を眺めていると、自然に足は武奈ヶ岳に向かう。13時11分に出発した。

西南稜を歩きながら、所どころ小川になっていく山道をうまく避け、また深く足のはまり込んだ積雪の跡をも避けながら行く。青天の見通しのいい尾

根歩きのもとで、今までの疲労もどこかに飛んでいってしまった。

13時35分、武奈ヶ岳に到着した。もうすでに下山して来る人も多かつたくらいなので、大半は昼食を済ませた人であろう。筆者も速くに連なる峰々と滔々と水を滾えた琵琶湖を眼前に、遅まきながら昼食を開始した。本日は全く無風である。

蓮葉山・打見山・シヤクシコバの頭・御殿山の北斜面にはまだまだ残雪が多い(写真3)が、釣瓶岳・蛇谷ヶ峰の南斜面はほとんど融雪している(写真4)。黄砂の所為か、伊吹山がからうじてわかる程度だが、湖を挟んだ鈴鹿山脈の山影だけはクッキリとしている。

さて、約1時間、山上で3月の温暖な気候のもとでの青天と想う、このうえない心地好さを満喫した。後は下山するだけである。もう一度西南稜を歩きたくなったので、坊村に向けて下山開始である(写真5)。

最初の急坂をくだると、草原状の広

(写真3) 蓮葉山～シヤクシコバの頭北面の残雪



(写真2) 山道のごとき地形

敷しいコースを選びすぎたようだ。といつても、いまだら引き返すわけにもいかず、このまま頑張り続けるしかない。後方を振り返ると、白倉南岳の谷に積雪が残っているのはるか遠方に除められた。

10時38分、標高7100mでちよつと休憩する。このあたりまで登ると、周

囲にはアセビが多くなってくる。体を支えるためにアセビにもだいたいお世話になった。とにかく本日はちよつと登ってもすぐ休みたくなる。やはり体が多少鈍っているのかもしれないなあと考え直す。

11時6分、標高7900mで、一見したところ山道のように思われる地形に出合った(写真2)。写真では緩斜面のように見えるが、実はなかなか急斜面である。そのうえ、枯れ葉が厚く蓋っていて、かえって縁を通ったほうが歩きやすいくらいだ。といつても、この地形はどこまでも続くことはない。

このあたりで後方を振り返ると、木々の枝越しに、あの独特の形状の白倉岳と白倉中岳が望めるようになる。高度的にはあと少しで白倉岳の頂上に達するようだ。周囲を見回してもまだ残雪は見かけない。

11時55分、標高9500mに達し、ここで初めて雪田を見かけることとなった。5分後に出発したが、右手には御

殿山コースがよく望めるようになってきたと思うと、左手の窪地には雪田ががぜん多くなってきた。すると、右手にはいまだ残雪が明瞭な御殿山北面がすぐそこにあるではないか。

しかし、実はこのあたりは本日最も歩きづらい場所である。斜面というよりも、イヌツゲを始めとする低木のやぶが行く手を阻んでいるからである。ずっと今までは疎林帯でありがたかつた。あとわずかでゴールのはずなのに、思わずやぶのなかで休憩せざるを得なかった。

後方を振り返ると、すでに白倉岳連峰を確実に超え、また鎌倉山の中腹の林道もよくわかる。「さあ、あと少しだ」と、改めて気合いを入れてやぶをかいくくると、13時6分、ようやく武奈ヶ岳西南稜第一陸起に到達した。そして、待っていたかのように、直後に仕事の電話がかかってきた。

実は途中からは久しぶりのこともあって、非常にしんどかった。何とか第一陸起に到着したのは、そこで足

い尾根のたどり着いた場所が武奈ヶ岳西南稜第二陸起(標高11300m)である。第一陸起は地形図でも等高線上明白だが、第二陸起は等高線上の特異性はない。本日は第一陸起直登だったので、そのうちに第二陸起直登を計画したい。

第二陸起を過ぎると、第一陸起まで



(写真4) 融雪した釣瓶岳～蛇ヶヶ峰方面



(写真5) 下山する西南稜と第一隆起と御殿山

臨時に小川となった山道をたどることになる。改めて第一隆起に立ち、苦しかった午前中を懐しく感じながら御殿山に向かう。

実は本日のコースで、ワサビ峠の付近に最も深い積雪が残っている。地形的にも御殿山の北斜面に当たるから、いっそう残雪が多いのであろう。本日は言わば、第一隆起の西斜面登高だったが、本来の三舞谷コースならば、もっ

と低い標高から残雪と格闘していたであらう。

さて、御殿山も久しぶりである。改めてここから第一隆起と西南稜と武奈ヶ岳とを一望するアングルで写真に収めた(写真1)。あとは下り一方である。御殿山を出発したのは15時19分で、坊村での京都バス到着までまだ2時間もある。余裕で下山路をたどることとした。

しばらくくたると、大きく右手の尾根ルートと左手の谷ノ山腹ルートとの分岐点にやってきた。本日のようにまだまだ残雪のある時期ならば、前者のほうが歩きやすいと判断し、断崖の上を通るルートを選んだ。午前中の登高時、右手上方に見えていたのはこの付近であらうと推測した。

やがて尾根ルートと谷ノ山腹ルートが再び合流し、今度は山腹を捲くルートを歩き始める。一ヶ所、雪深い時期でマーカーを視認しづらい時間帯ならば、間違ったルートをたどりやすい場所もあったが難なく通過し、途中の唯一の平坦地も通過した。

後はジグザグの下りルートをたどるのみである。国道367号の路面が木々の隙間から見え始めるとあとわずかである。登山口に到着すると、明王院の建設中の仏殿が目に入った。

地主神社の境内に坐ると16時30分である。ホットコーヒーを飲み、登山装備を解いて本日の山行をいろいろ思い返らしていると、苦しかったにもか

かわらず、楽しい時間帯が浮かんできた。

17時21分発の出町柳行きに乗り、終点には18時26分に到着した。春分日の翌日なので、だいぶ昼間も長くなったのがよくわかる。

久しぶりの比良山登山だった。武奈ヶ岳西南稜第一隆起は御殿山から武奈ヶ岳を眺めるとき、必ず目に入る小ピークであるが、もう少し標高が高ければ必ず独自に命名されていたはずである。直登自体は非常にしんどかったが、登り切ればその苦しさを忘れるのはいつもの通りである。

最後に、本日の山行時情を七言絶句に託して表現した。崎嶇は山道の険し

い様をいい、巒は頂上の丸い山、即ちここでは武奈ヶ岳を指し、連嶺は遠くに連なる峰々をいう。

拙作
芳信未知高野川
崎嶇坐巒雪晴天
立巒何顧股間嶺
連嶺滔湖気爽然
(意)

花便りは未だ高野川辺の桜には届いていない。険しい登路で数に出合い、思わずへたり込むが、残雪が快晴の空に映えている。武奈ヶ岳に立てば、どうして股間の嶺の苦しさを顧みることがあろうか、遠くに連なる峰々と水が滔々と湛えた湖を眺めて、気分は爽然

四手井綱英が語る これからの日本の森林づくり

四手井綱英著

四六判/一八四頁/一七〇〇円

◎森林生態学の創始者 四手井綱英が言い遺す―
森林生態学の先駆者「これからの日本のありか」を「せりや」
「はやし」を代わっていくのか、賢明な提言を遺す。

森林はモリやハヤシではない

私の森林論 四手井綱英著

四六判/二八八頁/二一〇〇円

本当の老人は、このように毅然として語れる人なのだ。
池内紀氏「北海道新聞」書評
里山の名づけ親としても知られる森林生態学の大家が、
年九十四歳にして書き綴った渾身のメッセージ。

★表示の価格は5%税込です
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 平606-8161

富士見山行

秀麗富嶽12景

甲州

田中 明

鶴ヶ島屋山からの秀麗富嶽



「富士の眺めが日本一美しい街」と大々的にPRする山梨県大月市のパンフレットにつられ、山頂から秀麗富嶽を眺める山旅に出かけることにした。

この秀麗富嶽を見る山は、JR中央本線の駅前登山として大人気で、ハイカーが引きも切らないようである。地図を広げるとほとんどのコースが、駅から直接登山口まで歩いて行ける山ばかりであり、バス・マイカー・タクシーなど不要で何とも便利でお手軽な山ハイクが楽しめる。今回、秀麗富嶽12景のうち、南部の6番山頂から12番山頂の山々を4日間で登ってきた。

だがこれを見送り、左の道のスギ・ヒノキの植林地を登り、自然林となると女坂だ。新しい道の男坂はやや急登で所どころにロープもあるがそんなに危険な箇所は無い。

今回は女坂を直進して行こうとゆるやかな山腹を、右下に谷筋を見下ろしながら進む。沢コースが右から合流し、さらに直進すると羽根子山分岐の稜線にのれるが、ここで左折すれば高川山頂上は近い。

少し登って顔を上げると、岩の上に犬が鎮座している。頂上周辺にいつもいるピッキという名の首輪を着けた

| 秀麗富嶽12景 (大月市産業観光課) | |
|-----------------------|---------------|
| 1番 | 雁ヶ腹摺山、姥子山 |
| 2番 | 牛鼻ノ雁ヶ腹摺山、小金沢山 |
| 3番 | 大蔵高丸、ハマイバ |
| 4番 | 滝子山、笹子雁ヶ腹摺山 |
| 5番 | 奈良倉山 |
| 6番 | 鷹山 |
| 7番 | 百蔵山 |
| 8番 | 岩殿山、お伊勢山 |
| 9番 | 高畑山、倉岳山 |
| 10番 | 九鬼山 |
| 11番 | 高川山 |
| 12番 | 本社ヶ丸、清八山 |

雑種犬だ。以前からネット上で知っていたのだが、前回は小雨混じりの日に出会えなかった。きょうは山頂へ向けて道案内してくれた。意外に従順でワン的一声もなく、頂上でもきちっと足を揃えて行儀がいい。

もう8年近くもここで登山者から食べものをもらい、生きていたようだ。以前から山頂に野良犬がとの賛否両論あり、都留市の保健所が捕獲に苦慮しているようだ。いずれにしても大好きな人に飼われるのが本望だろう。

ところで、高川山山頂からは南西方向に富士山がどっしりそびえ、それを引き立てるかのように御正体山、杓子山、三ツ峠山などが連なる展望は抜群らしいが、今回は3月上旬の暖かさとなつてしまい、またしても富嶽は雲のなかとなくなつてしまった。

下りコースはいきなり露岩のロープを頼り、シラノサワコースを古宿へ広々としたゴルフ場を右に見下ろしながら、下りることになった。

自然林のなかに枯れ葉をいっばい残

したヤマコウバシヤコナラの森の林床に群落で立つイヌガヤを見ながら林道へ飛び出し、富士急米生駅から国道139号を落合橋まで進む。右前方にこれから登る九鬼山を見上げながら、富士も見えないのにまた登るのかと思ひ、とほとほと歩くのは辛かった。

10番山頂の九鬼山(970m)への登りは直登のために1時間少しかかる。きょうは愛宕神社横から天狗岩の展望を確認し、山頂手前直下西側の富士見平の展望地で富士の顔が見られると期待しながら昼食をとるが、最後まで真っ白な状態は変わらなかった。

この後、山頂を踏んでややガレた岩場をくだり、紺場休場から札金峠手前よりキャンプ場へ歩き、後は富士急田野倉駅まで補装路を行くことになった。

2日目、最高の富士見日和となつてくれた。9番山頂の倉岳山(990.1m)はJR梁川から歩き、唐栗登山口より月夜根沢をつめると樹高はゆうに



20分は超え、目通し9分ともいわれるトチノキの古木群に着く。それから少し上がるとベンチのある水場で昼食用に補給した。

立野峠まで登り、稜線に出ると雑木林の南側にバッチリ待望の富士が見えた。よし、早く頂上へ上がって眺めよう。さらに急登につぐ急登をこなして2時間弱で到着した。

今回の山行での最初の富士山がここであろう秀麗富嶽となってくれた。南西側の松の木を借景に酔いしれるような景観である。

ここで富士をご馳走に昼食をとろうと時計を見るもまだ10時前、仕方ない、次の同じ9番山頂の高畑山(981.9m)へ進もうとまた激下りから穴路峠へ、そしてやや登って天神山に来ると、ここは北西側がパッと開けて大菩薩連嶺がずらりと顔見世である。

腰ヶ腹摺山、黒岳、白谷丸だろ。大菩薩は小さい。右へ振ると雲取山、手前に権現山など重畳たる山々が幾重にも重なっている。

地に立とうと心に決め、すこすこと杖を留める宿へ向かった。

3日目、3月上旬の暖かさとなったが、それでも最初の6番山頂扇山(1137.8m)からは何とか富士も見ることができた。

JR鳥沢駅から登山口の梨の木平まで45分程でほとんど舗装路を歩き、ここからようやく山道となり、また40分程登ると最初の富士展望地だ。「やったい」きょうはダメかと登って来たが、九鬼山・杓子山・倉見山を前景にして富士山がしっかりと待っていてくれた。

「よし頂上からでも」と期待しながら足は速くなり駅から2時間で扇山に到着した。富士はやや雲が付きかけていたが、草原のような原っぱにカラマツが見事な頂上から、何とか富士を見ることができた。もちろん北側の奥多摩方面の大岳山・御前山まで同定できたとし二度目にして満足の頂上だった。きょうの歩きはこの山だけではな

小ピークを過ぎると高畑山だ。ここは展望は「どうして？」と言いたくなるような状態である。桧や松の枝がのびすぎて富士はほとんど隠れており、秀麗富嶽が泣かんばかりである。大月市発行のパンフはまさに牛頭馬肉と言わざるを得ないだろう。

展望の無い狭い頂上でやむなく昼食を済ませ、そそくさと北面の樹林帯の坂道を転げるようにくだってJR鳥沢へ帰ってきた。

時間は13時、すぐに今度は大月駅前にある8番山頂の岩殿山(634.1m)に電車で移動だ。この山は、戦国時代に武田氏の家来であった小山田信重の城址としても市を築げての観光に一役買っている名所である。

ところが14時頃で、頂上からの富士はぼちり光り輝いているのだが、まともな逆光で安物デジでは捕らえることはできない。腕も悪いので放心状態で、三の丸跡地より泣く泣く富士を眺めているわが身が悲しい。よし、次の四度目こそ午前中の行程を組んでこの

く、続いて西隣の7番山頂百蔵山(1003.4m)が待っている。

そのルートは大久保山から300mも激下りをやってさらにカンパノ頭から約200mを登るアルバイトである。道は落ち葉で踏跡薄いが、3月上旬の暖かさで残雪は消えており、おかげで何なく歩き通すことができた。

と言っても、フウフウと汗をかきながら百蔵山頂上に着くと、「お目当ての富士は雲のなかに入ったよ」との先行者のつれない返事に唖然と坐り込んでしまった。

整備されたおだやかな芝生の山頂には30人ばかりが賑やかに食事中であり、その後もどんどん増える登山者に、こちらも早くしようとコップフェルを広げて温かい食事にありついた。

食事をとりながら多くの桜がまわりに植栽されているのに気づいた。次回にこそ岩殿山の二山の桜満開の時期に来るにはどう歩けばよいのだろうか、早くも地図を広げて見入っているのであった。そうこうするうちに周囲

は酒が酒を呼び大声の一団と化しているため腰を上げ、のちは前回と同じ道を行く。907ピークから山の神を通り、百蔵山登山口のJ.R. 猿橋駅へ下山した。

4日目、最終日は最高の富士見日となってくれた。12番山頂の清八山(1593m)と本社ヶ丸(1630.8m)に登る。

宿の関係から最終日は約16時、さらに最後に急坂を下りるというコースであったが、いたしかたない。少々足もお疲れモードだが何とか完歩すべく、のんびり行こうと心に決め、J.R. 猿橋駅を7時半に歩き出した。国道20号はトラックがフルスピードで激走する。その脇を迫分まで行き、車も走らない東電東山梨変電所までの舗装路を南向きにゆるやかに上り気味に進み、駅から1時間10分程度で登山口から山道に入る。

付近は伐採作業がほぼ終わったよう高度を上げると視界がきき、振り返れば登れば、二度目の本社ヶ丸である。この山頂は岩上にあつて狭いが展望は欲しいままである。まず南の電波塔の林立する三ツ峠の奥に富士の言わずもがなの堂々たる姿に惚れはれしてしまう。さらに南アの精鋭たちに八ツや狭父の山々など、思わず「うーん」と唸ってしまうのだ。

強風を避けるため南側の一段低い場所を確保してのんびりと昼食にする。こんなに美味しいお昼も久しぶりなかつた。富士を見ながらひとり悦にいら、これぞ至福の時を過ごし1時間はゆうに過ぎた。

この後2時間の長い稜線歩きは小さなピークの連続で思ひのほか体力が必要となる。そんななかにも右側にずつと富士が元気づけてくれ、最後の鶴ヶ島屋山手前でまた秀麗な富士や延々たどってきた本社ヶ丸の稜線を振り返り、後は最後のひと登りで鶴ヶ島屋山の最終ピークをやったのだ。ここはいつも人影は無く静かな山頂だが、やや樹林が眺望を妨げる。しかし、こ

ると笹子崖ヶ嶺・米沢山・お坊山から右に滝子山、そして南大菩薩の山々などがずらりと並んでいる。さらに登ると笹子崖ヶ嶺の方向には甲武信だろ、白銀を纏っている。右手前にも白銀の大菩薩が望める。いや、こんな所で山座阿定をしている場合ではない、稜線に出ればもつと見られるのだからとどんでん標高を稼ぎ、展望台ベッチで一本たてると、清八峠までひと登りだ。

展望台あたりから登山道に凍結の残雪が出始めてロー状態の歩きとなつてしまった。峠からすぐで清八山だが、付近は台風のような強風が荒れまくつていて、近くの樹林がなぎ倒されるのではと恐ろしくいらだつた。清八山からの富士の眺望に出会えた瞬間、何もかも忘れて小さなピークから見入るばかりであった。

思えば、これまで何度この山を通過したことだろうか。三ツ峠山から来るとうしてもお花が主体の山歩きのため、富士の姿が見えない時期ばかり

ナラなどを入れて左側の山裾を長く見せる富士も誠に言い尽し難いものがある。この後はロープを設置してほしいような激下り坂を3ヶ所やり過ごすともう危険箇所もなく、富士展望の山旅をルンルン気分できだる。松の樹林地帯では薄暗くなつてしま、林道から近ヶ坂橋へ下り立ち、J.R. 初狩駅まで行くと、16時を回っていた。

今回ほど富士山展望の幸せを感じる山旅も多くはないだろう。次に向かう山城を、内証は火の車を忘れ、電車で身を委ねながら思案にくれているのであった。(平成21年2月5日8日歩)

だったのだ。

そして鶴ヶ島岳やその西にピラミッドな鋭峰を持ち上げる釈迦岳も指呼の間だが、何ととってもその奥に並ぶアノ山々には感激する。甲斐駒から白峰三山、そして悪沢、赤石、聖がオンパレードだ。

うなる強風に急かされて清八峠へ凍結道に注意しながら引き返し、次は東へ本社ヶ丸の手前の露岩へ取り付く。峠からの稜線はやや岩道となるがそれほど危なくはない。露岩は5、6段四方の平べったいので展望には好都合であり、富士に南ア、八ツ、金峰、甲武信、大菩薩連嶺など見放題の大スクリーンが眼前に用意されている。

耳も千切れんばかりの鉄策で、強風のなかにはつりばつりと単独行や2人組の登山者もやつてくる。同じようにこの景色を見るための登山だろう。互いに一言二言交わす言葉も短い。山登りの醍醐味を味わう瞬間でもあるのだ。気分も絶好調となり、さらに岩場を左に廻り込み岩角突き出す斜面を攀

(6日) J.R. 薬川駅7:55 | 唐栗橋8:05 | トチノキ古木群8:25 | 最後の水場9:00 | 立野峠9:20 | 倉岳山9:45 | 10 | 天神山10:20 | 高畑山10:45 (昼食) 11:30 | 小森原12:30 | J.R. 鳥沢駅13:00 | 19 (電車) J.R. 大月駅13:28 | 岩殿山14:09 | 30 | J.R. 大月駅14:50

(7日) J.R. 鳥沢駅7:42 | 梨の木平8:26 | ベンチ展望台9:10 | 20 | 扇山9:40 | 51 | 大久保山10:00 | 宮谷分岐10:32 | 百蔵山11:07 (昼食) 12:07 | 登山口13:05 | J.R. 猿橋駅13:30

(8日) J.R. 猿橋駅7:42 | 迫分7:56 | 登山口8:45 | ベンチ展望台9:30 | 40 | 清八峠10:00 | 清八山10:06 | 13 | 清八峠10:17 | 露岩10:29 | 40 | 本社ヶ丸10:52 (昼食) 11:53 | 鉄塔12:30 | 角研山12:47 | ヤグラ跡13:11 | 展望地13:44 | 鶴ヶ島屋山13:55 | 14 | 10 | 近ヶ坂橋15:31 | J.R. 初狩駅16:10

新ハイ関西110号
標高△△10mの山

氷ノ山 (1510m) 兵庫・鳥取県境
銚子ヶ峰 (1810m) 白山山系
綿向山 (1110m) 鈴鹿山脈

だれもない避難小屋には泊まらずに、山頂の広場にテントを張って、霧にそぼ降れる風情を味わった。
(平成14年9月22日、23日歩く)
△コースタイム△
銚子ヶ峰バス停(5時間)氷ノ山(4時間)東尾根経由、銚子ヶ峰バス停
△地図▽昭文社「氷ノ山・銚子ヶ峰・神鍋」

銚子ヶ峰

水ノ山
四回登っている。1月と2月に山スキーで日帰り登山をしたものと、5月と9月に山頂でテント泊した山行だ。いちばん新しい山行は9月の単独行。早朝に家を出て、JRとバスを乗り継いで銚子ヶ峰から歩き始めたのは正午30分前。車道を少し歩いて登山道に入り、不動ノ滝を左に見たのち小豆ころがしの急登を登り終えると地蔵堂に出た。

再び急な登りが続き、たどり着いた氷ノ越は霧のなかだった。小さな避難小屋に入って、厳しくなった環境にしっかりと心を合わせるべく小休止した。すると、賑やかな軽装の1団が足早に下りて来た。小屋には入らずに西側の鳥取県若桜町の方へ声は遠のいていった。一瞬手帳を山の雰囲気がつくり出されて心の和む感じがしたけれど、その後は先ほど以上に静かな、とても静かな霧の山稜となった。山頂までの稜線はブナ林が濃い霧のなかからヌツと浮かび上がってくる道だった。

綿向山



雨露に濡れたショウジョウバカマ

の猛烈な湧流には恐怖を感じた。雨上がりの登山道は雨具を着ないと濡れてしまうおそれがあったが、道端のそこそこに咲くショウジョウバカマの花に付いた雨露がメルヘンチックに光り、花の周りの幾重にも重なった葉や、またその下の地面に敷きつめた枯れ草でさえも控え目に日の光を照り返し合う。それはそれはキラキラと美しい道だった。目指す銚子ヶ峰は横一線の残雪が白く、大空は青一色だ。サンカヨウやリュウキンカの咲く水場で小屋泊の水を補給したあと、小屋に荷物を置いて銚子ヶ峰を往復した。銚子ヶ峰の山頂はまさに360度の大展望。まだかなり雪の残る別山が大きく望まれ、その立派な姿はたいへんに印象的だった。

△コースタイム△
石徹白山登山口(2時間30分)神鍋ノ宮越避難小屋(3時間)銚子ヶ峰往復
△地図▽昭文社「白山・荒島岳」

山頂近くにはブナ林もあり、また山頂からの湖国の展望もよいことから人気の山だ。私も季節を変えて五回登ったが、山頂での人の多さを除けば、思い出多い山である。その中でも5月のシャクナゲの開花期に登った北側の尾根が最も印象深かった。西明寺から竜王山へ登り、大きく尾根を廻り込んで綿向山の急な北尾根を登り始めると、密度の高いシャクナゲの群落があった。霧が立ち込めていたので、白く煙る緑色の林の中にシャクナゲの赤色がひととき目立って美しくかった。シャクナゲの林を過ぎ、ブナ林に入る。ブナ林も霧のおかげで雨達の気が横溢していて美しかった。

△コースタイム△
西明寺(3時間30分)竜王山を経て綿向山(2時間)表参道を経て西明寺
△地図▽昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

随想

山のエッセイ

愛発山城に

足踏み入れて

長宗 清司

八田の野の浅茅色付く有乳山 峰の沫雪寒く考るらし

(万葉集巻第十の二三三五)

この歌は柿本人麻呂の作といわれている。ほかに、藤原仲実や西行法師、源雅光らも愛発(有乳)山を詠んでいる。「あらし山」は、昔は有乳・愛発・安良智などと書かれていた。

愛発山は、古書「雅緑脚紀行」によると、国境山

中の西方、乗鞍岳の北方にある786・811の山(現山中山)である。

「太平記」(巻二七)には「上杉高山流罪死刑事」の道行文とか、謡曲「安宅」の道行きに「しののめ早く明け行けば浅茅色付く愛発山」とあり、古くからこのあたりは都びとも知られていたのであろう。

この地は、源義経一行の都落ちや新田義貞の北国へ逃れた途次の地名として名を残している。何と云っても義経主従が兄頼朝の追っ手を逃れて、愛発の間を避

け、山中を越後に抜け出た重要な場所だからである。

琵琶湖岸の榎並木で有名な海津大崎の波打ち際に「義経の隠れ岩」がある。

ここから義経一行は、この山城に分け入ったことは間違いないのだが、コースがはっきりしない。当然、追われる身で昼は野に伏し潜み、夜に行動するのだから、記録にないのが当たり前だが、歴史ファンとしては、何かの手がかりをつかみたい気分を探りたがる。

「義経記」(巻第七)の「愛発山の事」という条に「判官は、海津の浦を立ち給ひて、近江の国と越前の境なる愛発山へぞかかり給ふ。さらに、「愛発の山と申すは人跡絶えて枯れ、古木立巖石巖々として道素直ならぬ山なれば岩角を敲て水の根は杖を並べたり。何時の路み習はせ給はねば、左右の御足より流るる血は紅を注ぐが如くにて愛発の山の岩角染めぬところは無かりける」とあり、源義経の一行が難渋した山路として書かれている。

有乳山雪消の空にならぬれば 海津の里にみぞれ降りつつ (藤原仲実)

あらし山さかしくくだる谷もなく かじきの道を 作る白雪 (西行法師)

この地域は、二つの歌に詠まれているように、冬の季節は常に寒か雪が降り、乗鞍岳以北は積雪が多い。残雪期には一気に雪の上を歩けるが、無雪期は距離が長くなり、京都から出かけ

るのであれば時間が足りない。どうしても途中で下山する道がある。

そこで、JRの新定田駅へ抜けられるルートを探った。乗鞍岳から北へJR新定田駅へくだる「駄口コース」。地図上でいくつかの支尾根を探るうち、手頃な支尾根を決めて、やぶ清き好きの仲間に呼びかけて作業を実施した。やぶを分け、岩の間をすり抜けてようやく尾根にたどり着いた。

これで、無雪期でも何とか、国境から乗鞍岳への分岐点に出て北へ進むと、左手(西側)の斜面一帯に広がるブナ一色の林に出合える。山好きの人にはぜひ訪ねてほしい尾根の道が誕生したのである。

一方昔は、岩籠山(インディアン平原)へ行くには、国道(市橋)から沢沿いの道に登る山道しかない。この谷を往復するしかなかった。おまけに、台風が去った後に谷は荒れてしまし、道がしばしば消えてしまふ。大廻りするロスをどう克服するかが課題だった。

夕暮山から眺める岩籠山西斜面が多彩に染まる雑木の紅葉はとても美しい。何とか、簡単に東側の国道側からインディアン平原への登山ルートを見つけたいと、以前から思っていた。

マキノ町の山間部、七瀬川流域の東側の笹ヶ峰から原山・大谷山を経て赤坂山・三国山へ。いったん黒河峠を下りて、さらに岩原岳・

乗鞍岳から、岩籠山と夕暮山の脇の間を抜ける尾根をたどり、最後は北の端(山腹にJRが鉄巻く)の衣掛山までの尾根を通して歩ける遠大なトレイルコースを、踏破できることになった。

さらに朗報は、いまひとつ、便利なコースが最近開発された。

新定田駅から真正面の山塊を見て、左からでも右からでも岩籠山へ登って、新定田駅に戻るコースだ。

新定田駅の少し北の造成地から支尾根に取り付き、点標・追分インディアン平原・岩籠山―ブナ林―大岩―(駄口ルート)―国道―新定田駅のコースが開かれた。

このコースは後日、高島

氏の例会に参加して歩く予定なので、次号の「紀行文」として紹介したい。

黒河林道の教習側の山塊落から夕暮山へのルートもすでに地元で開発され、岩籠山・インディアン平原への登山道が多くなつて楽しくなった。

新しくつくられた道は、評判が良ければ、登山者が必ず歩いてくれると信じている。

手術不能な肝臓転移の胃がん(ステージ4)が消える 登山と食事の改善でがんを治す

村田 智俊

一 検査入院

09年2月14日、体調不良で検査入院した。昨春に71。あつた体重が57。に激減したので不安を覚え精密検査したところ、胃潰瘍から胃がんに悪化しており、肝臓への転移も認められた。胃カメラでのひどい写真と、肝臓には黒い影が点々と10ヶ所以上あるCT画像を見せられ、「これは転移がんです。これだけ広範囲に散らばっていると手術は不可能。抗がん剤による治療を行い、縮小を期待するしかない。小さくなれば手術ができるだろう」と医師に言われた。「抗がん剤治療」は副作用

が無ければ外来通院が可能で、一週間の検査入院後、すぐに退院した。

CT検査が出た日、妻が医師に電話で呼ばれて説明を受けていたほど症状がひどかったようで、私のがんと告知されたのはその翌朝であった。

妻は、かなりショックを受けたらしく、ネットでごん治療に関する書物を買ってくれ、08年10月30日発行の「今あるガンが消えていく食事」(済陽高徳著・マキノ出版、1300円)を購入して病室に届けてくれた。じっくりと読み、退院後は「抗がん剤治療」と同時にこの本に書かれている「食事療法」

に取り組んでみようかと妻と相談して決めた。

本には「体内にがん細胞が増殖するのは主に食事が原因、今までの食事を改善していけば、がん細胞は徐々に消えていく」と書かれている。

考えてみると、私が63歳でがんになったのは、野菜・果物をあまり食べず、塩蔵物(干物・漬物)が好きで肉類もよく食べていた。また、夜遅くまで仕事をしたストレスが主な原因なのであろう。

二 退院直後

2月21日、一週間ぶりで自宅に戻った。しばらく歩いていなかったので1時間の散歩をした。しかし、フラフラするばかりで、何度も立ち止まらないと長時間は歩けない始末。

これではとうてい山に登ることができない。神経を遣う編集もできない。不安が先に立ち、東京新ハイキングの鮫島社長に電話して、「関西版を休刊することになるかもしれない」と伝え

た。編集は昭文社大阪支店の元編集長、

榎上氏に手伝ってもらうことにした。また、新ハイ関西のリーダーや関係者と今後のことを相談しなければと、会議室を予約した。この時はかなり弱気になっていたようだ。

ところが、退院してすぐ始めた「抗がん剤治療」と「食事療法」が、一週間後には早くも効果を示しはじめた。すぐれなかった体調がめきめき良くなり、あれだけ苦痛だった散歩も、鴻ノ巣山展望台(自宅から約4.5)まで2時間以内で往復できた。ミツバツツジの咲く鴻ノ巣山散策道は気持ちよく、数日後には山を越えて運動公園や友愛の丘まで足をのばすことができた。

3月6日、心配された鮫島社長が東京から見舞いに来られたが、その頃には食欲も出て、「この体調なら何とかなりそうです。榎上さんにも手伝ってもらうことになり、しばらく休刊しないで続けられそうです」と話すと、安心して帰られた。予約した会議室はその日にキャンセルした。

三 食事療法

この本を参考に妻の協力を得て、がんと治す「食事療法」を次の10項目に絞り、退院直後からすぐ実践した。

① 水道水から天然水

塩素やフッ素の水道水をやめ、尾鷲市の民宿「イワナの里」から「夢の水 東紀州水」を購入し、飲用するだけでなく、炊飯にも使い、お茶・コーヒー、抗がん剤のカプセルや胃薬を服用するときもこの水で飲んでいる。

「東紀州水」は、高峰山から染みでた天然水を加熱処理しないで、マイナスイオン水に電気分解したもので身体に大変良い。

② 主食は白米から玄米

有機の玄米(胚芽に農薬などが蓄積していない)を東北の農家から購入している。パンはライ麦パンを妻につくってもらい、全粒粉パンを探して購入している。

③ 有機の野菜・果物を大量に摂る
葉もの野菜は近所の有機栽培農家に頼んで、定期的に採り立てのものを自宅へ届けてもらうことにした。

季節の野菜・果物は、全国各地の有機農家を妻がネットで調べてくれ、も

ぎ立てや揚げ立てを10+単位で直接注文している。その日採れたものが翌朝には宅配される。食品・食材をスーパーで購入するのは極力止めた。無農薬で有機のものは高値だと思われがちだが、有機栽培農家から直接ダンボール単位で仕入れると案外安い。

とくに、抗がん剤治療の副作用を抑えてくれる「野菜ジュース」は大量に(1日1.5ℓ)飲むことにした。ジュースは、繊維質を取り除いてくれ、おいしいジュースが搾れるすぐれものの「低速圧搾搾りジュース・いきいき酵素くん」をネットの楽天市場で申し込んだ。

「にんじんジュース」は、にんじん3本、りんご1個を搾り、レモン1個を加えて飲んでいる。これを1日に二〜三度、朝は「葉野菜のジュース」に豆乳・ハチミツを加えて飲んでいる。時間を空けると酸化して効果が薄れるので、搾り立てを飲むことにしている。

有機野菜が手に入らない場合、ホップキ貝殻100%天然素材の除菌剤「安心やさい」を水で溶かし、食材を5〜10分間浸して農薬などの汚れを除いて調理している。

野菜・果物には病気を治してくれる各種の「ファイトケミカル」が多く含まれていて、食べると免疫力を高めてくれる。抗酸化作用を多く含む野菜中心の「食事療法」を続けていくと、約120日間で人間の細胞は新しく生まれ変わるという。「免疫力を高めて傷ついたがん細胞を治していく」という方法をとったのだ。このことで抗がん剤による副作用は全く無く、うまく抑えられたと考えている。

④ 塩分を抑える

料理は減塩の薄味にした。しゅうゆ・ソースも極力使用を控えている。どうしてもというときは、減塩のものをかける。

⑤ 牛肉・豚肉・赤身魚は食べない

「四足歩行動物の動物性たんぱく質・脂肪は、あらゆる食材の中でもっとも

発ガン率が高い」らしく、牛肉・豚肉などは食べないことに決めた。動物性たんぱく質は、淡水魚・白身魚・エビ・貝類などから摂ることにした。マグロ・カツオなどの刺身も一切やめ、サケ、イワシ・アジ・サバ・カレイなどを食べている。ただし鶏の胸肉はよい。

⑥ 植物性たんぱく質の摂取

「大豆イソフラボンがガンの抑制に役立つ」ということで、大豆や大豆製品（納豆・豆腐・豆乳）を摂るのがよく、レーズン・ナッツ類もよいらしく、有機のものを購入しておやつ代わりに食べている。

⑦ 乳酸菌、キノコ、海藻の摂取

ヨーグルト「LGT1」を毎日ひとつ食べている。キノコや海藻類は減塩の味噌汁の中に入れて摂っている。

⑧ ハチミツ・ビール酵母の摂取

国産天然ハチミツ（外国産は品質が落ちる）を国内の産地から取り寄せ、朝食時にパンにつけ、ジュースに入れるなどして摂っている。ビール酵母は、「エビオス錠」を毎食後8〜10粒飲む

ことにした。

⑨ オリーブ油・ゴマ油の活用

過熱しても酸化しにくいオリーブ油・ゴマ油を使って調理することにした。

⑩ 禁酒・禁煙、ストレスをなくす

禁酒は簡単にできた。タバコを止めれば完璧なのだが、禁煙はできていない。4月頃までは本数を減らしていたが、最近やや増えた。

ストレスをためないように、編集の仕事は午前中に終え、昼からは郵便処理等の事務的な仕事をする。夜は何もしないことにした。

四 その後の経過

その後も体調は良好を維持し、体重も4月には63.7kgに増えた。4月5日には、笠置駅から柳生の里を抜けて奈良市内までの超ロングコースを歩いた。日帰り山行を順調にこなしつつ、リリーダとして、6月3日〜6日の韓国雪岳山と北漢山、7月連休には北アルプス「船窪岳」、8月の盆休みには同

「白馬岳から朝日岳」、9月のシルバークウィークには同「穂高岳三山」、9月末〜10月3日の韓国「五台山と道峰山」、10月の連休には北八ヶ岳「翠科山」へ登った。元気なうちにどんどん登ろうと厳しい山行を続けたが、皆と楽しく歩けた。

山行時は、血流が良くなり体が温まるのでとても体調が良い。

5月21日、「抗がん剤治療」が3クル目を終ったのを機に、肝臓のCT検査と胃カメラで診てもらったところ、肝臓に点々とあつたがんがほぼ消えており、核になっていく5〜6mm大の黒い影も薄くなり、半分は縮小していた。胃もきれいな状態になっていて、医師も「珍しい。抗がん剤が非常に良く効いている」と、喜んでくれた。

私は、内心「抗がん剤だけでなく、併用した食事療法との相乗効果で治療効果が最大限に発揮され、また山に登って身体を鍛えたからだ」と思っている。入院中医師に呼ばれたとき、妻が「主人の山歩きが心配です」と問う

と、医師は「本人が自覚されるでしょう」と答えたという。今でも元気に山に登ることができて幸せである。

10月が過ぎて8ヶ月を経過したが、体調に全く問題はなく、今も体重は63kg前後を維持している。9月25日のCT検査では、肝臓のがんはほぼ消えかかっていた。

と言っても、がんの完治は難しく、油断するといつ再発するか予断できないので、「食事療法」を今後も続けようと思っている。「抗がん剤治療」は8クル目が終わったが、いつ副作用が出てもおかしくない。今、抗がん剤の量を減らしての治療を医師に相談してみようと思っている。

五 おわりに

109号の巻頭言を読まれた方から「どうして? 不思議だ。早く知りたかった」との声が寄せられた。ご家族や近親者の方にご報告された方が多いようである。

まだ治療の過渡期で完全にがんが消

えたとは言えない。取り組んだ「食事療法」は自宅で作来、その期間は限られているが、絶大な効果があつたと確信する。「がんを治す本当の秘密が多くの隠されている」のではないだろうか。このように、自然界に根を張っていて害虫や有害物質などの敵から逃れられない植物がもつ「ファイトケミカル」を食事で体内に大量に摂り込めば、人間に備わる免疫力が最大限に高められ、抗がん剤の副作用も抑制でき、進行したががんでも徐々に治癒していくものだということを身をもって体験した。

無農薬で有機の食べ物を摂ったのも良い結果をうんだと思う。山を歩いて身体を中から温め、森の空気をいっぱい吸うこともよかつたと思う。

有機の食材を全国各地から仕入れ、調理してくれる妻の援助があればこそで、感謝している。がんと宣告されている方もけつしてあきらめないでください。がん予防やがん治療の一助になればと思ひ、急ぎこの号で発表させていただいた。

五月山連山北部の道

明ヶ田尾山・鉢伏山・天上ヶ岳

北 撰

木村 太郎

余野川と箕面川に挟まれた山城、旧摂津国豊嶋郡（池田市・箕面市）から能勢郡（豊能町）にかけて五月山連山が横たわる。

連山南部の五月山から六個山・箕面山は、以前私の「ファミリアハイク」例会で歩いた。まだ歩いていない五月山連山北部を歩く計画で千里中央駅バスターミナルに集合した。

粟生団地を経て山中道の勝尾寺街道と高山街道を走る阪急バス「余野行き」は、1日三便出ている。午前の一便だけのバスに乗り、登山口の高山で降りる。

底冷えのする高山集落から朝日に照らされた明ヶ田尾山の山並が見える。

明ヶ田尾山にて



高山街道から摂丹街道の高山口にくる途中に高山城址があり、山村高山の地はのちの高槻城主高山右近の出生地とされる。宣教師フロレスが著した「日本史」に、摂津国高山を右近の父飛騨守の郷里と記している。

父飛騨守はグリオ、母はマリア、幼名彦五郎ジェストの聖名で受洗し右近は入信をしている。高槻天守教会堂で余野城主娘の妻ユスタと結婚、異国マニラの地でキリシタン大名高山右近は天国へ召されたという。

地図を確認して村道を西へ。キリシタン禁止を定めた慶応四年の太政官令が書かれたままの高札場跡を通る。時間が停止しているような高山集落、それでも朝の風の冷たさは現実のもので水溜りに薄氷が張りついている。登れぬの地に建てられた「高山右近生誕之地」石碑を見て、明ヶ田尾山の登山口へ向かう。

集落の人々と出会うことなく、ふれあひもない通りすがりの登山者に、行先を示した小さな道標が語りかける。

霜柱の立つ竹林を抜ければ植林帯の谷筋に落ち葉に混ざり、前夜の雪が坂道の窪みをまだらに染めている。稜線出合に着いて呼吸を整え小休止の後、北方へ雑木の尾根道をゆるやかに登り、三等三角点明ヶ田尾山（619.9m）に立つ。

明るいタワの山、その山名がもつ雰囲気に合わせるように落葉した雑木の隙間に太陽が照り、山頂は明るい。東斜面側に切り払われた形跡があるが、高山集落を見通すことはできない。摂



薄暗いぬかるみに足元を気にして隊列がばらける。やぶが茂る急登となつて尾根にのり上げ、ササ枯れの明るい稜線に出て雪が消え失せる。天空を衝く鉄塔を目当てに進んで行けば、稜線上の分岐に鉢伏山を案内する公の標識がある。小道を入ったイヌツゲの枝に手書きで山頂への木標があり、雑木林を少し登った地点に三角点はないが、アカマツの幹に鉢伏山（604m）の山名標を見る。



高山右近生誕地碑

分が弾む。若葉の復活には間があるが、裸木は太陽を吸収し新芽を膨らませ木肌を光らせる。野生鹿に剥がされた樹皮は痛々しいが、山の動物が生きたために活動した痕跡なのだろう。

箕面山は東京都下の高尾山とともに、明治四年に日本で最初の「公園地」に指定されている。自然の景勝地、箕面山一帯を明治の森と呼んでいる。鶴見緑地での「花の博覧会」の後に造林された鉢伏山の南麓、「エキスポ90みのお記念の森」に着く。野外学習の教室となる芝生広場で弁当を開く。

園地内には「花の谷」「四季の森」等の道がある。四季の樹木が植えられ、

「四季の森」(別名赤ちゃん)へ歩き、ナツツバキやネムノキの「夏の森」を抜ける。階段道を登れば木製展望台がある高台に出る。展望台に立ち、周りの山々を眺望する。四方が見通せ、北の山はわずかに冠雪しているようだ。

いつまで山を歩けるのだろうか。いつまで生きて山を眺められるのだろうか。私が命絶えたのちも在り続ける山々は、真白い装いで私の故郷を飾りつけてほしいものだ。

わが死せむ美しき日のために
連嶺の夢想よ！汝が白雪を
消さずあれ

大阪を拠点にして、浪漫派心持の詩を書いた、伊東静雄の詩集「わがひとに与ふる哀歌」に載る詩句を、私は他人に悟られることなく密かに、眺めの彼方へ投げかけた。

展望台から「花の谷」へは、花の少ない時期なので立ち寄らない。鹿よけネット沿いに芝生広場へ回遊し、記念の森と別れてハイキング道に戻る。程

なく池田からのびた高山街道に出て、ようやく台園地の方向へ進む。

車道を5分程歩いた道路端にリボンが付けられた鉄塔の巡視路がある。山下線33号と34号が立つ尾根道に通じており、私たちが今から目指す天上ヶ岳への近道だが、鉄塔まで急登の階段道なので敬遠する。車道をさらに10分程歩いた場所に、天上ヶ岳への登り口を見つけて舗装路から解放された。

天上ヶ岳林道通行止の表示があるが、致ノ茶屋園地へは支障がないので、安堵して天上ヶ岳西尾根をたどる。先程の鉄塔巡視路と出合う地点に個人が耕作する圃があり、国定公園内に不似合いで山の情緒を欠いている。尾根を登り切ると、520mのピークが天上ヶ岳で、地形図には山名の記載が無い。分岐点の小さな木標を見て樹間を右に分け入り、役行者像が座る天上ヶ岳に立つ。ここは幽遠境の箕面山奥山で、大宝元年(701年)6月7日に昇天したと伝わる神変大菩薩役行者の墓所である。いにしえに大阪四条派の

絵師上田耕沖が「箕面山真景園」の最上部に描いた山で、満山楓樹の箕面山その天上に役小角(役行者)が眠っている。

役行者像から分岐点の道に戻り、致ノ茶屋園地へ向かう。尾根上で振り返れば枯芝色の鉢伏山が見える。視線を右に転じると、朝のバスで通り抜けた北摂霊園の手前右手に高みを誇る翠然の峰が目に入る。勝尾寺を開山した開成皇子墓所がある最勝ヶ峰(540m)で、古くは勝尾山の名で秋里麻島(註)で、古くは勝尾山の名で秋里麻島の「摂津名所園会」の題材になっている。

最勝ヶ峰は東海自然歩道上にあるピークだが、きょうは最勝尾根へ廻らない。山道の急降下が平坦になった場所、近道の百年橋への自然研究路2号路を見るが、歩道の修復をしており通行止の欄が塞ぐ。3号路を進み箕面川ダムからの道と合い、「東海自然歩道起点」碑がある致ノ茶屋園地に出た。ビジターセンターから車道を渡って向い側の市民の森「こもれびの森」に入れば、車道歩きなして杉ノ茶屋へ抜

けられるが、もう山登りは十分に堪能した。くだるだけの車道を選んで箕面川沿いに歩く。杉ノ茶屋から「摂津名所園会」が描く箕面大滝へくだる。観光客の餌を狙う猿の群れが滝見の広場に屯している。


名所園会の案内文にある「岩頭より石面を走り落つること十六丈の箕面滝」とは滝流のほうで、小振りの雄滝と役行者が竜宮城に入水した伝説の竜穴への道は、現在は立ち入りが許されず見物することはできない。

童樹菩薩のお告げで役行者が弁財天尊像を彫刻して、滝そばに箕面寺を開いた。のちに後醍醐天皇から澁安寺の勅額を賜り、箕面山澁安寺と名が改まったと伝わる。慶長大地震で倒壊して滝本から離れ、滝道下の現在地に寺は再建復興されたという。

箕面や勝尾は古来より修験者の山、聖の山として知られる。後白河法皇の「梁塵秘抄」に「聖の住所はどこぞぞ、箕面上、勝尾上」で始まる歌があり、播磨の書写山、熊野的那智山と

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆



☆26/☆

| | |
|------|--------------------------------------|
| ・カラー | ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー・フリン×ネイビー・オレンジ×ネイビー |
| ・重量 | 820g |
| ・素材 | ナイロン・リップ |
| ・価格 | ¥19,500 |

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット。両サイドには、ストック等の収納に便利なウインドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日替りから1泊用のノンフレームのNEBザックです。

イモック山行くらぶ

春夏秋冬、季節を気にせず、里山・名山・名山を歩きます。お気軽に御参加下さい。

詳細はお問合せ下さい。



イモック

KOBE

〒653-0028 神戸市東灘区日島町3丁目1番10号
カフソビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

※営業時間/10:00~20:00 ※日曜日不営業

もに詠草されている。

箕面山は名所同会文に、「この一山は丹楓多くして、秋の末は三千の樹々錦繡のごとく」と書かれ評判が高い。古くよりあまたの文人たちの来訪が多く、公園地として指定されたのちは、大阪近郊に在住する者で箕面山来遊は一度や二度ではなかったようである。

詩人伊東静雄（1906-1953）が郷里九州への旅行に妻を同伴したあと、日曜ごとに小旅行することを妻と約束した。ある時旅行先に困り、以前詩友たちと訪れた箕面山へ妻を連れて行く。箕面清遊に同行した同人誌「文芸文化」の池田勉へ知らせた手紙に、静雄と妻の箕面旅行のいきさつを書いている。昭和四年から住吉高校で教鞭をとり、大阪に縁のある伊東静雄の詩碑が、阿倍野区の松虫ポケットパークに建碑されている。

百千の草葉もみちし
野の勁き琴は鳴り出づ
詩集「春のいそぎ」に収める「百千の」

と題した詩の一節であるが、簡潔で力強い伊東静雄の詩句は、箕面山の三千の樹々錦繡に着想を得たものなのではなからうか。

伊東静雄は詩集「わがひとに与ふる哀歌」でデビューした。詩集名にした同じ題名の詩の書き出しは、太陽の美しく輝く日に、手を組んで山路を歩くと恋人たちの姿を歌う。

太陽は美しく輝き あるひは
太陽の美しく輝くことを希ひ
手をかたくくみあわせ

しかし現実には太陽は冷たく照り、作品の中の主人公はただ独り、人気のない山の上に黙座する孤独の構図で詩章を終わらせている。

切に希われた太陽をして
殆ど死した湖の一面に日照さするの

伊東静雄が哀歌に描く、孤独のスタイルが山歩きの本質かも知れない。しかし詩人ほどに精神が強くない私たちは、

仲間と組むことで孤独を忘れようとする。太陽の美しく輝く日を求め、一日でも長く一歩でも多く、だれかと山を歩くことができたならと切に希う。

私たちの山歩きを一日励ましてくれた日差しがなくなり、夕闇が迫り始めた滝道を下る。温泉でからだを温め、反省会のビールがもうすぐ飲めるので、疲れを忘れて仲間たちの足跡は軽やかである。
（平成21年2月18日歩く）

△コースタイム△

千里中央バス停（阪急バス1時間）高山バス停（10分）高山右近生薬之地碑（25分）稜線出合（10分）明ヶ田尾山（45分）鉢伏山（20分）エキスポ90みのお記念の森（10分）展望台（35分）天上ヶ岳登り口（25分）天上ヶ岳（40分）政ノ茶屋岡地（40分）箕面大滝広場（25分）瀬安寺（20分）箕面温泉（10分）阪急箕面駅
△地形図V2万5千：広根

紀行

旗振り通信の新研究①

連載 伊賀市で新発見の旗振り山I

柴田 昭彦

はじめに

平成16年11月1日、上野市、阿山郡伊賀町・阿山町・大山田村・鳥ヶ原村・名賀郡青山町が合併して、三重県に伊賀市が誕生した。

伊賀市で、平成21年2月までに知られていた米相場の旗振り山は、次の4か所であった（本誌60号および拙著「旗振り山」参照）。

- ① 旗山（伊賀市柘植町、標高650m）
- ② 塔の峯（伊賀市土橋、426m）
- ③ 遠見塚（伊賀市三田、420m）

④ 高旗山（伊賀市西山、滋賀県甲賀市信楽町多羅尾、710m）

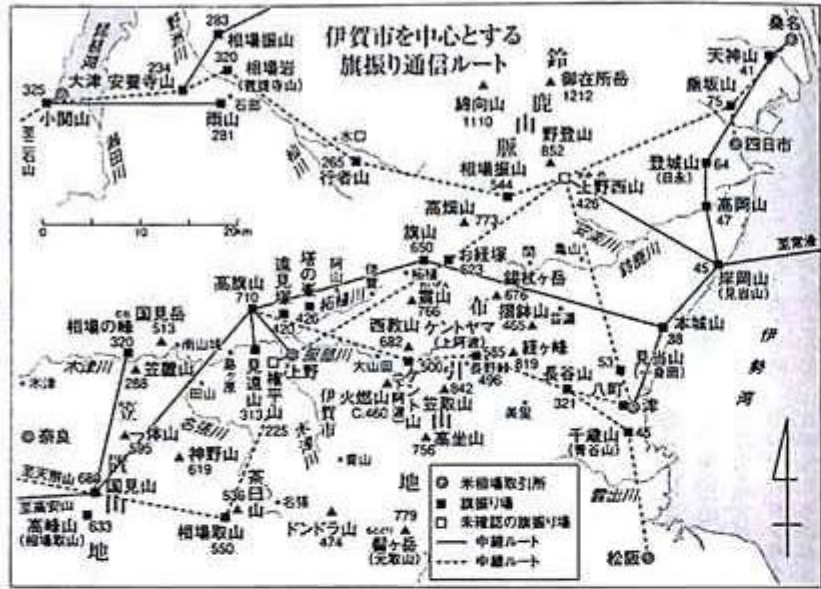
旗山は高旗山と19m離れているが、昔は、直接通信できたようである。旗山は伊勢への中継地点とされるが、従来、どこと通信したか不明であった。見通しだけで考えると、地形図の計測によって、津市河芸町上野の本城山と通信可能であることが判明した。ただし、距離は26mあり、裏付け資料も見当たらない。江戸時代には七里（28m）の通信記録があり、ガスの発生がなけ

れば可能であるが、さて？

「遠見塚」と読んでいたが、「上野市史」考古編（平成17年）の扉頁に「遠見塚古墳」の記載があった。市役所作成の「上野市大字小字名一覧」にも「遠見塚」とある。

高旗山は、平成20年10月、新居地区住民自治協議会によって登山道が整備され、頂上の山名板も新設されている。同協議会制作のリーフレット「新居地区の名所旧跡と高旗山登山道案内図」に「その名の由来は、昔近江のこメ相場をいち早くこの山頂から伊賀へ知らせる手段として「旗」を立てて合図したことから名づけられたと云われている」とある。執筆者の重倉成則さん（西山）に電話で尋ねると、地元での古くからの伝承だという。

平成21年3月以降、伊賀市域で従来全く知られていなかった旗振り山が新たに発見された。そのきっかけは、平成13年頃に情報交換をしたことのある池田裕さん（大阪府立長尾高等学校教諭、伊賀市の忍者研究家、伊賀暮らしの文化



引山地を含む地域での旗振り伝承は確認できないとの返信であった。筆者は、旗山と長谷山を中継した可能性を考え、津市芸濃町の摺鉢山を中継地点に想定したこともあったが、芸濃町には旗振り伝承はなく、行き詰まったままとなった。

その他の自治体への問合せの結果、旗振り場は一つも見つからず、布引山地の旗振り場は迷宮入りとなってしまった。

ただ、大山田村に中継地点がないらしいと知らされ

振を受け取り、「大坂、信貴山、笠置山、伊賀の布引山、勢州青谷山、津、松坂」という江戸後期の旗振り（火振り）通信ルートを発見できた。既知の旗振り山アーケを用いて、再現を試みると、次のような想定ができる。

「大坂堂島、信貴山（高安山）、笠置山地（国見山）、高旗山、旗山、布引山地、長谷山、青谷山（千歳山）、津、松坂」

本誌60号や「旗振り山」で考察したように、布引山地（長野峠の北方山地および笠取山を経て青山高原に至る山地）の中継地点がどこなのかが大きな問題であった。

そこで、布引山地に該当する自治体間に問い合わせてみた。笠取山を候補地とする意見（津市教委）があったが、標高が高く、風も強いことから、美里村史編集委員さんは疑問を呈していた。

平成12年10月2日、大山田村教育委員会の坂本隆幸さんから、調査結果が届いた。大山田村指定文化財「地誌取調上申書」（明治16年）の「伊賀国山田郡出後村」に「火燃山」があるが、布

探検隊隊長が伊賀市付近の旗振り山の情報を各方面に発信して、情報提供を呼びかけたことからであった。

池田さんが副会長をしている「伊賀の國地名研究会」（会長は伊賀市の倉元正一さん。平成19年4月発足。民俗学者谷川健一先生を顧問として、伊賀暮らしの文化探検隊の地名部門が独立）の運営委員である米澤純彦さん（名張市）が旗振り山に興味を持ち、平成21年3月以降、伊賀市に関連する文献の博覧や文化財委員への聞き取り調査などを行い、その結果が筆者にもたらされた。新情報を得た筆者は、その裏付け調査等を実施した結果、新たな旗振り山の発見に至った。

さらに、池田さんが、元小学校教員で郷土史家の赤工作久良さん（鈴鹿市）に問い合わせた結果、4月、愛知県常滑市にも旗振り場があったことが、新たに判明している。

筆者が、平成21年3月以降、新たに知った旗振り地点（推定を含む）は次の通りである。

- ⑤ ケント山（伊賀市下阿波。米相場の見当を誤った。標高500m地点と推定）
 - ⑥ ケントヤマ（伊賀市上阿波。諸条件から、長野峠の北東。585m地点と推定）
 - ⑦ 見遠山（見当山とも表記する。伊賀市長田。山頂の313m地点で見当を誤った）
 - ⑧ 権平山（伊賀市長田、百田地区。見当を誤ったと伝わる。約225m地点と推定）
 - ⑨ 正住院の西、龍ヶ丘（常滑市保示町。現在は削られて、低くなっている）
- これらの旗振り場の発見の経緯を、今後、数回に分けて報告することにした。

「布引山地の旗振り山の探案」

筆者は、平成12年6月から、西日本一円の旗振り山の研究を本格的に開始した。

平成12年9月7日、上野市教育委員会の山崎家子さんから、天保十三年（1842）の米相場通信にふれた資料（火

う。米澤さんは「旗振り山」の本を読み、強い関心を抱くようになったという。

3月14日、米澤さんからメールが入り、翌日、メールを開いた筆者は、伊賀市大山田地区に2か所の旗振り山があったらしいことを初めて知らされた。下阿波の小学「北山」にあった「ケント山」と、上阿波の小学「黒岩」にあった「ケントヤマ」であった。

出典は、大山田村古文書研究会編纂『大山田村の古文書 第二集』(大山田村教育委員会、平成3年)と『郷土の小学名』(三重県職員郷土史クラブ編、名張市立図書館所蔵)の両方に収録されている。明治20年の「地誌取調書」だとい

さうそ、指摘の文獻は未調査であること、「けんとかま」というのは「見当山」の可能性が高いことを伝えた。鈴鹿市岸岡町の岸岡山は別名が見当山であり、津市一身田上津部田にも見当山があり、どちらも山頂に一本松があり、航海者が海上から見当をつける目標となったために「見当山」と呼び、どちらも旗振り山であったことも

ていたのが名の由来という。

【大山田地区の旗振り山の調査】

3月27日、伊賀市役所大山田支所を訪ねて、下阿波ケント山、上阿波ケントヤマの場所について問い合わせさせてみた。

上阿波ケントヤマのほうは、地元の集落に、昔のことを知っている年配の人が住んで居らず、もう確かめようがないという。

一方、下阿波ケント山のほうは、屋号をケントと呼ぶ家があるというところで、下阿波の坂本才子さん(昭和2年6月生まれ、81歳)に電話で尋ねてもらった結果、ご主人の坂本昌生さん(大正15年12月生まれ、82歳)の曾祖父、藤左衛門(弘化2年8月16日生まれ、大正5年9月26日没、享年72歳)が裏山のケント山で米相場の見当を振って、赤と白の旗で知らせていたことが判明した(弘化2年は1845年で、享年は数え年である)。

坂本宅にうかがい、才子さんは地図

伝えた。さらに、伊賀市長田に見違山があることを付け加えた。

3月20日、伊賀市上野図書館を訪ねて、文獻調査を行った。「大山田村の古文書 第二集」に見られる二つの「けんとかま」を示す記述は次の通り。

伊賀國山田郡下阿波村地誌取調書(明治廿年九月)の山嶽「北山」の説明に「雜項 中古地方商人が常ニ此山登リ大旗ヲ立テテ其地諸物價ヲ山々ニヨリテ各地互交報道スルノ約ヲ結ビ專ラ此法ヲ用キ一時大ニ利潤ヲ得タリト云フ土人依テ此山ヲケント山ト稱ス」とあり、下阿波村に大旗で諸物價を伝えた「ケント山」があったことがわかる。文中、「中古」は「昔」、「土人」は「地元の人」の意味である。ここに、「諸物價」とあるが、後の調査では「米相場」であることが判明したことも付け加えておこう。

伊賀國山田郡上阿波村地誌取調書(明治廿年九月)の小学地名に「字黒岩 旧字 クシキタニ クロタニ キコ ハサカ セニバコタニ 松ケ谷 アシ

と山歩きが好きといい、自分で資料を写して現地を歩いてトレーシングペーパーに描いたという、裏の持ち山の大きな地図を広げて見せてもらい、話も聞かせてもらった。地元の阿波小学校(後の大山田西小)の先生をしていた父勝三(勝三の父は卯吉)から、曾祖父は早朝3〜4時頃に旗振りに登っていたと聞いているとのことだった(暗い時には、松明振りを行ったのだろう)。通信した先の山のことまではわからないという。近くの面白い屋号にダイコンダ

ネ、ナンキンヤがあるという。才子さんの話では、その裏山のケント山の旗振り地点がどこであるのかについては、父から現地で教えてもらったことがないという。裏山の南側、西へ刻む皿上谷から入って、途中からジグザクの尾根道を上がり、上のほうの両側辺りをケント山と聞いているとい

う。才子さんは、地元の人達は、坂本家が屋号ケントであり、裏山がケント山であることも良く知っているが、筆者

タニ トチノキ ケントヤマ アキビワラ」とある。

『大山田村史 上巻』(昭和57年)の巻末の小学資料にも、同じ地誌取調書による、北山と黒岩の記載があり、「阿波村小学園」から、西教山の南方にある「北山」、現在の長野峠(標高496m)の北側一帯の「黒岩」の範囲を確定することができた。

村史第一章の「三國地志」の地名資料に添えられた「阿波郷」の地図から、伊賀越の南南東の黒巖嶽(黒岩嶽、761m)の位置が確認でき、ここは小学「廻り途(廻り戸)」であり、小学「黒岩」はさらに西方であった。

3月24日、米澤さんから、以前、会長の倉元さんと一緒に歩いたことのある長野峠旧道(トチノキ峠)付近の状況についての情報ももらったので、現地調査の準備を始めた。

トチノキ峠は、現在の長野峠の北東にあった旧峠で、とちの木峠、椽の木峠、橋の木峠、橋ノ木峠とも書かれ、峠道には、かつて、トチノキが繁茂し

が問い合わせるまで、「米相場の見当を旗振り知らせたこと」は話したことはなかったという。それは、坂本家では先祖の仕事をむやみに口外しないように言われてきたからであった。今回、筆者に話して下さったのは、先祖の苦勞をしのぶと同時に、子孫に昔の人はどうであったかを知ってもらいたかったからだという。

現地調査を行うための準備段階では、地形図上で計測を行って、各地点の推定を試みることにした。

まず、才子さんの話と裏山の地図、山同士の見通しなどの諸条件も加味して、下阿波ケント山は、西教山の南尾根の510mピークか、その南東の500mピークかのどちらかであろうと推定することができた。

次に、上阿波ケントヤマの所在地である小学「黒岩」の範囲にある顕著なピークとして、4か所候補地として選んでみた。下阿波ケント山と長谷山(321m)の両方が見える地点は、3か所が不適となり、585mピークだ

けが条件に合っていた。この計測で、500ピクよりも、510ピクのほうが、585ピクを見通しやすくと計測できたので、下阿波ケント山は、510ピクという推測に傾いていた。

3月28日に上阿波ケントヤマの实地踏査を行った。汁付バス停から歩いて新長野トンネル（平成11年着工、平成20年7月開通）の手前で左に折れて旧国道に入り、伊賀越に至る左への分岐を見送って、次の分岐で左に入り、林道の終点分岐で右をとり、石のゴロゴロした谷川に沿う山道を歩くと、トチノキ峠の手前に石垣があった。「茶店跡」の看板があり、その少し手前に、常夜灯（高さ三メートル以上あったという）の一部が転がっていた。谷川や茶店跡地には、瓦片・陶器片が見られる。

名張市立図書館で見たパンフレット「見どころ 伊賀街道（伊賀越奈良道）」（三重県教育委員会）によると、峠茶屋では横尾三家が茶店を営んでいたとあった。「歴史の道調査報告書Ⅲ」

ている。この鞍部からのコースは自動車利用でのケントヤマへの最短経路である。

トチノキ峠から、元の山道を引き返して、汁付バス停に戻った。バスに乗り、寺坂橋で降りて、坂本宅に立ち寄り、昌生さんにも会った。オチ子さんから、ケント山に登る時には、JA（農協）に勤める息子の仁文さん（43歳）に



3 「伊賀街道」(三重県教育委員会 1983年)にも、三軒の峠茶屋が旅人の憩いの場であったとある。

茶屋が営まれていたのは明治初期であり、明治18年に新長野峠が開通してからは、主要ルートへの座を譲り、営業はできなくなったと思われる。ただし、旗振りさんの家は仕事上、そのまま住んで、継続した可能性もある。

茶屋跡から峠へは右へ上がるが、左側の谷に沿って、笹に覆われた道を歩き、谷詰めまで上がると、585ピクの東側の鞍部に着いた。西へ踏み跡をたどると、山頂に到着した。茶屋跡から、歩いて15分程度であり、毎日の旗振りには手頃な立地である。

頂上には笹に覆われ、樹木が成長し、全く見晴らしはないが、山頂から戻り、鞍部から、さらに東側の尾根道に入り、南下する途中で津市方面の展望が開けており、ケントヤマの山頂でも樹木がなければ、広大な展望が開けていたことをうかがわせている。

茶屋跡からトチノキ峠に出てすぐ南

案内させたいという希望をうかがった。池田さんからの依頼で、5月17日午後、筆者が伊賀市の旗振り山についての講演を行うことが決まり、当日午前には、雨でなければ二つのケント山に登ることが決まっていた。下阿波ケント山に登るイベントのガイド役は、坂本仁文さんをお願いすることに決まった。

3月31日、大山田支所に、昔、峠茶屋を営んでいた横尾家について電話で問い合わせしてみた。支所で調査はできないので、伊賀市教育委員会事務局・大山田公民館の児玉泰清さんを紹介された。さっそく、児玉さんに電話して、横尾家についての調査を依頼した。

坂本さんに電話したところ、旗振りに関するものは家に残っていないことを知らされた。かつて、旗振りをしてきた家で、望遠鏡が見つかることがあるが、坂本家では早期に処分されたであろう。

4月1日、児玉さんからの連絡で、次のことがわかった。

トチノキ峠 (旧長野峠)



側には経ヶ峯林道がある。この林道を東へたどると、自動車で入れる終点に着く。ケントヤマの南東の展望地点は、林道終点の西側鞍部から、北へ尾根を上った所である。鞍部には当日は何もなかったが、今では倉元さんが5月に設置した「ケント山」の道標が立っ

- ① 上阿波の一番奥の集落、汁付の屋号トウケの横尾三郎宅が、昔、峠で旗振りをしてきた家であるが、家にはもう誰もおられない。
 - ② 屋号チャヤという家もあって、昔、峠茶屋をしていた家だが、汁付に家はもうない。
 - ③ 屋号ケントの坂本家では、トウケの家、上野の「ハタ」という家（たぶん、高旗山）と連絡していたという。
 - ④ 峠茶屋は、時期は不明だが、災害が起った際に、汁付に下りたという。
 - ⑤ 旗振りではなく、のろしを上げていたという話も残っている。
 - ⑥ 「大山田村史」には、旗振りの話は収録されていない。
- 4月12日、児玉さんが話を聞いたという猪野昭八さん（大山田村史編纂室のスタッフの1人。富永在住。77歳）に電話で話を聞いた。
- 村史編纂当時、旗振りの話は全く知られておらず、今回、児玉さんから問い合わせがあって初めて関係者に聞き取りを行ったという。

横尾三郎さん(屋号トウゲ)は90歳に近く、集落の一番奥の家、横尾清一さんも86歳くらいで、二人とも入所しており、話を聞くのは無理という。清一さんの弟の隆二さんも高齢(79歳)で話は無理である。横尾三郎さんの家族は上野のほうに出てしまっているという。

屋号チャヤの人は、横尾ジロウさん(漢字不明、昭和3年頃の生まれ)で、横尾清一宅のすぐ奥に家があったが、20代頃に上野に転居し、今では亡くなっており、家族の所在も今ではわからないうという。今後、何かわかれば知らせるということであったが、これ以上の追跡は困難だろうと思われた。

老人クラブ伊賀支部郷土史研究委員会編集「伊賀の街道ものがたり」(昭和46年)の「伊賀街道(バス道中、地名考)」の文中に「当時の時茶屋の遺跡が現存しているし、時に居住していた四五軒の子孫が、現在いづれも横尾という姓をもち家号を峠、或は茶屋といつて汁付に住んでいる」とあって、以上

の聞き取り結果を裏付けている。

昭和40年代なら、汁付の横尾家の古老に祖先の歴史を聞くことは可能であったであろうし、同時に、旗振りの行われたケントヤマの場所を確認できなかもしれないことを思うと大変、残念に思われるのである。

時の流れは非情で、ケント山とケントヤマが文献に初出したのは1887年だが、それが公刊(大山田村の文化財)されたのは、何と、104年を経過した1991年であった。

私が大山田村教育委員会に問い合わせたのは2000年であったが、当時でも、旗振り山は注目されることもなく、公刊文献に埋没して、委員さんに見逃され、米澤さんが2009年に発掘するまで陽の目を見ることはなかったのである。

旗振り山というものがいかに注目されずにいたのかということ物語る「コマと言えぬのではないうか」

それと共に、平成21年では、旗振り通信の完全消滅(大正7年)から91年

を経過し、古老の証言はもう得られないうであろうと考えていたけれども、現在でも、曾祖父(江戸末期→大正時代頃)の職業について聞き及んでいる古老を見つけることができれば、まだ、未発見の旗振り山を発掘することが可能であることを知って、意を強くすることができた次第である。(つづく)

(平成21年8月13日成稿)
(平成21年8月22日修正)

紀行

三角点を訪ねて ⑥2

朽木の山

能内山と西峰山へ

磯部 純

湖西

滋賀県旧朽木村には、16座の三角点峰がある。500m以上の三角点は14座。そのうち、登っていないのは能内山だけである。この山だけ登ると時間が余り過ぎてしまい、後回しになっていた。今回、能内山を登ることにしたのは、3年前、北の大御影山から南の根津にある三国山までの中央分水嶺を歩いた時、途中谷にある湖西環境センターから西峰山へ槍峰間の分水嶺を歩いていたことを思い出したからで、能内山を登った後にこの分水嶺を歩いて、中央分水嶺を完結しようと思立ったのである。ただ、西峰山だけでは物足りない。南にある点名「西峰」も500m以下だが踏むことにした。

能内山山頂にて(9人全員で)



その後、物集女の彼一行が、地蔵谷峰から能内山へ縦走したが、この時には、縦走の発想は全く思い浮かばなかった。

物集女の彼と守山の彼に声をかけ、同行者を募る。久津川の彼を乗せて坊村へと向かうと、8時には、やぶ山も賑わない9名の面々が揃った。広場で予定を簡単に説明し、三台の車で能内

山の登り口へと向かった。

能内山は朽木の雲洞谷、北川と大谷に挟まれた山域にある山である。地形図には山名は記載されておらず、地元では無名の山であったようだが、いつの頃からか、地元の山仲間の間で「能内山」と呼ぶようになり、それが山名に定着した。さてどこから登ろうかと思索したとき、山本武人氏の「近江朽木の山」（ナカニシヤ出版）に、この山の登山ルートが載っていたことを思い出し、それに準じて登ることに決めた。



尾根が横たわっている。

ひと息入れて尾根を西へ登る。右側左灌木の尾根で踏跡がある。地形図ではほぼ平坦に読みとれるが、思いのほか傾斜があり、恰とやぶの小枝が行く手を遮る。

空身で鎌を持った守山の彼が先頭を歩いてそれを切り開き、二番目の私が植木バサミで小枝を切って登って行く。20分も登ると標高583mの南へ着いた。ここから北向きに変え、583mを踏んで下りにかかると、北方に地蔵谷峰の姿を垣間見る。尾根はいっしょに灌木の尾根に変わっていて、行く手を遮る小枝が煩い。それを一本一本切りながらの歩きだった。次のピークに来ると、今度は左手に楡の植林地帯が現れ、ピークからいったん下り、登り返すと能内山。10時35分の到着だった。

山頂の西から北面は楡の林に囲まれ、東側だけが灌木の林で展望は全く無い。こんな山へはだれも来ないと思っていたのに、山名標識が三つも下がっているところを見ると見捨てられ

ただ、この本は15年前に発行された本であり、下見をしていなかったため、現在ルートがどのようになっているかわからず、不安は残っていた。

朽木から保坂へ向かい、熊家への標識を見て左折。北川沿いの道を南下し、雲洞谷大丸南の大谷林道へ入り、大谷橋を渡ったログハウスの前の広場へ車を置く。

この山へは時間がそんなにかからないうと思ったので、「下山してから食事になります」と話すと、ザックを担がずに水だけ持って空身で登る人が続出。どんなに簡単な山でも何が起るかわからない。水・非常食・雨具・常備薬などの最低限の装備は持って登りたいものである。

橋脇から南へ林道を歩き、すぐ右の谷へ踏み込む。谷入口にはアキチョウジが咲き、我々を歓迎してくれている。谷は杉林の谷で、山本氏の本にはしっかりした仕事道があると書いてあるが、今では荒れた踏跡が残っているだけ。何度も谷を渡り返して、消えかかって

た山ではなさそう。三角点は楡林の切れ目に立っている。この山の標高は610mで、点名は「雲洞山」。標石は北東向きで、北から20度東へ振っている。

下山路は、ゆるい尾根を北へくだれば谷を渡らなくてはならないので、山頂から東へのびる尾根を下りにすることに。尾根は斜面の途中から出ているので、どこからくだるかが難しい。山頂から100m程尾根をくだって、方向を東へ変え、楡林の軒げ落ちそうな急斜面を下りて行く。斜面は急で尾根を見定めることはできなかったが、地蔵谷峰の尾根にのつたが、次第に広がって細い尾根のつたが、次第に広くなり、道が現れた。後は道なりに灌木の尾根をたどると、一の谷橋西の杉林へ下り、林道へと出た。車へ戻ると、時間はまだ11時30分。ここから楡峠北の楡川分岐まで車で走って昼食にすることにした。

昼食後に登る山は西峰山。朽木から保坂へ抜ける国道367号の楡峠の東

いる踏跡をたどる。左手から落ち込む三つ目の谷を見ると、その先から谷は細くなつてきて踏跡も無さそう。山本氏は、この谷をつめて尾根に登っているが、我々はここで谷をつめることを断念し、谷の西に派生している灌木林の尾根を登ることにした。

谷から尾根に取り付いて急斜面を登ると、その上は比較的登りやすい灌木林の尾根。枯れ葉を敷きつめた地面には、アチコチにキノコが出ていたが、食べられそうもないキノコばかり。食べられるキノコはないかと探しながら、フウフウ言って登って行くが息が切れ足も重く、遅々として進まない。ふと見ると、男3人が取り残され、若い元気が2人と女性4人はドンドン登って行って、どうにもその姿は見えない。やつのことで尾根へ登り着くと、すでにザックを広げている4人。ここで出された果物を食べて生き返ったような気がした。尾根は灌木林で展望は望めなかったが、木々の隙間から南の方向を見ると、間近に白倉岳から西へのびる

に位置する山である。朽木下荒川の古老によると、昔は、地形図に西峰山と表記している山を「三間堀」と呼んでいて、西峰山は三角点のあるピークを指していた。それがいつしか「三間堀」の名称が消えてしまい、西峰山に変わってしまったのだと言っている。

昼食を13時に切り上げる。膝を痛めたので休んでいると言ったひとりに、「2時間半程で戻ってきます」と告げて、8名で広城環境センター脇の尾根に取り付く。送電線下の尾根は伐採されていて、監視路もすっかり失われている。高みに登ると尾根は送電線と離れて楡林に入ってゆく。初めは楡林の尾根だったが、方向が東に変わると、右手は灌木林の斜面になる。この尾根の右手に降った雨が日本海に流れ、左手に降った雨が琵琶湖から太平洋に流れ込むとは、一見すると反対に思えるような地形だ。そんな尾根を登ると灌木林のピークに着く。右手に西峰山がすぐそこに見えていて右手へ向かいがちになるが、見た目と反対の北へ向かわな



くはならない。

北へのびる尾根を歩き、右手に見えた尾根を東へくたつて登り返すと、元今津町と安曇川町の町界尾根への。自衛隊演習林の境を示すロープが尾根に添うように張られている。ロープに沿って路跡があり、その路跡を東南へ登って行く。地形図の西峰山表記に隠されて地形の状況が読めなかったが、思った以上に急勾配の登りだった。一歩一歩登って行くと、やがて西峰山山頂に着いた。Ca5100

のピークで、山名標識は下がっていない。山頂は雑木林に囲まれ、北側に数本の杉が立ち並んでいたが、展望の全く見えない山だった。

分水嶺をたどるなら、山頂から西南へくたれば槍峰へ下りるが、ここから三角点へ向かうことにする。地形図で方向を確認して下り出したが、地形図の西峰山の字に惑わされ、方向を読み違えて南へのびる尾根をくたつてしまふ。1000mもくたつて間違いに気づくが、前を行く守山の彼と、もうひとりとそのままだつてしまふ。「オーイー」「引き返せ」と叫びながら、6人は正規の尾根へ軌道修正したが、声はすれども2人は戻って来ない。尾根を歩き、声のする南の方向へ向かうと、進む尾根の前方から、先程谷へくたつたはずの守山の彼がやつて来たのにはビックリ。「谷へくたつて東の尾根へ登り返したが、皆が来るのが遅いので見に来たのだ」と言う。呆れて文句も言えない。それにしても出会えてよかった。地形図を読み違えたのは経

験不足だったが、里山とはいえ何が起るかわからない。列が二つに分かれてしまったことには、反省しきり。

尾根を南へ向かい、登り返したピークを東へ振って歩き、曲がり切った所から急斜面を30分程くだると尾根にのる。尾根の両側は美しい雑木林で、国道槍峰の付近は杉や檜の林が続く、この山一帯が杉や檜に覆われているとばかり思っていたが、すこし奥に入っただけで、こんなにすばらしい雑木林が広がっていると信じられない。この吊り尾根を南へ歩いてピークへ登り、そこから西へ尾根を2000mも行くと、細長いピークに着く。その西外れに、雑木林に囲まれて三角点立っている。西峰山の出だして方向を間違ったので、頭のコンプスの混乱を引きずっていたが、これで何とか三角点を踏むことができたのだ。この三角点は、点名「西峰」、標高498.9mである。標石は、能内山と同じように北東向きで、東へ20度振っている。

まずは三角点の写真と全員の記念写

真を撮る。この後、計画では西峰山へ戻り、分水嶺の尾根道を槍峰へくだることになっていたが、時計を見ると14時30分。引き返したのでは、二度の急勾配の登りがあり、2時間弱はかかりそうだ。西峰山から槍峰までの分水嶺歩きを断念し、ここから西南へのびる尾根をくだり、三室谷林道へ下りることに変更した。状況で簡単にコースを変更できるのが、個人山行の良さでもあり、悪いところもあるのだろう。



能内山山頂にて (9人全員で)

違つたと言っていたそうだが、地形図で見る以上に複雑で、現在地の確認が難しい。主尾根から派生する尾根を見るたびに、地形図を確認しながらくだつて行くと、いつの間にか最後尾を歩いているのに気づく。右手に槍峰がある広い尾根のある地点に来たら、真西へくだらなければならぬのに、先頭は北へ向かう尾根をドンドン行ってしまふ。「そっちじゃない」「方向が違うぞ」と後ろから叫んだが、その声は届かず止まってくれない。地形図を確認すると、この尾根をくだつても三室谷林道へ下りるのは間違いなくわかっただけで、ここでも送電線巡視路をくだる予定を変更して、皆の後を追うことにした。

予想通り尾根は切れてしまった。皆は間違いに気づいたようだが、引き返すことなく尾根先端から杉林の急斜面をくだる。滑れば転げ落ちそうな急斜面だったが慎重に下り、何とか三室谷林道へ出ることができた。

後は林道を歩き、国道を椋川分岐に

戻るだけ。道脇に咲くツリフネソウ、ゲンノショウコ・ミソソバばかりでなく、マツカゼソウ・アケボノソウの残り花を見て、車へと戻った。時間は15時40分で、予定より10分遅れだった。ここに残っていたひとりには、車の中で寝ていて、我々の話し声で起きてきた。結局、時間がなくてルート変更を断念し、当初歩く予定にしていた西峰山と槍峰の間の中央分水嶺を歩くことができず、いまだに、大御影山から三国山までの中央分水嶺歩きは、一本の線に繋がっていない。

(平成19年10月10日歩く)

△コースタイム△

- 能内山
- 妻庭野大谷橋 (25分) 尾根取付地点 (25分) 尾根 (1時間) 能内山 (40分) 一の谷橋 (10分) 妻庭野大谷橋
- 西峰山
- 椋川分岐 (40分) 西峰山 (45分) 点名「西峰」 (40分) 三室谷林道 (30分) 椋川分岐
- △地形図V2万5千〃古屋・妻庭野

慶尚道大邱市郊外

連載
八公山

ヨシミスポーツ 吉見英樹

韓国



八公山

山容

韓国第三の都市、大邱市北東部に広がる山群である。護国を願う聖山であり、新羅時代から一千年を超える名刹が山麓に点在し、仏塔・伽藍・磨崖仏など見るべきものが多い。八公山は、市内中心部から近い場所にあるので、大邱市に行かれたら時間をつくってぜひ歩いてもらいたい。

全長20^{km}の巨大な山で、主峰を中心に東峰と西峰に分かれ、まるで鶴が羽を広げたような形をしている。普通の人は、核心部の東峰と山麓の桐華寺を往復する。往復でも5時間位だ。

大邱市内の市場では、秋には松茸が破格値で売られているので、宿で焼き松茸などを楽しんでもよいのではないかと？

八公山を端から端まで歩くと、韓国入タイムで9時間、日本人ならどれだけになるか全くわからない。なぜなら縦走路は、梯子・設置ロープの付いた難所とアップダウンの多い行場歩きとなるからだ。普通コースはとても簡単であり、縦走路は減茶苦茶タフということになる。メリハリのきいた変な山である。

交通アクセス

釜山金海空港から高速バス1時間40分で新幹線東大邱駅、ここからタクシーで桐華寺登山口まで行く(1800円)。

*地下鉄アヤンギョ駅より401番バスで登山口まで行くことができる。

コース

今回の山は、伽藍山の掃路にもう一山ということになり、周王山・金鳥山などと悩んだすえに、イルボンさんのご推薦で八公山となった。

理由は大邱から余り離れていない山であるということなのだが、なにゆえ大邱周辺かといえば、井邑市在住の友人のK女史(仙台出身の日本人)が、わざわざ3時間30分かけて大邱まで来ていっしょに食事しようということになったからである(いかにも私らしい理由で、ある意味情けないのはあるが……)。

K女史も、普段暮らす井邑市はKT Xの駅があるとはいえとても田舎町な

ので、せっかく会うなら百貨店のある大邱へということになった。やはり女性には百貨店が魅力的なようである。私はK女史とのデイト昼食(私の一方的な思いだが)、K女史は百貨店、と理由は違うのだが、大邱市はそれを両方満たしてくれる街なのである。

新幹線東大邱駅舎は閑空と同じ設計者なので、ミニ関西空港のようでもとも明るくモダンである。15分毎に上下線(ソウル行き、釜山行き)があり、思っていたより本数の多さに驚いた。

昼前にはK女史が来る予定だ。(韓国の大都市で日本人カップルが待ち合わせる。しかも新幹線の駅だ)小説のワンシーンみたいで、なかなかロマンチックではないか! かなり酔いしれているところに、K女史が現れた。

「こんにちは吉見さん、お元気でしたか」「さあ早く百貨店に行つて、お昼食べましょう」当たり前と言えはそうだが、現実には厳しかった。

「そつ、そつですよー! 早速行きましょう」と言うのが、精いっぱい

あった。

彼女は5時間程喋り食べ、都会を満喫して、夕方にはまた井邑に疾風のごとく帰って行ったのだ。

翌日朝起きると、パツチリと快晴。気温は10℃だ。八階のオンドル部屋の窓から八公山がとてもよく見える。

時間短縮のために、行きはタクシードを捕まえて登山口まで行った。「桐華寺カジカジュセヨ! (……まで行ってください)」と乗り込んだタクシードの運転手の姿は、寒いのに黒のビチビチ半袖Tシャツ、酸しきもなないに黒サングラス、なぜか手にはレーシンググローブをビシッとはめている。

これはえらいタクシードに乗ってしまった。案の定レーシングカーまがいの超高速運転で、あつという間に登山口まで到着した。韓国タクシードはケイイン(個人)タクシードが基本なので、どんなスタイルでもOK、超個性的なのだ。

まず新羅時代の名刹桐華寺にお参り

をして、お寺の東横から登ろうとする
と、いきなりチュルイブクシチ(進入
禁止)表示攻撃に見舞われた。理由は
登山道の整備である。無視して入ると、
韓国では外国人といえども、こっぴど
く怒られるのである。

困っているところに、うまく?ア
ジユマが現れて、「その脇道上がった
いきやいんだよ!」と指示をも
らったが、結果これがまたどえらい道
を歩かされることとなった。

踏跡はしっかり付いているので、真
北に向かって上がれば尾根道とどこか
に出るのはわかるのだが、日本ではこ
の程度の道が幾らでもある。最初は全
く心配していなかった。

韓国での道しるべは、テープを木に
巻くのではなく、木に黄色や水色のリ
ボンを垂らすのが基本である。これ
をたどって尾根筋をひたすら一時間半登
る。しかし、尾根の傾斜がきつくなっ
てきた所から細い岩稜となり、まるで
行場歩きの連続となってしまう。仰
ぎ見ると両サイドに花崗岩の大絶壁

だ。(かなりやばいな!)もしあまり危
険だったら引き返そうと心に決めた。

固定ロープをつかみ、岩と岩の細い
隙間を抜け、切れ落ちた岩棚を廻り込
み、見事に絶壁の間を抜けてやっとの
思いで岩峰頂上にとどり着いた(やっ
たー! 感激だ)。しかし、予定した場
所よりかなり東にたどり着いたのだ
た。岩の上からは東西尾根筋、今たど
って来た尾根などが一望のもとであ
った。合計2時間20分だった(やられた
な!)。コレが正直な感想であった。

岩峰を少し下り、一般縦走路の看板
を見たときは心底ホッとしたが、もう
ヘトヘト。とりあえず東峰(一般的頂
上)へ行き、登山者と会うことだけを
考えた。

その縦走路であるが、これまたグ
レードが高く、岩の間を抜けて固定
ロープを頼りに切れ落ちた岩壁縁を廻
り込んだり、そのうえアップダウンが
ある。大峰山の行場歩きのような感じ
だ。

さらに1時間で東峰頂上に着いた。

などいろいろと差し入れしてくれ、長
い休憩となった。

下山路は裾野になるにしたがつて多
岐に分かれる。どこを歩いているかが
わからなくなるので、おばさん達に頼
んで山麓駅まで連れて行ってもらっ
た。

単純な登山路とハイグレードな縦走
路が混在する、とてもメリハリがきき
すぎたおもしろい山であった。この八
公山を遠くから見ると山並は、韓国らし
くないいたって平凡な山容である。と
てもあの行場のような縦走路が待ち受
けているとは想像できない。何とも変
な山であった。

この山だけを目的にして行くには無
理があるが、一つだけとても素敵なお
勧めがある。それは松茸だ。

大邱市内の市場へ行くと、減茶苦茶
に破格で松茸が売られている。ソウル
と異なり日本の一般観光客が寄らない
場所なので、極端に安いのだ。1万円
もあれば15.5程度のカバンが一杯にな
る。今回どっさり買って帰りに近所

友人・スタッフに秋味のプレゼントを
した。

わが家では、焼き物・吸い物・松茸
ご飯など、家族4人で連日の松茸コー
スのパーティとなった。コンロヘッド
を持って行けば、宿の前で松茸パー
ティができるはずだ。これからの秋
は、韓国登山旅行が定番にさせられ
るかも知れない。

ところで、何回かにわたって韓国の
山歩きを紹介しているわけだが、最近
この本や私のブログを見られて、相談
に来られる方がとても増えてきた。同
好の士が増えるので、とても喜んでい
る次第である。

△コースタイム▽

*今回、間違って(仕方なく)パリエ
ーションコースを歩いたので、参考にな
らない。

(一般)桐華寺登山口(1時間40分)ヨ
ンブル峰(1時間20分)ヨンブル峰(30分)
東峰(2時間10分)ケーブル山麓駅



八公山付近略図

アタツテ痛い靴の中広げします

靴底張替承ります!

YOSHIMI

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/

TEL. 06-6772-7231

毎週木曜日定休

俳聖・芭蕉の生誕地を訪ねて

松永恵一

伊賀上野時代

芭蕉は寛永二十二年(1644)伊賀上野の赤坂町で生まれ人と成った。幼名金作。長じて宗房と名乗る。俳号は実名宗房を、次いで桃青、芭蕉と改めた。蕉風と呼ばれる芸術性の高い句風を確立し、俳聖と呼ばれる。父は松尾与左衛門。無足人という半武士待遇を受ける農民であったが、別家したため農民階級となる。上野の城東の赤坂町は農民の居住区。苗字持ちの松尾家は町内でそれ相応の家であったと思われる。母は藤室藩侯の移封に従って伊予宇和島から伊賀名張に移住した桃地氏の出と伝えられる。長兄半左衛門、ほかに一姉三妹がいる。

芭蕉翁生家

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり」と記した潔白の詩人・松尾芭蕉は、現在の伊賀市上野赤坂町に生まれ、今も生家が残されている。幕末の安政の大震災(1854)で壊れて改築され、また明治時代に建物を譲って転居しているので、どこまでが当時の姿を残しているかはよくわからないが、通りに面している格子構えの古い町家からは昔の面影が伝わってくる。

低い格子戸をくぐり中に入ると、玄関から奥まで通り土間となっている。芭蕉翁の座像が置かれた表の間、中の間、奥の間があり、土間を奥に進むと水屋、釜戸、井戸、みそかめ、おひつ、ひき臼などの生活道具、風呂場、便所などがある。

「貝おほひ」を執筆した裏庭の釣月軒は草庵。間口二間・奥行き半間ほどの土間が手前にあり、座敷は六畳一間で文机と行灯が置かれている。

俳諧に興味をもったのは10代の後半。

このころ藤室藩伊賀付士大将で五千石の太身藤室新七郎家に出仕した。台所の奉公人であったが、京都の北村季吟に師事した2歳年上の俳諧好きの師曹子良忠・俳号季吟に親愛される。季吟邸に出入りしていた上野の先輩的俳人、保川一笑・窪田政好の両先学に親しみ、才も認められ仲間入りする。寛文六年(1666)季吟没す。享年25歳。季吟の位牌(遺骨・遺髪)を捧じて紀州高野山報恩院(曹賢院の前身)に納めたという古伝があるが、伝説色濃厚なものである。

伊賀上野時代に応募し入集した俳諧撰集は十二集にのぼる。上野俳壇の顔

「貝おほひ」

書名は女子の遊戯の「貝おほひ」の「あはせて勝負をみる」ところに由来する。

三十番の発句合で、宗房に句を寄せた36人の発句と自作二句を左右に合わせ、序に「小六ついたる竹の杖、ふしぶし多き小歌にすがり、或ははやり言葉のひとくせあるを種として、…」とあるように、遊里や巷間で流行した小唄・俗謡・流行語などを自由奔放に用い、洒脱軽妙に自ら判詞を記して勝負を定めている。

宗房の二句は、「まてもみよ甚べが羽織花ごろも」と「女尻鹿や毛に毛がそろうて毛むつかし」。発句も判詞も、洒落気が横溢している。宗房が滑稽、談話を嗜んだと跋文を書いた横月は宗房を断金の友といい、その俳諧の奇才を嘆賞している。

自序と跋を加えた「貝おほひ」が上野天神宮に奉納された寛文十二年は、菅原道真公の七百七十年忌で、廿五日は例祭日にあたる。

芭蕉翁生地の地



役となった宗房は、三十番発句合「貝おほひ」を自選し、「寛文拾二年正月廿五日 伊賀上野松尾氏宗房、釣月軒にしてみづから序す」と自序を加えて上野天神宮(菅原神社)に奉納し文運を祈願した。寛文十二年(1672)の春、郷里を捨て俳諧で身を立てるべく江戸に下る。ときに29歳であった。

城下町お菓子街道

上野城の南側には、甚整の目のような町並が広がる。和菓子店が多いのは、昔は魚を手入れにくかったため、冠婚葬祭には鯛などをかたどった「おしもん」が欠かせなかったからという。おしもんは、もち米からつくる寒梅粉と砂糖を合わせて木型に入れ、白あんを入れて押した菓子。

初盆は、和菓子箱につめて仏壇の左右に御供えする。重箱には赤飯ではなく村雨をつめたという、お菓子王国も時代の波に勝てず、かつての賑わいを失った。

銘菓を訪ね歩いて回る「城下町お菓子街道」は、五枚つづり630円のクーポンで、一枚ごとに指定の菓子と引き換える。1、2個だけでは求めにくい和菓子がお得な値段で手に入る。

忍者の携帯食だったという素材な「かたやき」「釣月軒」からとられた桔梗屋職居の「釣月」、田山屋亀栄の南蛮菓子「ながさき」、和菓子の食べ歩きが芭蕉の世界へいざなってくれる。



上野天神宮

コース概観

伊賀国は伊勢・近江・山城・大和の国々に囲まれた山国。伊賀流忍術発祥の地、俵型・松尾芭蕉の生誕地として知られる。

旧街道筋には代々営む和菓子屋がそれぞれ銘菓を守り続けている。さまざまな歴史に彩られた街を、芭蕉気分で一吟詠みながら、和菓子を食べながら歩いてみよう。松本零士デザイン忍列車に乗り訪ねた。



数ならぬ身となおもひそ玉祭り
愛染院を少し南に行き西へ曲がる。
左に伊賀肉の老舗・金谷、右に板状の干菓子ながさきの出山屋亀栄。前方の広小路駅は小さな無人駅。線路を渡ると上野天神宮。巨木の多い立派な社がある。いせやの草ころを手に参拝する。立派な楼門、鐘楼が目引く。鳥居をくぐり右に「貝おほい願影記碑」と並んで句碑が建つ。
初さくら折しもけふはよき日なり
毎年10月23日〜25日に四百年の伝統を持つ上野天神秋祭(国指定重要無形民俗文化財)が盛大に行われる。豪壮な二

近鉄大阪線の伊賀神戸駅で伊賀鉄道に乗り換える。単線で二両編成の車両は伊賀盆地を坦々と走る。上野市駅下車。モダンなスタイルの駅舎は大正時代の建築。駅構内に忍者がいる。

駅前ロータリーに芭蕉翁が在りし日の旅姿で立っている。像を背に左へ折れて踏切を渡る。広い道は藩の本城、伊勢の津とを結ぶ伊賀街道(国道163号)で、このあたりは大名大路と呼ばれている。道の北に上野城があり、丸ノ内上で上級武士の屋敷が並んでいた。東から西小学校、上野高校、崇徳中学校と続き、南側が町人・商人町。築城の名手・藤堂高虎が築いた上野城は上野公園として整備されている。二の丸跡には芭蕉翁記念館や芭蕉翁の旅姿をあらわした俳聖殿が佇む。大坂方との戦いに備えた高さ日本一といわれた30mの高石垣を誇る本丸跡から西北に目を放つ。山中に似ず広い。伊賀川が流れている。街は南方にのびている。上野は高原という意味からきたという説に頷いた。高虎は五層の天守閣

を築いていたが、八朔の日に工を起してはならぬという古説を顧みなかったため、竣工直前に暴風雨で倒壊したという。その後は再建されず、今の三層の天守閣は昭和一二年に建てられた。大名大路に戻り左へ折れて少し行くと、芭蕉翁生家がある。庭の句碑
無名庵跡
冬籠もりまたよりそはん此はしら
生家前の道路に面して建つ句碑
古里や躰のをに泣くとしのくれ
生家から東南へほど近いところに愛染院がある。「史跡芭蕉翁故郷塚」の石柱が建つ。松尾家の菩提寺で境内左奥へ入ると芭蕉の遺髪を納めた故郷塚がある。元禄七年(1694)9月、芭蕉は伊賀上野から大坂に向かい、10月12日大坂南御堂前の花屋仁左衛門宅で51歳の生涯を閉じた。訃報を受けた服部土芳(糞虫庵主)と貝増車袋が、葬られた大津市膳所の養仲寺に駆けつけ遺髪を持ち帰った。本堂前句碑
家はみな杖にしら髪を暮参り
故郷塚の周りに建つ芭蕉の句碑

双の神輿の渡御に供奉する百数十体の鬼行列や、稚調戲かな祭はやしを奏でながら続く豪華絢爛な九基のだんじりは、元禄文化を再現する。

上野天神宮から少し戻り寺町を歩く。城下町の東端部で有事の際を考慮、南北約600mに七つのお寺が建ち並ぶ。藤堂家菩提寺の上行寺、寺僧が伊賀の土豪に忍術を授けた万福寺。電柱が撤去され風情のある白壁の土堀が続く。

茅町駅に当たる。右へとり銀座通りを越え中之立町通りを左へ進むと、愛宕神社の赤い鳥居が見えてくる。手前を左に曲がると、芭蕉五庵で唯一残る県史跡・名勝糞虫庵がある。服部土芳の草庵で、庵園きに贈った芭蕉の句、「みの虫の音を聞にこよ草の庵」から名付けられた。芭蕉の好んだ庭に「古池や蛙飛び込む水の音」の句碑が立つ。糞虫庵を出て中之立町通りを北向きに歩く。南北に通じる道は、東から寺町通り、銀座通り、中之立町通り、西之立町通り。東西に大名大路が走り、南は平行して本町通り、二之町通り、

三之町通りがある。このあたりは商売の特権が与えられた町人の町で、今も伝統的な町家が建ち並んでいる。かぎや餅店は昔懐かしいたたずまい。本町通りを東から西にお気に入りの和菓子求めてのんびり歩く。紅梅屋本店、桔梗屋織居、御菓子司おおにし、湖月堂、練田製菓。上野市駅に戻る。

《コースタイム》
近鉄上野市駅(5分)芭蕉翁記念館(5分)俳聖殿(15分)芭蕉翁生家(5分)故郷塚(10分)上野天神宮(15分)糞虫庵(15分)上野市駅

△地形図V2万5千II上野
△費用V
近鉄鶴橋駅〜伊賀神戸駅 1040円
伊賀神戸駅〜上野市駅 350円
芭蕉翁生家 300円
糞虫庵 300円
芭蕉翁記念館 300円
三施設割引共通券 750円
(問い合わせ先)
伊賀上野観光協会
☎0595(26)7788

山の地名を歩く⑧

オオクエサン
大崩山

西尾 寿一

延岡といえば、かつて豊後の大友氏がキリシタンの理想郷をつくるつもりで遠征した土地だったのに、現在は忘れられたように陸の孤島化している、と地元では嘆く。高速道路も無く、資本も入らず20年は遅れていると知事まで動員して中央に働きかけているのだが、登山者やアウトドア指向の人にとっては、それが逆に有り難くみえるのは皮肉でもある。

それでも林道は相当奥まで入っていて、何の目的なのか不明のものまであるが、林業や治山・治水と美観との両立は難しいものだ。

る。

所在地の分布を概観すると「クエ」が古く、「クズレ」が新しい時代のものでこのように見受けられる。

標高が高くて群山の一部だったたり、まとまりのない山の一部だったりするなかで、やはりこの大崩山の存在は群を抜いて秀でていると感じるだけの要素がある。名は体(態)を表している一例である。

では、なぜ大崩山の東面の一部分のみが激しく崩壊し、巨大な岩壁が露出したのだろうか。

その理由を「新日本山岳志」には次のように述べている。

「地表部は四万十層を貫く形で地下深部からマグマが上昇したもので(中略)侵食作用によって花崗岩が露出した所では尖峰・絶壁など急峻な山容を形成している」とある通り、近隣の祖母・傾の山群も同様のことが言える。

侵食による破壊作用とは当然のこと台風など大雨のことと思われ、特に東面が激しく侵食された結果、大量の土

中央の視線が福岡から熊本を通過して鹿兒島へ行くなかで見落とされたのかも知れない山々の中に、椎葉・祖母から南下する山地がある。

そんな中の一峰が大崩山である。百名山に入らなかつたのを意外とするが、中部地方の一峰を割愛してでも入れるべき資格はあると私は思うが、関係者には想定外の山だったのだろう。

大崩山(1643m)はわが国では数少ない花崗岩の立派な岩壁をもち、秩父の瑞麟山同様クライマーの注目する所となり、フリークライミングの一大道場となっている。

また、祝子川を中心とする周辺の沢や谷は渓谷廻りの対象とされているが、まだ未開拓の沢もあり、十分研究しつくされていない。

この山塊においては、シーズンの土・日・祭日以外ほとんど登山者に出会わない。関東や近畿の山での行列を見慣れている人々にとつては意外であるが、それだけ峻しい山で恐怖すら感じる人がいるからかも知れない。

山名は実にシンプルである。現地の状況をそのまま表現したもののようである。周辺の他郷から別の表現もあつたはずだが、それらを淘汰して残るべく強烈なインパクトをもつ個性が、大崩山にあつたといふべきだろう。

崩の源は「ホウ」で、わが国ではこれを(崩え)とし、さらに一字で(クエ)となつた。説文に「山壊るるなり」とあり、潰・壊などと同じ領域を示している。ただ崩は「字統」では「日(京)に従うことから神梯の形として、その聖域の異変を言う」とあるから、単なる凡岳の崩壊ではなく、もつと高い位をもつ聖なる場所(神域)の崩れ去るさまを表すものと理解される。

「日本山名辞典」(三省堂)には大崩山が他にも散見されるが、崩を名乗るのは大分久住山系の大崩ノ辻(1458m)の一例のみで、大崩山が群馬県にある。他に大崩山が乗鞍岳群の岐阜側と岡山県久米高原にあり、大崩の名をもつものに白神山地の北辺と、その他山岳以外の無数の地にもみられる。

大岩峰と対面する。圧倒的な大岩壁を左に尾根を直登すると、次第に岩混じりの樹林帯に入り、スラブのトラバースを経て約4時間強で山頂に達した。

反対側の鹿川から来た登山者と語り合うのも楽しかった。大崩山の北東側の岩尾根は見事なまでの岩の殿堂である。クライマーにはこたえられない聖地なのだろう。時々、岩を叩くハンマーの音が聞えてきた。いつまでもいたい気分だった。しかし、掃路に金山谷から三里河原を通る予定としていたので洗々腰をあげた。

途中に飛行機が墜落した跡がありエンジン残骸が残っていた。この付近は大崩山の名の通り崩壊の岩片が積もつて今も崩れている。

金山谷から祝子川溪谷をくだつて行くのは実に良いものだった。登山靴のまま川を渡り、測をへつりながら行く、発達したゴルジュに高捲道となる。核心部は左岸のへつり道であるが、

実に楽しい山行だった。

砂流出がおき、その流路の溪谷も同時に激しく侵食された。

今日見る大崩山の景観は見事なものだが、ある時代には荒廃し、見るも無残な姿であつたと思われる。

袖ダキ(岩場のことをタキ・ダキと表現する地方は九州北部の他に四国にもある)から見る湧塚岩峰の姿は大崩山の代表的なもので、クライマーが取り付いているがその名称こそは、この山の成立過程を見事に言いつくしていると思う。まさに岩が地中から噴出して周りの土砂を洗い流した結果の姿であつた。

大崩山に登るべく計画したことは何度もあったがその都度、様々なヤボ用が生じて実現しなかつた。2003年の4月にやっと京都から2人、九州の友人ひとりと、温泉の別荘を借用して付近の山々を片っ端から登つた。そして最後の山が大崩山だった。

上祝子川から大崩山荘を経て尾根に取り付き急登のち、袖ダキ、湧塚の



無限江山
新春に雪の積もる裏山へ
登る楽しみ

村上俊雄

山のレポート

十二支の山

寅年の山

生駒 聳峰

今年の干支は寅(虎)である。寅は十二支の三番で、昔の時刻では現在の午前4時ごろを指す。方位としては、北から東へ60度(北東東)の方向を示す。虎は猫科の哺乳類で、東南アジアからインド・シベリヤ・アフリカに生息し、人類に被害を加えるので恐れられている。

十二支の中でも唯一日本に生息せず、日本では馴染みが薄く、知られていない。そのため山名に採り入れられることも少なく、十数山にすぎない。

山名の由来は、山の植生が虎の毛の模様に見えているとか、その荒々しい性

格から、山が荒々しく崩壊しているに
よるらしい。高度順に記載してみる。

- | 名称 | 標高(約) | 20万円 | 5万円 |
|----------|--------|------|------|
| 虎毛山 | (1432) | 秋田 | 秋ノ宮 |
| 虎子山 | (1183) | 岐阜 | 長浜 |
| 虎ヶ峰 | (790) | 田辺 | 川原河 |
| 虎ヶ尾岡 | (510) | 鹿児島 | 国分 |
| 寅巳山 | (446) | 日光 | 矢板 |
| 虎丸山 | (417) | 徳島 | 三本松 |
| 虎ヶ岳 | (414) | 山口 | 徳山 |
| 虎石山 | (404) | 八代 | 佐敷 |
| 虎伏山 | (275) | 和歌山 | 粉河 |
| 虎星山 | (255) | 長崎 | 佐尾 |
| 虎御前山 | (220) | 岐阜 | 長浜 |
| 虎浜山 | (159) | 飯田 | 美濃加茂 |
| 虎伏山(正始山) | (71) | 広島 | 広島 |

虎毛山は、奥羽山脈の宮城県に近い

秋田県の山で、東北百名山である。展望が良く、湿原のお花畑が有名である。溪谷沿いの道は長い。3時間半程の登りである。東北の山旅で登山口まで行ったのだが、悪天候で断念したまま、いまだに登っていないのは残念だ。

虎子山は、伊吹山北尾根の先にあり、美東のスキー場から入る。尾根を登って稜線に取り付いて北に登る。私の登ったのは20年も以前のことだが、道は不明瞭で、少しやぶっていた。

虎ヶ峰は、紀州の田辺からの竜神街道の途中にある。すぐ前の寅年に登ってみた。新しい国道はトンネルで抜けるが、田辺道に神社があり、案内板もあって簡単に登ることができた。三等の標石があるが展望は無い。

虎御前山は、北陸道が山麓を走っている。名前のわりには見栄えのしない山である。南から車道がバラボラアンテナまで通っており、登山というほどの山ではないが、北の小谷城址と共に登ってみるとよい。近くには須賀谷温泉もある。

ところで、リストにある粉河の「虎伏山」が見つからない。地形図に記載がないし、それらしい標高の山も見つからない。大阪に近い地元の山なのに少し残念。どなたかご存知の方はお知らせください。

比良の麓に住んで30年になる。家や主人はくたびれが目立つが、山と湖の風景が変わることはない。今でも季節の変わり目の朝夕など、これまで見たことのないような新たな表情を見せ、ハッとさせられることがある。

湖東から琵琶湖大橋を渡るとき、湖越しに見る均整のとれた比良の姿はどれもがよく知るところだが、丘陵を縦断する湖西道路が無料となつてからは、車を走らせることが多く、家路を急ぐ夕方など、フロントガラスいっぱい広がる琵琶湖へ追り出すようにそびえる比良の山並はいつ見ても感動的だ。

高島や余呉へはトレイルの関係もあって足繁く通うが、この帰路の武奈ヶ岳から蛇谷ヶ峰の夕暮れも安曇川デルタを前景として壮大だ。朝夕こうした役者が揃った絶景に接するにつけ、いい場所に住むということとはとても贅沢なことだと思う。

冬になるとこれらの山が、雪が積もる裏山になることも私にとつては喜ば

しいことだ。どつさり積もった朝など、通動のわずらわしさを農薬・林業人の憂鬱さもない。こうした時だけは自由業の気楽さゆえ、ゆつたりとその光景を味あわせてもらっている。降雪は一方的に私たちの日常のしがらみなど遠くへ追いやり、ただただ自然の凄さを美しさでもって認めさせようとしているのである。

確かに自然の本来もっている勢いを取り戻したかのような琵琶湖や、家の背後にそびえる蓬萊山から権現山の白銀の稜線に目は釘づけにされがちだが、その魔力を振り払うようにそそくさとさらにお気に入りの場所へ出かけることになる。

雪道の運転に慣れるにしたがつて行動範囲は広がり、比良の奥の針畑、さらに三谷、在原の裏山などへ足をのばすようになる。私は克雪という言葉が好きだ。そのイメージはあくまで雪に生きる動物であり、君子ではないのでこたつで丸くなるわけにはゆかないのだ。

湖西の山は比良より低い、積雪量ははるかに多い。日本海側に接する中央分水嶺とはすこいものだ。そして今は56年豪雪で6月の雪が積もり孤立した余呉の中河内あたりまでフィールドは広がっている。

雪への接し方も、多くの人が歩く山へトレイスを追って登る安易な歩き方で満足していたものが、スノーシューを履くようになると、それを駆使してトレイスのない山へ向かうようになった。やぶ山では麓から山頂まで総合的に考えれば山スキーよりはるかに有効だ。踵が山スキーと同じように直角まで上がるタイプのもを使うようになると、さらに登り下りの時間が短縮し、特に急斜面を駆け下りることができるようになり、高島トレイル12山はすべて日帰りで安全かつ快適に楽しめる。

道の無い時代の三重嶽などは残雪期にのみ許された山であった。スノーシューによって新雪を蹴散らせながら厳冬期に登ることができるようになっ

ただだからすばらしいことだ。雪原となる広い山頂付近やブナ林の登降行は無雪期では想像もできないくらいの変わりようで、北の三国山、西の三国岳などととも私を夢中にさせる。

地元の人の力が結果し様々な山道をつないで出来た高島トレイルには多く



三重嶽山頂にて

の人が集い、余呉ではトレイル整備が進んでいる。これをすでに歩き通した人、私は冬のスノーシュー登山を奨めている。日帰りでどつさり雪が積もる山が楽しめる場所は、そうあるものではないからだ。

北アルプスなどに登り、帰ってこれらのトレイルを歩くと心が何かしら和むものがある。春夏秋冬、知りつくした裏山を歩く心地好さともいえるだろうか。

昔から京都の岳人は北山に親しみ、奥美濃で独り立ちし、高山や外国の山へ羽ばたいていった。私は北山からスタートしながら、今も北山に続く、裏山、湖西、湖北の山に足繁く通っている。進歩がないかと思いつながら、その心象風景は色褪せることはなく、逆に色濃くなっているようで興味はつきない。

湖北の山の頂から目を東に向ければ、能郷白山を頂点とする奥美濃から蛭ヶ野、白山、天空遊歩道の川上岳、位山を経て中央分水嶺最高峰の乗鞍岳へ至

る山並が一望できる。まさにアルプスへの自然回廊といえるだろう。

頻りに眺めるうちにこの社大な垂直分布をもつ山々を、裏山感覚で歩き廻りたい夢は確実に膨らんでいる。先人と同じように私も高みや遠くの山への憧れも人並みにあるが、日々のこうした低山歩きをそのトレイニングと考えたことはない。だれにも個性があるように、山にも高さだけではかれない持ち味があるからだ。

私が特に注目するのは自然度である。どれだけ生態系の維持された自然が残されているか、そして冬の積雪が多いかということになる。この自然回廊には生命感溢れる豊かな冬の表情がある。それにふさわしい歩行道具がスノーシューではあるが、もうすこし滑走性能が高いものがあれば、というのが唯一の贅沢な悩みである。

今年拓かれた横山岳余呉ルート(12ページ参照)のスノーシュー登山がまずは新春の楽しみといったところだ。

コースガイド

越前

（里山シリーズ54 福井県一乗谷）
静かな城山と館遺跡
一乗城山と朝倉氏館遺跡

一般コース（★★★）
長宗 清司

JR福井駅で越美北線に乗り換え、一乗谷駅で下車する。県道31号に出て右折し、右側に美しい稲田が広がる歩道を歩く。道路の反対側は足羽川の大きな流れ。安波賀集落の中を右にとって足羽川支流の一乗谷川沿いに出る。ここに朝倉氏館遺跡の案内板がある。県道18号を川上に向かう。やがて道が二分し、川沿いの旧道に左折して次の集落に入り、山手にある八幡神社の前に出る。

自然の地形を巧みに利用した山城は、標高475mの山だが、山というよりも長い尾根が連なる城山である。小さ

な広場の本丸跡、大きな礎石が残る千疊敷。宿直跡からは、眼下に土塁をめぐらせた観音屋敷跡や赤濁明神社跡、福井平野が一望できる。小高い丘の一の丸・二の丸・三の丸などの遺構が、南北に走る尾根上50mの範囲にわたっている。

これらの遺構を取り巻く、空堀・堀切・堅堀、伏兵地の跡などを経て一乗城山山頂に立つ。三角点(435.8m)の標石は少しくだつた先にある。

ここまで急登もなく、山道もしつかりしているので、攻撃を仕掛ける城の感じはまるでない。小高い丘の公園内を歩くように楽しめる山城である。ただ、三本ある登山道のうちの二本は、毎年の大雨で崩壊して現在通行不能である。「登山者でも利用できない」との地元の人々の声を信じて、元来た道を引き返す。

なお、時間に余裕があり、健脚で読図に長けた御人には、三の丸跡を過ぎたあたりで注意してもらい、山道が残る尾根を探ってほしい。これは、尾根

入る。東西南北それぞれ80mと、想像を超えた大屋根の館。瓦が発掘されないので、おそらく葺きか葺きだったものと推察される。

五代目義景の墓所から山の斜面へ石段を登る。背後の山を借景にして、古風な枯山水の湯殿跡庭園や、上下二段の構成をもつ豪華な諏訪館庭園は、下段の中央に高さ4mを超す巨石を用い、谷水を利用した滝石組と池のある優雅な庭園である。

最近、武家屋敷前バス停近くに「町並」が復原された。帰路は、足羽川畔まで戻るのもよいが、できればここから、便数は少ないがバスで福井駅に帰

一乗谷朝倉氏館遺跡「唐門」



伝いに499mを過ぎて林道に出たあと、左に行けば白樺山(720m)から一等三角点の山「一乗山」(740.9m)へと続く。先ほどの分岐点を、右に下降すれば一乗滝に出て、県道18号を一乗谷川沿いにくぐれば、朝倉氏館遺跡前に出る。

一乗谷は、福井市街東南約10kmにあり、戦国時代、朝倉氏が築城し、織田

るのが無難である。(平成18年9月3日、同21年7月29日歩く)

《コースタイム》
JR福井駅(電車17分)一乗谷駅(10分)安波賀集落(20分)八幡神社下(10分)摩屋仏(20分)櫓跡(10分)千疊敷(10分)一の丸(5分)二の丸(5分)三の丸(15分)一乗城山(15分)三角点(50分)八幡神社下(10分)下級武士屋敷群(10分)唐門(1分)朝倉館跡(5分)朝倉義景墓所(7分)湯殿庭園(15分)中の御殿(10分)諏訪館庭園(15分)武家屋敷前(バス50分)福井駅

《地形図》2万5千m 水平寺・河和田(問い合わせ先)
一乗谷朝倉氏遺跡事務所
☎0776 (41) 2173
京福バス福井営業所
☎0776 (54) 5171
福井市観光開発室
☎0776 (20) 6346
(財)福井観光コンベンション協会
☎0776 (20) 6151



北畠氏の城跡

枅(枅)形山

一般コース(★★)
藪木 伸人

松阪市北部にあるこの山は、地元では白米城と呼ばれている。私も小学校の遠足で初めて登ったが、それだけ地元の人には馴染みのある山だ。市街地から往復すると20分は歩くことになる。今思えばよく歩いたものだ。

歴史ある山城跡だけあり、頂上は平坦な台地状で、360度遠るものなしい展望に恵まれている。登路もしかりしており、四季を通して登ることができ。

東からの登路起点は主に二つある。浄眼寺の右手からが一つ。もう一つは大阿坂の阿射加神社左手からだ。小

阿坂にも同名の神社があり、こちらの道からも登れるようだが、私は夏草に負けて撤退した。先の二コースは、周回も可能である。

歴史を語れば、北畠親房が1335年に築城したと伝えられ、本来の名称は阿坂城(北郭は椎本城とも呼ばれる)という。2万5千坪では、かつては「白米城跡」と記されていたが、現在は正式の「阿坂城跡」が用いられている。

親房の子、顕能は初代伊勢国司に任じられた。その子、顕泰が二代国司を務めていた1393年には、將軍足利義満が伊勢参宮の帰途、この阿坂城に泊まっていた。1399年の応永の乱では幕府軍に加勢し、顕泰の子、満泰が戦死。弟の満雅が三代国司を継ぐ。

1412年、將軍義持が南北朝選立の約定を破ったため、もともと南朝方だった北畠一族、満雅は幕府に反旗を翻す。1415年、幕府は、土岐持益以下5万の大軍に阿坂城を攻めさせた。だが落とせず、停戦にいたった。この時籠城していた北畠軍が軍馬に白米

三角点「白米城」と白米城址碑



を浴びせ、幕府方に水が豊富にあると見せて断水状態を悟らせなかったことが「白米城」の名の起りりと伝えられる(あえて私見を述べれば、幕府軍5万という数はいかにも多すぎるし、停戦理由も籠城の成功というより政治的妥協があったのではないだろうか)。

1428年には、再度南朝選立を反故にされた。満雅は彼を頼った小倉宮を奉じて出陣、半田(現津市内)の戦中に自刃した。

満雅の子、四代国司教具は、將軍義教の御教書に応じて上京し、任官。1441年、義教伊勢参宮の折には伴をして、嘉吉の変後の1452年

と1469年には、將軍義教の求めで上京。応仁の乱の間は、將軍義親が教具を頼り、北畠領内を転々としている。教具の後を継いだ五代国司政輝は、応仁の乱後の1478年、今の登山起点となっている浄眼寺を建立した。北畠氏の菩提寺である。

教輝の子、六代国司は材親(將軍は義材)。七代国司は材親の子、晴具(將軍は義晴)。美杉(現津市)の多氣に残る北畠庭園は、義晴と共に訪れた細川高国の差配でつくられたものである。さて、阿坂城がついに落ちたのは、



晴具没後、後を継いだ息子、八代国司教具が、織田軍の伊勢侵攻に抗した室町末期のことだ。1569年、阿坂城を守っていたのは、大宮含忍斎ら1千足らず。対して寄せ手は、木下藤吉郎率いる1万8千の織田軍。しかし、8月26日、城主の息子、大宮敏連の放った矢を左股に受けて藤吉郎は落馬。これが彼の生涯でただ一度の戦傷だったという。

圧倒的に不利な戦況のなか、城兵は3日間にわたる攻撃によく耐えたが、とうとう城を陥れることとなった。この戦で城下の里もろとも浄眼寺も焼かれてしまい、現存する最古の堂宇は宝暦年間に再建されたものである。

山頂で、230余年に及ぶ阿坂城の歴史を感じさせるものは、今や台地状の郭跡と石碑のみ。往時戦火に焼かれた場所が、今は長閑な憩いの場になっている。石碑の前には三等三角点「白米城」(312.1m)があるが、今夏は草がよくのびていて、すぐ見つけられなかった。10年前は、オミナエシヤカ

ワラナデシコが咲いていたが、ずいぶん無くなっている。とはいえ、百種類以上の植物が見られる山である。

遠望がきくのは、むしろ冬で、伊勢平野・伊勢湾はもちろん、名古屋、知多よりも遠い山並まで見通せ、反対側は度会(山々)、間山、矢頭山、経ヶ峰などの山々が続く。

浄眼寺からの登路は、幅広い道で、北郭を経て山頂に至る。大阿坂からの登路は、山道に入ると階段が多いが、そのぶん早く山頂に着くことができる。大阿坂から登って寺の方にのんびりくだる右廻りコースが、私のおすすめである。(平成21年8月15日歩く)

- △コースタイム▽
- △右廻り)阿射加神社(45分)枅形山(40分)浄眼寺
 - △左廻り)浄眼寺(50分)枅形山(35分)阿射加神社*浄眼寺)阿射加神社間の車道歩きは25分。周回歩行時間は1時間50分。
 - △地形図V2万5千)大阿坂

(男山8の字ハイイク)
おとこやまはとみね
男山(鳩ヶ峰)から
いwashimizuはちまんぐう
石清水八幡宮

一般コース(★)
松尾 一郎

下りの京阪電車が淀駅を過ぎて宇治川・木津川の鉄橋にかかる頃、前方に小高い山が見えてくる。男山(鳩ヶ峰)である。山頂には武運長久の神として名高い石清水八幡宮(注1)が鎮座している。正月の初詣でを兼ねて、初登りはいかが。

近年、男山ハイキングコースとして、「こもれびルート1・3」、「せせらぎルート0・7」、「ひだまりルート1・2」の三コースが再整備された。各コースとも道標が完備し、手入れも行き届き、初心者でも歩くことができる。今回は三コース共に探訪し、八幡宮

に二度登ることになるが、ケーブルリウを含め、適宜コースを組み合わせて楽しみたい。下山後には近辺の安居橋・飛行神社・らくがき寺(単伝庵)などの名所もあり、少し雨へ足をのばせば「洛南の名園」松花堂庭園もある。

京阪八幡市駅を出るとすぐ左に八幡市観光案内所があり、「男山散策路」やパンフレットなどをもらおう。

バスターミナル沿いの歩道をスーパーツトミ前で右に曲がると、大きな鳥居(一ノ鳥居)があり、石清水八幡宮の表参道入口だ。「こもれびルート」へは、表参道に入らずに右の狭い神応寺・杉山谷不動尊への舗装路に入る。すぐ右に神応寺山門が見える。

山門前の先にある巨大五輪塔(高さ約6m)に立ち寄ってみよう。この塔は鎌倉時代の豪商が航海の安全を祈願して寄進したもので、「航海記念塔」とも呼ばれており、全国最大規模を誇る重要文化財である。

元に戻り、神応寺山門をくぐって石

トンネル上脇から男山ケーブルを望見する



段道を登ると、三差路に着き、右の石段を登ると神応寺(注2)境内に出る。紅葉の名所だ。

ここから「こもれびルート」に入る。すぐの分岐(注3)は右へ土留め階段を登り、右側に墓地があり、淀屋辰五郎の墓もあるが立入禁止だ。尾根道を登って行くと、岡岡(南北)が開ける。ちようどケーブルのトンネルの真上に



神応寺山門

立っている。左(東)を見上げれば男山ケーブル(注4)の線路が見下ろせる。右(北)を見下ろせば、八幡市の町並が箱庭のようだ。赤い京阪の鉄橋や淀三川(桂川・宇治川・木津川)の流れも見渡せ、このコース唯一の展望地である。

展望地を後にして、「こもれびルート」は竹林の尾根道となり、やがて雑木林に変わる。所どころに標識が立っているのは心強い。途中木枠の階段を登って行くと、右に赤い鳥居が見えてくる。その奥が鳩ヶ峰(142.5m)と二等三角点(点名八幡)山頂である。ベンチや慰霊碑がある。かつては淀三川の合流点が見渡せたが、今ではあいにくと雑木が繁り展望は期待できない。

ここから男山レクレーションセンターへくだるが、途中の展望台も木が茂って見晴らしは無い。金網フェンスに囲まれた舗装階段を下りて左に曲がり、男山レクセンの正門で車道に出る。ここを左にとる。途中、右から「ひだまりルート」を合わせ、男山第一駐車

場に着く。

そのまま体育館の左側を進み、巨大な涌雲塔(水タンク)がある桜の名所男山エジソン広場を通り抜け、休憩所(石泉亭)左側の階段を登れば表参道に出る。参道を左に行き南総門をくぐれば、石清水八幡宮本殿が鎮座している。

石清水八幡宮参拝を済ませたら、石灯笼に囲まれた石畳の表参道を南下し、三ノ鳥居をくぐって神馬舎前に着く。ここで表参道に別れを告げ、右の研修センター裏の南参道「せせらぎルート」の階段をくだると、やがて馬場谷右岸沿いの山道となる。馬場谷道は周りに樹木が茂り薄暗く、湿った階段混じりの急坂道なので慎重にくだらう。やがて大きな堰堤が現れると里に下り立つ。標識に従い左に曲がり、家並の中を行くと八幡市駅からの車道に出る。

「ひだまりルート」へはここを右(南)にとるが、左(北)へ150mほどばかりの善法律寺に寄り道してみよう。室町幕府三代将軍足利義満の生母紀良子ゆかりの古刹で紅葉の名所だ(拝観無料)。



標ヶ峰山頂の道標

元へ戻って町中の車道を南進すれば、神原の走上り交差点(案内掲示板あり)に着く。

「ひだまりルート」へは、この交差点を右斜め(北西)の狭い街路に入る。しばらく住宅街の舗装路(右側は暗渠状の川)を行くとやがて町並も途切れ、木橋谷右岸沿いの簡易舗装路を登って行く。途中流れを三度渡り返すが、やがて左に男山団地への道を分け、右へ竹やぶを登る道を見送ると、石不動の分岐に着く。石不動(奥栗谷不動尊)は左の沢沿いの道の奥にある。「ひだまりルート」は右の山道を登り、やがて竹林が現れると「こもれびルート」の車道に合流する。二度目の石清水八幡

宮へは、先ほど歩いた車道を右へ進む。下山は表参道をくだる。再度本殿を後に南登門をくぐり、神馬舎前になる。左へくだる幅広い石段道を下りるとすぐ茶店(正月営業)が現れる。

表参道はほぼ北に向かって緩急おりませた石段道をどんどんどくたつて行く。左へ登る松花堂跡への分岐を見送り、葛籠折れの階段をくだる。右に住宅街へ下りる階段を分けると、ほぼ平坦道となり二ノ鳥居に下り立つ。ここから広い砂地の道となって、左から裏参道を合わせ屯宮を通り抜けて一ノ鳥居をくぐれば、京阪八幡市駅前のバスターミナルに出る。

(平成21年10月4・11日歩く)

△コースタイム▽
京阪八幡市駅(7分)神応寺「こもれびルート」(3分)ケーブル上(15分)鳩ヶ峰(男山)(5分)男山リクレーシヨセンター(10分)石清水八幡宮(3分)神馬舎(20分)せせらぎルート「登り口」(3分)善法律寺(5分)神原・走

上り交差点「ひだまりルート」(15分)石不動分岐(10分)こもれびルート合流(5分)石清水八幡宮(表参道25分)八幡市駅
△地形図▽2万5千11淀

(注1)貞観元年(859)建立。大和国大安寺の僧行教が豊前国宇佐八幡宮に一夏参籠したとき、宇佐八幡神から山城国移座の神託を受け、朝廷へ奏上したことに始まる。石清水八幡宮の宮司は世襲制で、代々古代豪族紀氏の末裔(平安朝初期の大納言紀古俊美の流れて、名字は田中氏)が継承している。

(注2)石清水八幡宮を勧請した、僧行教が貞観二年(860)に創建。今の宗派は曹洞宗。
(注3)まっすぐの道はケーブルの鉄橋直下をくぐり、杉山谷不動尊へ直接出るコース。

(注4)男山ケーブルは戦前も営業されていたが、現在の男山ケーブル(八幡市駅→男山上駅)は、昭和30年12月京阪電鉄が復活敷設させたもので、水平長4000m、勾配長411m、標高差82m、所要2分30秒(片道200円)。

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 故 小林瓊璃三

このところ、公共交通機関を利用して山に行くことが多い。
8月31日、近鉄・JR・豊鉄バスで弓張山地へ。一等三角点の神石山に登り、座談山を経て兼毛湿原にくだった。浜名湖や三連の海を望んではしゃぎ、咲き始めた白玉草に心躍らせ、帰路に着いた。
9月21日、近鉄・京阪・私電で宝ヶ池へ。東山(大黒天山)に登り、「法」の火床から浴中を眺めたのち、松ヶ崎にくたつた。市バスも利用して府立植物園を訪れ、広い園内を散策。花々

と木々に癒されてきた。
10月10日、近鉄・名鉄で大山へ。木曾川左岸を歩き、寂光院から鏡尾山に登った。二等三角点山頂からは、金華山、伊吹山、鈴鹿の山々、名古屋の駅ビルなどが見えた。ママコナが咲き乱れ、ナンキンナナカマドの葉が紅かった。下山後、犬山城を訪ねた。天守閣からの眺めもよく、尾張富士、本宮山、御嶽山も望まれた。
(松阪市 野木伸人)

呂山へ登った。標高3033mの低山ながら、山自体が展望台とされているだけに、快晴のもと、すばらしい展望を楽しんだ。
頂上から西側に北から南まで180度の展望が開けており、愛宕山から生駒山までの山並が見渡される。眼下には延々と流れる木津川。四連写したり、特に印象に残った場所は五倍ズームで撮ったりした。
JR山城多賀駅から歩き始め、登山道を登る予定が、地元の人に「道はぬかるんでいて危ない」と注意され、車を通る林道を利用した。日曜だったので、行き交う家族連れやサイクリングの若者達ともいろいろ話げできた。折角来たのだからと、下山は登山道をくだることに決め、狭くて暗い山道へ入った。山頂すぐから急下降が始まっており、一歩ずつ慎重に下りなければならぬ。湿っているが、ぬかるんでいる所がないのは幸いだった。

わたたという「龍王の滝」に見参できたことである。いったん登山口の林道へくだり、崖の急階段を下りて谷沿いを通り、滝正面に出て、滝の余勢を眺めた。
下山後、京都府指定文化財である高神社にも参詣したが、古式を感じさせる神社であるにも関わらず、社務所は無人であり、資料すら見当たらなかったのは残念であった。
(枚方市 裏谷 空)

だった。すでに宿泊施設やブールは地形も無く、思い出の場所が消え去り残念だ。

北之庄山に城跡があると知り、最後の急坂を登ると、三等三角点のある北の丸に到着。百々神社から約2時間かかった。

出丸から船木町の首根天満宮へくだる予定であったが、出丸から先はロープが張られ、船木方向はやぶがひどいらしく、下山コースを日本礼八幡宮に変更した。

若い時から何か考え事があると、西の丸から琵琶湖を眺めていた。これからも故郷の山を大事にしていきたいと思った。

(本津川市 久保田 勉)

8月9日、鈴鹿を歩く315「熊谷谷の沢歩き」は天気予報が狂って朝から雨で集合地で中止としたが、「どこかへ」とのこと、金野アルプスのベニスロックにした。

車列が長くなり、栗東市片山から林道の登山道を逸んだが、最後の車が道を違ってしまい、

竜王山真下の右に凡い大岩がある登り口に着いたのが11時前。雨も小降りですく右の谷を渡って登ると、急斜面の左行に岩壁が崖下状に続くベニスロック山門に着いた。

尾根から左斜めに下りて左上の尾根に登ると展望が開ける。その上がベニスロックで、正面から見ると左右に凡い大岩があり、真中に男根が天を突いている。

左の岩には登れるので真上の岩峰に登り、眺望を楽しんで昼食後、竜王山・天狗岩から十九ダム、片山に下りるルートを進む。

24・25年前冬の金野アルプスに登り、竜王山の岩峰に登って草津方面を見た時、すぐ下の斜面に濃い岩がとび出していた。その岩の前に下りると滑かった。先端の割れ目に雪が積もり、リアルでそのまますべりだした。今年の春、谷氏に話して2人で登りルートを決め、切り開いた。命名についてはいろいろ考えたが、そのままスバリ「ベニ

スロック」にした。なお、地元の人に聞いたが知らないと言われた。

現在、金野アルプスには上岡生から登る人がほとんどだが、片山1ベニスロックや竜王山・天狗岩の新ルートもぜひ歩いてほしい。春はベニドウタン・ササユリなどが楽しめる。

(近江八幡市 野野 明)

和歌六年(713)元明天皇から畿内七道諸国の郡縣に姓字を付け、各国の土地の肥沃度、産物、地名の由来・伝承を報告せよとの命があり、各国で編纂されたが、まとまった形で今に伝えられているのは、播磨・常陸・備前・出雲・備後の五ヶ国にすぎない。この時は「風土記」の名はまだ見えず、「常陸国風土記」の巻頭に「常陸の国司解す……」とあり、国司の「解」として中央へ提出された。このような官撰の地誌を「風土記」と呼んだのは平安時代からであった。

いずれも古い編纂だから欠脱

(大津市 藤原次郎)

などもあり不完全なものだが、ほぼ完全とされる「出雲国風土記」は物から20年後の完成だから、国司も編纂に苦勞したよう

だ。最初に提出されたのは「播磨国風土記」(713)で、これが、これも巻首と明石郡が欠け、賀古郡の記事に欠損部分があり、赤松郡が記載されていないが、奈良時代最古の地誌として評価が高い。

最近、姫路の「播磨学研究所」の会員達が「播磨風土記」の遺稿を実際に訪ね歩いて記録をまとめた。「はりま風土記の里を歩く」(本体1600円+税、神戸新聞出版センター)が発行された。

執筆は会員が分担、監修は本誌でお馴染みの須藤尚輔氏。ほとんどが田園地帯の里歩きで、トイレ記載の親切なマップもあり、約1300年前の風を肌で感じながら、シニアハイカーや古代史ファンが楽しめるガイドブックに仕上げている。

最近、山をひとり歩いていて、中高年も多いが若い登山者も目立つようになった。歩ける人はほとといて、どこかの山に行くだろうが、やはり気になるのは山を歩きたくても案内してくる人がいない人のことである。「歩きたいのですが、どこかそのような会はありませんか」「この山なら私らでも歩けますか」などと聞かれることがよくある。

「これから山を歩いてみたい」と言う人を中心に案内する機会をつくってみようと思いつき、今月から「火曜ハイク」とは別に「ゆっくり歩こう」という山行を計画します。

しかし、問題は、会員の参加も歓迎しますが、対象にしたい人達は新ハイの本を見ていないから、参加する方法がわからないということである。

そこで会員の皆さんにお話しがあります。「これから山歩きをしてみたいが……」と言う人が身近におられたら、毎月一回の計画「ゆっくり歩こう」(初

級者向き)を紹介していただければ幸いです。京都・六甲など近郊を中心に案内したいと思っています。

ゆっくは、新ハイの会員になり、皆と一っしょに歩けるようになることを期待し、頑張りたいと思っています。

(豊岡市 神谷礼司)

8月3日、前穂高岳を中止し、嵐尻の高ボツ山と鉢伏山(300名山)を歩く。

4日、中房温泉より有明山(200名山)を歩いたが、きつい急坂が多かった。

7・8日、秋以外の人は白山に向かい、私はオゾツ山と嶺ヶ馬場山の下見に行った。白山は大雨で、予定のお花松原は止めて下山してこられた。

13・15日、今年の干支の山(赤牛山)に行った。日本で最も時間がかかる山だと聞いていたがその通りで、野口五郎小屋から12・13時間もかかった。七倉から往復で28時間。

22日、毘沙門岳に行った。中

央分水嶺の山で、北から東と西は見晴らしが良かった。

23日、下呂御前山に例会で行く。見晴らしは最高で、お盆に行った赤牛山まで遠望できた。

29・30日、北アルプスの縦走に行った。29日朝方は小雨で大噴霧から中岳・南岳への縦走は止めて、直線南岳の小屋に上がった。夕方ガスが切れて大キレットを上から眺めた。30日はガスのなか、大キレットを越えて洞沢岳へ縦走し、新穂高温泉へ下山した。ジャングルムよりも標高差が大きく、同じくらい登れたが、特に危険だとは感じなかった。

9月5日、例会で奥美濃の釈迦畑に向かい、やぶだが行けた。6日、若丸山を目標すもやぶで、全体の4割程行って撤退した。

9日、5人と南アルプスの駒岳に行く。私は体調不良で登山口まで同行し、戸台で待った。

13日、播谷山・丁子山に行った。我々以外の4人にも出会った。

14日、トガスに行くも、やぶ歩きで2時間かけた。

21日、筑ヶ岳に行くも、12時間ほどかかった。快晴で見晴らしはとても良かった。横島への往復で山を含め3日をかけたが、富士山が小笠原の上に浮かんで見事な眺めだった。

26日、オサンババを目標すが、境界の切り開きが無くなると撤やぶで、撤退した。

27日、上谷山へ行った。やぶっぽかったが踏み跡もあり、何とかが登ることができた。

(海津市 山田明彦)

山行計画
(1・2月)

新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一括)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を随時確認のうえ申し込みしてください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として4000円をお支払いください。申し込み後参加できなかった場合は必ず申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼りの場合は2日になり2000円を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(傷害保険ジャパンと契約)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 10000万円
- ・入院保険金 日額 50000円
- ・通院保険金 日額 30000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号

(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL

(山行中の連絡先を記入)

返付ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があるかもしれません。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ず記入してください。
- ② 返付の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり峠越えを要するコース。危険箇所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (難脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、くねくねコース(6〜7時間コース)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(行時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください。(係から連絡はしません。降雨山行の難しい場合は、雨天・小雨決行の計画には申し込みませんようにお願いします。

| 1月 | 行先 | 定員 | リーダー |
|--------|------------------|----|------|
| 7日 | 京都北山・明智寺→水尾 | 30 | 村田 |
| 9日・11日 | 伊豆・天城越→万三郎岳 | 25 | 村田 |
| 10日 | 朽木・白倉岳 | 24 | 森脇 |
| 10日 | 鈴鹿・高野山→明神山→東光寺山 | * | 岩野 |
| 12日 | 南山城・長山→大焼山→万灯籠山 | | 仲谷 |
| 14日 | 奥高野・陣の峰 | 26 | 西上 |
| 16日 | 湖北・虎御前山→小谷城 | | 村田 |
| 16日 | 湖西・蛇谷ヶ峰 | | 高島 |
| 17日 | 大峰・大樽山 | 26 | 西上 |
| 20日 | 京都東山・福徳山→栗田神社 | 26 | 仲谷 |
| 21日 | 大峰・奥佐田山 | 26 | 西上 |
| 23日 | 湖北・山本山→陸ヶ岳 | 24 | 狩野 |
| 24日 | 鈴鹿・鱒岡山 | * | 岩野 |
| 24日 | 湖北・ブンゲン | 10 | 山田 |
| 24日 | 京都北山・棧敷ヶ岳→城丹国境尾根 | 6 | 村田 |
| 24日 | 奥美濃・大日岳 | 8 | 鷺見 |

*ロマイカー山行

| 2月 | 行先 | 定員 | リーダー |
|-------|--------------|----|------|
| 6日・7日 | 高野・高野三山→町石道 | | 村田 |
| 7日 | 鈴鹿・ミクネ→大杉魔王 | * | 岩野 |
| 9日 | 丹波・三郎ヶ岳→北會峰 | | 仲谷 |
| 11日 | 台高・明神平 | 26 | 西上 |
| 11日 | 丹波・半国山 | | 村田 |
| 13日 | 奥美濃・白尾山 | 6 | 鷺見 |
| 13日 | 湖西・くつきの森 | 8 | 高島 |
| 14日 | 鈴鹿・東光寺山 | 24 | 森脇 |
| 17日 | 京都東山・嵐上→観音寺 | | 仲谷 |
| 18日 | 西吉野・橋ヶ山→囃ヶ岳 | 26 | 西上 |
| 20日 | 京都北山・江文峠→鳳凰山 | | 村田 |
| 21日 | 比良・蛇谷ヶ峰→富坂尾根 | | 森脇 |
| 21日 | 鈴鹿・聖仙山西尾尾根 | * | 岩野 |
| 21日 | 紀州・真善山 | 26 | 西上 |
| 28日 | 奥美濃・オサンババ | 10 | 山田 |
| 28日 | 東播磨・高御位山 | | 村田 |

*各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

新年会山行
京都北山
明智越から水尾
(初級向き)

1月7日(日) 日帰り
集合 J.R.亀岡駅8時30分
行程 亀岡駅→明智越口→明
智越→水尾(新年会)
→保津峡駅(解散16時
頃)
費用 約7000円(電車・
新年会費)

地図 昭文社「京都北山」
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員30名(全員に履き)

新ハイ初歩きは、亀岡から
明智越を歩いて水尾の里にく
だり、「松敬」の袖風呂で汗
を流し、鳥すきを囲んで新年
会を楽しむ。
雨天(雪) 決行

伊豆・霧り子コースを歩く
天城越・万三郎岳
(二級向き)

1月9日(土)・11日(日)
2泊3日 初切バス
集合 (9日) J.R.京都駅八
条口7時30分
行程 (9日) 京都駅(バス)
戸田峠→達磨山→加藤
山→太平洋展望台(バ
ス) 湯ヶ島温泉「木太
刀荘」(泊)
(10日) 湯ヶ島温泉→
浄蓮の滝→清沢渓谷→
天城峠→旧天城トンネ
ル→寒天橋→河津七滝
→湯ヶ野温泉(福田家)
(泊)
(11日) 湯ヶ野温泉(バ
ス) 八丁池口→八丁池
→天城縦走路→万三郎
岳→万二郎岳→天城高
原ゴルフ場(バス) 京
都駅(解散20時頃)

費用 約35000円
地図 昭文社「伊豆・天城
山」

近江の山シリーズ29
朽木・白倉岳(二級向き)

1月10日(日) 日帰り 初切バス
集合 J.R.京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス) 朽木村
井→西村井登山口→松
本地蔵→稜線→鳥帽子
岳→白倉北岳→白倉中
岳→白倉南岳→衛生バ
ス停(バス) 京都駅(解
散17時頃)
費用 約30000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
2万5千 北小松・久
多
*定員24名
雪の白倉岳に登ります。く
だりは、急坂が続きます。
小雨(雪) 決行

地図 昭文社「御在所・靈
仙・伊吹」
係 ○岩野 明○山田景三
○後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
日本コバからのびる尾根の
三角点二ヶ所をめぐる。
雨天中止(雪決行)

火曜ハイク66
南山城
長山・大焼山から万灯籠山
(二級向き)

1月12日(火) 日帰り
集合 宇治田原驛ノ口バス停
9時15分
*京阪宇治駅・J.R.宇
治駅から京阪宇治バス
に乗り(約25分)
行程 驛ノ口→農道終点→手
平峠→長山→大焼山→
万灯籠山→J.R.山城多
賀駅(解散16時10分頃)
費用 交通費各自

2万5千 田辺
地図 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
「牛」から「虎」年へ。語
呂合わせで「うしろ(長)山」
への計画。今回は裏山から入
りますので少々やぶ漕ぎを
しながら、長山から大焼山へ
廻ります。ややロングコース。
雨天中止

奥高野・陣の峰(二級向き)

1月14日(木) 日帰り 初切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
立里・中津川小学校跡
→矢放峠→陣の峰→オ
ツバングエー飛騨宮
(バス) 橿原神宮前駅
(解散16時30分)
費用 約30000円(バス代)
2万5千 狭谷野水池
地図 ○西上利和

山
山
○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
*定員25名(全員に履き)

初日は富士を眺望する達磨
山。湯ヶ島から霧り子が歩い
た天城越を湯ヶ野温泉にくだ
り、霧り子一行が宿泊した、福
田家」に泊まる。最後は伊豆
の最高峰万三郎岳へブナ林の
天城縦走路をたどる。暖かい
伊豆半島の冬の山旅。温泉も
堪能できる。雨天決行

近江の山シリーズ29
朽木・白倉岳(二級向き)

1月10日(日) 日帰り 初切バス
集合 J.R.京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス) 朽木村
井→西村井登山口→松
本地蔵→稜線→鳥帽子
岳→白倉北岳→白倉中
岳→白倉南岳→衛生バ
ス停(バス) 京都駅(解
散17時頃)
費用 約30000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
2万5千 北小松・久
多
*定員24名
雪の白倉岳に登ります。く
だりは、急坂が続きます。
小雨(雪) 決行

地図 昭文社「御在所・靈
仙・伊吹」
係 ○岩野 明○山田景三
○後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
「牛」から「虎」年へ。語
呂合わせで「うしろ(長)山」
への計画。今回は裏山から入
りますので少々やぶ漕ぎを
しながら、長山から大焼山へ
廻ります。ややロングコース。
雨天中止

金曜里山ハイキング24
湖北・虎御前山から小谷城
(二級向き)

1月16日(日) 日帰り
集合 J.R.虎姫駅9時10分
行程 虎姫駅→丁福寺→キヤ
ンブ場→虎御前山岩跡
→郡上→小谷山登山口
→望空峠→本丸→山王
丸→小谷山→須賀谷温
泉(入浴・バス) 河毛
駅(解散16時頃)
費用 交通費各自
2万5千 虎御前山
地図 ○村田智俊

12支の山と小谷城を歩き、
戦国乱世の時代に思いを馳せ、
名湯須賀谷温泉にくだって汗
を流す。雨天中止(雪決行)

鈴鹿を歩く324
高野山・明神山・東光寺山
(二級向き)

1月10日(日) 日帰り マイカー
集合 国道421号水源寺支
所8時30分
行程 支所(車) 登山口→高
野山→明神山→東光寺
山→開閉所→登山口
(解散)
費用 交通費各自

12支の山と小谷城を歩き、
戦国乱世の時代に思いを馳せ、
名湯須賀谷温泉にくだって汗
を流す。雨天中止(雪決行)

湖西の山
蛇谷ヶ峰(二級向き)

1月16日(日) 日帰り
集合 高島市朽木支庁9時00
分
行程 支庁(車) 想い出の森
→蛇谷ヶ峰(往路)
費用 交通費各自
2万5千 栗庭野
地図 ○高島伸浩
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
積雪の場合はカンジキ必携。
下山後、「てんくうの湯」で
入浴可。雨天決行

積雪の場合はカンジキ必携。
下山後、「てんくうの湯」で
入浴可。雨天決行

大峰・大梅山 (二較向き)

1月17日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
小谷林道ゲート前―登山口―尾根出合―大梅山―尾根出合―大梅山―西山親音―小谷林道ゲート前(バス) 橿原神宮前駅(解散16時30分)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 積遊ヶ岳
係 ◎西上利和
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に限り)
雪景色を期待して歩きやすい尾根道をたどって大梅山に登ります。下りのコースは河合地区の発祥地でもあり、平家ゆかりの西山親音廻りで戻ります。小雨決行

ゆつくり歩こう！

京都東山トレイル
稲荷山から粟田神社
(初級向き)

1月20日(水) 日帰り
集合 京阪伏見稲荷駅9時30分(JR稲荷駅すぐ)
行程 伏見稲荷駅―稲荷大社―稲荷山一周―泉湧寺―劍神社―清閑寺―清水山―東山山頂公園―粟田神社(解散15時20分)

費用 交通費各自
地図 京都一周トレイル(東山)
係 ◎仲谷礼司◎沖 紳
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
これから山を歩いてみたいという人を対象に始めました。距離は短くゆつくり歩きます。「せせらぎ」欄を参照。最初のうちは京都一周トレイルを何回かに分けて案内します。

雨天中止

大峰・奥佐田山(二較向き)

1月21日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
音枝バス停―尾根取付点―奥佐田山―音枝バス停(バス) 橿原神宮前駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 池原
係 ◎西上利和
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に限り)
下北山村の里山(5847.5m)。池原湖を望みながらの日だまりハイク。山頂直下は短い急登があります。雨天中止

週末ハイク99

湖北・山本山から賤ヶ岳
(二較向き)

1月23日(土) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時40分

行程 京都駅(バス) 山本山登山口―山本山―P360・451―賤ヶ岳―余呉湖荘(バス) 京都駅(解散18時)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 木之本・竹生島
係 ◎狩野東彦
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
雪の湖北、ゆるやかな里山を歩きます。天気が良ければ日だまりハイキングになります。雨天中止

鈴鹿を歩く325

樹氷の綿向山
(やや難向き)

1月24日(日) 日帰り マイカー
集合 熊野登り口蔵王ダム広
場8時30分

行程 広場(車) 熊野バス停―林道―文三ハゲ―綿向山―北峰―ブナの木平―熊野峠―滝山谷―熊野(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社(「御在所・雲仙・伊吹」)

係 ◎岩野 明◎山田登三
◎後藤康幸
申込 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨(雪) 決行

展望の山64

湖北・ブンゲン(難向き)

1月24日(日) 日帰り

1月24日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅タ
クシーのりば8時00分
行程 北大路駅(タクシー) 租

京都北山歩き136
棧敷ヶ岳から城丹国境尾根
(中級向き)

1月30日(土) 日帰り レンジャー
集合 JR岐阜駅7時30分
行程 岐阜駅(車) 高鷲スノー

自然観察山行274
スノートレッキング
奥美濃・大日ヶ岳
(二較向き)

2月6日(土) 7日(日)
1泊2日
集合 (6日) 南海高野山駅

高野・高野三山と町石道
(二較向き)

10時00分(難波駅8時12分発)

行程

(6日)高野山駅(バス)奥ノ院前―奥ノ院―摩尼峠―摩尼山―黒河峠―楊柳山―子維峠―鞍馬山―鴛谷―金剛峰寺―宿坊(泊)

(7日)宿坊―大門―矢立峠―笠木峠―二ツ鳥居―丹生慈光寺―六本杉峠―展望所―慈尊院―九度山駅(解放16時)

費用 約12000円(難波駅から電車・宿泊代等)

地図 2万5千円高野山・橋本

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

雪の高野三山を歩き、町石道をくだる。観光客が少ない静かな冬の高野山を楽しむ。

雨天決行

鈴鹿を歩く326 ミクネ・大杉竜王 (二般向き)

2月7日(日) 日帰りマイカ

集合 河内線風穴手寺院広場

行程 8時30分 広場(車)落合―汗ふき峠―板板峠―ミクネ―P634―大杉竜王―落合(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 ●岩野 明○山田景三

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

汗ふき峠から板板峠、ミクネから北にのびる秘境の尾根を歩き、大杉竜王(北原竜宮)に参拝します。

火曜ハイク67

丹波・三郎ヶ岳から北倉峠 (二般向き)

2月9日(火) 日帰り

集合 JR千代川駅9時10分

行程 千代川駅(バス)旭―松尾神社―北尾根―三郎ヶ岳―南尾根―北倉峠―出雲神社(バス) 亀岡駅(解放16時30分)

費用 交通費各自

地図 2万5千円亀岡

係 ●仲谷礼司○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

三郎ヶ岳を縦走する形で歩きますが、一部荒れている所があります。前雨で流れた企鵝。雨天中止

〇8時05分

行程

権原神宮前駅(バス) 明神平登山口―明神平―明神平登山口(バス) 権原神宮前駅(解放15時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千円大豆生

係 ●西上和

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

鉄冬の明神平に極上の雪景色を探しに行きます。

い。小雨(雪) 決行

ゆつくり歩こう2 京都東山トレイル 蹴上から銀閣寺 (初級向き)

2月17日(木) 日帰り

集合 京都地下鉄蹴上駅改札前9時30分

行程 蹴上駅―日向大明神―思案処―大文字山―火床上部―雲龍寺―銀閣寺(解放14時20分頃)

費用 交通費各自

地図 京都一周トレイル「東山」

係 ●仲谷礼司○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

これから山を歩いてみたいという人を対象に始めました。距離は短くゆつくり歩きます。京都一周トレイルの二回目ですが、大文字山を入れました。

からレンタカー・リフト代等)

地図 2万5千円那留

係 ●鷺見守康

申込 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5

鷺見守康まで

*定員6名(8名まで)

鉄冬の白尾山を歩きます。

スノーシューまたはカンジキ必携。小雨(雪) 決行

湖西の山 くつきの森 (初級向き)

2月13日(日) 日帰り

集合 高島市朽木支庁10時00分

行程 支庁(車)やまね館―P403―愛の木―ハンカチの木―やまね館(車)支庁(解散)

費用 交通費各自

地図 2万5千円雙庭野

係 ●高島伸浩

申込 〒610-0121

園部駅(解放16時30分頃)

費用 交通費各自(タクシー・バス代) *入浴550円

地図 2万5千円増生

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

音羽溪谷の急坂をつめ、展望の半国山へ。るり溪にくだり、温泉で汗を流す。

小雨(雪) 決行

自然観察山行275 スノートレッキング 奥美濃・白尾山 (二般向き)

2月13日(日) 日帰り

集合 JR岐阜駅7時30分

行程 岐阜駅(車)しらおスキ―場(リフト)―リフト最終地―白尾山―リフト最終地―スキー場(車)岐阜駅(解散)

費用 約8000円(岐阜駅

近江の山シリーズ30 鈴鹿・東光寺山 (二般向き)

2月14日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口7時40分

行程 京都駅(バス)外集落―巡視路入口―東光寺山―明神山―巡視路入口―外集落(バス)京都駅(解放16時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千円百濟寺・日野東部

係 ●森脇貞義

東光寺山には展望がありませんが、雪があればおもしろ

西吉野・枹ヶ山から櫃ヶ岳

(一般向き)

2月16日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)→
枹川道→春日神社→登
山口→枹ヶ山→櫃ヶ岳
→尾根分岐→枹川道→
専名寺→津越の里(バ
ス)温泉(きすみ館)入
浴(バス) 橿原神宮前
駅(解散17時)

費用 約3000円(バス代)

*入浴代600円

地図 2万5千 中戸

係 ◎西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(全員に履き
晴れていれば、冬枯れの尾
根から冠雪の大峰山脈が一望
できます。帰りは津越の里で
フクジヌウを見て、温泉(き
すみ館)で汗を流します。

しょうか? 楽しみです。
小雨(雷) 決行

紀州・真妻山 (一般向き)

2月21日(日) 日帰り 貸切バス

集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)→
山野登山口→鉄塔→真
妻山→大滝川登山口→
大滝川森林公園(バス)
橿原神宮前駅(解散18
時)

費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千 古井

係 ◎西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
低山ながらも秀麗な山容と
展望で定評がある。日高富士
とも呼ばれ一等三角点の山。
山頂からは矢筈岳や清冷山な
どが望めます。雨天中止

雨天中止

京都北山歩き137

江文峠から瓢箪山
(一般向き)

2月20日(土) 日帰り

集合 大原戸寺バス停9時00
分

行程 戸寺→江文神社→江文
峠→箕ノ裏ヶ岳分岐→
寒谷峠→瓢箪山→岩
倉分岐→P461→
三宅八幡宮→飯籠八幡
前駅(解散16時30分)

費用 交通費各自

地図 昭文社「京都北山」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
落ち葉道を歩く北山の入門
コース。天気が良ければ、快
適な日だまりハイキングが楽
しめる。小雨(雷) 決行

展望の山65
奥美濃・オサンババ
(健脚向き)

2月28日(日) 日帰り

集合 JR西岐阜駅8時15分

行程 西岐阜駅(車)めいほ
うスキー場→オサンバ
バ(往路)→スキー
場(車)新岐阜駅(解散
2000円)

費用 交通費各自(車代約
2000円)

地図 2万5千 萩原

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535

海津市南濃町松山624の
19
山田明男まで
*定員10名程度
スキー場を歩くので雪山の
準備をしてください。
雨天中止・雪決行

東播磨・高御位山
(一般向き)

2月28日(日) 日帰り

比良を歩く80
蛇ヶヶ峰から富坂尾根
(中級向き)

2月21日(日) 日帰り

集合 JR近江高島駅バスの
りば9時00分(9時03
分発)行きバスに乗車→
分免畑行きバスに乗り換

行程 近江高島駅(バス)畑
→林道→登山口→ボボ
フタ峠(須川峠)→滝
谷ノ頭→P752→
蛇ヶヶ峰→標高点
817→造林公社管
林地看板→富坂尾根分
岐→標高点475→
蛇ヶヶ峰→玉津島神社
→富坂口(解散16時30
分)

費用 約2100円(京都か
ら)

地図 2万5千 比良山

係 昭文社「比良山系」
◎桑 康夫

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

集合 JR曾根駅9時30分

行程 曾根駅→黒崎奥山→大
谷山→展望台→鷹ノ巣
山→高御位山→小高御
位山→中塚山→北山鹿
島神社→芋池→曾根駅
(解散15時30分)

費用 交通費各自

地図 2万5千 加古川

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
岩尾根をたどる播磨アルプ
スの日だまりハイキング。
雨天中止

特別企画
台湾・玉山と阿里山散策
(健脚向き)

4月25日(日) 29日(祝)

4泊5日

集合 (25日) 関西空港へ

行程 大阪→台北→玉山→阿
里山→台北→大阪(山
小屋2泊、ホテル2泊)

恒例の富坂尾根輪カンくだ
りです。積雪状況によっては
途中から引き返す場合もあり
ます。雨天中止

鈴鹿を歩く327
樹氷の霊仙山西南尾根
(中級向き)

2月21日(日) 日帰り 貸切バス

集合 河内線甲原入口広場

行程 広場(車)今畑→落合
→汗かき峠→霊仙山→
西南尾根→笹峠→今畑
(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・霊
仙・伊吹」

係 ◎岩野 明◎山田景三
◎後藤康幸

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の真冬の霊仙山西
南尾根の山行。セツブンソウ
フクジヌウは咲いているで

費用 約17万円

係 ◎狩野東彦

申込 〒617-0006

向日市上植野町落堀9
の9
狩野東彦まで
*定員10名、17名
*1月30日まで
「毎日新聞旅行登山の会」
の協力により、台湾の最高峰
玉山(日本名新高山)登山と
その麓の阿里山ハイキングを
実施します。
*出発日が26日、27日にすれ
ば込む場合あり。
詳細の問い合わせは狩野(☎0
90-4302-0186、
FAX075-1933-14
58)まで

各山行計画欄に特記
していませんが、ロング
スパッツ・軽アイゼン、
輪カン、ストックかピッ
ケル、サンングラスなど
の雪山を歩く装備でお
出かけください。

山行報告
(9・10月号)
新ハイキングクラブ関西

奥高野・古休場から六本松
9月3日(休) ○西上利和
*バス定員未満で中止しました。

湖東・金勝アルプス天狗岳
(金曜山ハイキング20)

9月5日(出) 晴れ
(集合) JRR草津駅8・30(タク
シー)金勝寺馬頭観音駐車場9・
00→遊王山9・35→白石峠9・
50→10・00→因見岩10・15→30→
白石峠11・00→耳岩11・15→天狗
岩11・30(昼食)12・25→落ヶ流
分岐12・55→13・10→加冠山13・
25→40→落ヶ流14・20→30→上
生15・10→30(バス)草津駅16・
00(解散)

同見岩にも立ち寄って大パノラ
マを楽しみ、岩峰の金勝アルプス
の景観を見ながら歩いた。金勝寺
からは登りが楽で快適に歩けた。

(参加者) 巻田 晃 岡崎好子
岩佐 修 竹内正子 久保田玲子
木村和恵 河内正治 中嶋日出男
秋光哲也 伊藤 直 山崎みよ子
堀内預智 伊藤和代 山崎早智子
宮村信夫 岩本彩子 森安喜美子
森井 潔 森井順子 宮路ちへ子
藤井義治 小池 一郎 西谷真実子
渡部和美 山高義治 山高多恵子
奥比指美 大岡陽子 武部美美子
山口靖孝 白鳥忠子 川島勝美
朝倉裕雄 中 照行 稲津謙治
宮野絃子 ○宮野哲郎 (計38名)
○村田智俊

奥栗津・駅通橋と若丸山 (展望の山60)

9月5日(出) 6日(回) 1泊2日
(5日) 晴れ (集合) JRR大垣駅
8・10(車)ウツ峠9・55→10・
00→再度ウツ峠10・30→登山口
11・20→尾根11・45→駅通橋12・
45(昼食)13・15→登山口14・20
→ウツ峠15・00(車)宿16・05(泊
西美濃天文台見学)
(6日) 晴れ 宿7・30(車)冠
峠8・05→15→冠平9・30→P
1262→11・30(昼食)12・00

宮指橋岳・大岩 (鈴鹿を歩く316)

9月6日(出) 晴れ
*国道407号が通行止のため予
定を変更して歩いた。
(集合) 大河原「かもしか荘」広
場8・20(車)元越谷手前広場8・
35→猪足谷林道終点10・35→宮指
路岳11・05→小岐須峠11・15→大
岩12・25(昼食)13・10→水沢峠

大峰・滝山と白六山

9月10日(出) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
→07(バス)高野辻10・55→滝山
登山口11・00→1106分岐

11・15→滝山12・15(昼食)12・
50→高野辻13・55→白六山登山口
14・00→尾根道→白六山14・40→
展望所→高野辻15・30(バス)橿
原神宮前駅17・10(解散)

(集合) JRR岐阜駅7・30(車)岐
立公園案内所10・20→30→三ツ滝
コース(昼食)→公園案内所12・
20→13・00(車)ひめしがの湯
13・10(入浴)14・00(車)岐阜
駅16・30(解散)

万子越からの後線には積林が大
きく竹ち、人の手も入っているの
で道もわかりやすかった。反射板
のビークは東面に切り開きがあ
り、琵琶湖や竹生島が見えた。大
崎寺への分岐にテープがあり、下
りの尾根にも目印が多く、迷うこ
となく大崎寺に下りた。

午前中は曇っていて、期待した
音羽山からの大展望は無かった。
都市近郊にもかかわらず雑木林の
静寂な山行が楽しめた。

時間規制の通行止に遭い、高野
辻に1時間遅れで着いた。抜群の
好天と時々吹く涼風に少し秋の気
配を感じながら、気持ちのいい山
行ができた。

(参加者) 下郷正年 信吉 優
狩野東彦 入江 勲 加藤浩二
桜庭 栄 渡部和美 荒木光雄
奥田剛夫 上田裕子 川島 勲
三野 旭 烏田 廣 大岡加代子
鮫田二郎 堀内預智 杉本多美雄
竹村英樹 川村信子 松原真由美
森藤哲良 ○竹田勝英 (計23名)
○西上利和

(参加者) 下郷正年 小池 一郎
狩野東彦 青木一雄 入江 勲
稲津謙治 木村 豊 川上久堅
岩本健二 岩本彩子 後藤康幸
林 正義 岩崎健司 船本裕巳子
高木忠夫 夏山春子 久保田順一
大東 哲 大岡陽子 吉岡うた子
藤原照幸 三井枝一 小尾末吉
草野卓郎 ○村井寿和 (計26名)
○森脇貞英

(参加者) 関安紀 久保田玲子
小石清子 若林文夫 中嶋日出男
沖 伸 沖 紀子 山本東司
夏山春子 米橋孝子 富田潤子
大槻一夫 福島 昭 岩佐 修
本間繁子 加藤浩二 岩本彩子
森 和久 北村 正 鮫田トシエ
林 弘毅 青木一雄 松上英代子
川上久堅 和田直樹 中久保建次
竹田善英 渡部和美 仲谷礼司
高木忠夫 奥山繁三 山盛加奈子
○谷 守 ○磯部 純 (計35名)
○金谷 昭

五波峠から中山谷山
(京都北山歩き133)
9月12日(出) ○村田智俊
*雨天のため中止しました。

9月13日(出) 晴れ
(集合) JRR京都駅7・25(バス)
マキノ道の駅9・10→20→万字越
(峠)10・11→25→四等三角点11・
10→20→広場11・55(昼食)12・
55→電波反射板13・08→東山13・
30→45→大崎寺14・50→15・20(バ
ス)京都駅18・02(解散)

音羽山から行者の森・高塚山
(北山ちよつと歩き110)
9月16日(出) くもりのち晴れ
(集合) 京阪大谷駅(舞丸神社)9・
05→音羽山10・30→40→パノラマ
台11・00→牛尾尾音11・35→桜の
馬場11・48(昼食)12・30→縦走
路分岐13・12→行者ヶ森13・25→

三重・アマネ山から青田裏山
9月17日(休) ○西上利和
*バス定員未満で中止しました。
北アルプス・穂高岳三山
9月19日(出) 23日(回) 4泊5日
(19日) 晴れ (集合) JRR京都駅

7・40(バス)平湯温泉バスターミナル13・10・40(シャトルバス)上高地14・10・20(明神15・10)徳沢16・00(横尾山荘17・10(道)(20日)晴れ)横尾山荘7・00(本谷橋8・00)10(沢沢ヒュッテ10・30(昼食)12・00(沢沢小屋12・10(サイディンググラウト)奥徳高山山荘15・00(道)

(21日)晴れ)奥徳高山山荘6・30(奥徳高山山荘7・30)8・30(奥徳高山山荘9・20)10・00(沢沢小屋10・30(昼食)11・00(北徳高山山荘14・00(北徳高山山荘14・10(道)(22日)くもり)北徳高山山荘6・40(沢沢ヒュッテ9・30)10・00(本谷橋11・20(昼食)12・00(横尾山荘13・10)15(徳沢小屋14・50(道)

(23日)雨)徳沢ロッヂ6・50(明神池7・50)8・10(上高地9・00)25(シャトルバス)平湯温泉バスターミナル10・00(入浴・昼食)11・50(バス)京都駅16・15(解散)

沢沢の紅葉と徳高の大パノラマを満喫した数日だった。10年ぶりという大混雑で登山者の行列が縦

き、小屋は満杯、クサリ場で大混雑。前穂高はカットして奥徳高で1時間も北アルプスの全景を楽しんだ。始めから行程をゆっくりにしていたので、あわてずあせらずに歩けてよかった。横尾と徳沢では入浴できゆったりと寝たが、山頂の山小屋では狭くて寝つかれない人がいた。

(参加者) 狩野東彦 加納由紀子 川戸せつ 小栗大直 竹内正子 岩穂健司 三上伸夫 井上まゆ子 葛松雅子 山縣勝美 大嶋 勉 川原 勉 田辺弘子 岩田有士 ○安倉正勝 ○村田晋俊(計16名)

日本コバ・衣掛山 (鈴鹿を歩く317)

9月20日(日) 晴れ

(集合) 如來堂8・20(1P833)12・00(25)日本コバ11・00(昼食)12・10(澤沢小屋)30(衣掛山)13・00(岩屋13・30)約の穴14・30(如來堂)15・40(解散)

日本コバへ最短ルートの尾根を登る。山頂部はママコナの花が続き、秘境の湿原はマツカゼソウの群落。衣掛山・岩屋には淡紅色の

マユミとヤマシヤクヤクの赤と黒の葉。ライトを点けて約の穴に入り、神秘の池を見てくると、アケボノソウの花。秘境の日本コバを丸かじりで楽しんだ。

(参加者) 武村千鶴 奥野太一郎 湯口清孝 木下朝子 吉岡うた子 岩本彰子 一芝義雄 一芝英知子 栗本敏夫 谷 守 石田真由美 水戸鉄治 磯部 純 市井ユリエ 藤井義治 多田 徳 居原田幸弘 北村正美 西村敏夫 小林 修 ○後藤康幸 ○山田三三(計23名)

○岩野 明 (計23名)

編川左殿から漢山・トビ岩 (此頁を多く78)

9月22日(日) くもり

(集合) J R北小松駅9・05(朝川出合手前広場9・35)50(直角の滝10・45)55(四止尾根下)11・40(50)滝山12・30(昼食)13・20(オトシ分岐13・30)14(13・50)14(00)トビ岩14・20(30)北小松15・15(30)40(北小松駅)15・55(解散)

谷筋をたどるルートは展望が無いかわりに、次々に現れる滝が目

を楽しませてくれる。主水を思泉に廻り、だんだん細くなって水が無くなれば、一番の高みを目指して登り着いた所が滝山頂上。ルートは単純だが、道をふさぐ傾木あり、滑りやすい岩を何十数回の徒渉あり、やっかいなクモの巣ありと、道中は変化に富んでいる。トビ岩の上から見下ろす琵琶湖の展望は圧巻だった。

(参加者) 上田裕子 山崎みよ子 竹田藤英 山本軍司 宮路ちへ子 福本愛子 柳 良雄 林 久美子 星野 隆 山高義治 山高多恵子 本間 隆 本間弘子 橋本紀代子 平田和子 寺田久広 山野志保江 岩本健二 岩本彰子 船本裕巳子 志水明美 須藤浩子 松上美代子 谷 守 平塚明美 渡部和美 多田 徳 吉川武司 小林 修 緒方由子 ○大東 哲 ○桑 康夫 (計32名)

高島トレイ③ (週末ハイク95)

9月26日(日) 晴れのちくもり

(集合) J R京都駅7・40(バス)

ピラタスト合津・近江坂口9・30(40)平湯10・00(大御影山登山口10・10)15(滝谷山分岐)11・30(40)琵琶湖方面展望台12・00(昼食)12・45(抜土分岐)13・05(抜土)13・40(50)大谷山15・00(50)一寒風15・35(40)マキノ高原さくら駐車場16・50(17・15(バス)京都駅19・00(解散)

秋風が吹くなか、ヤマボウシの実が豊作の近江坂から、ブナ林の続く中央分水嶺をゆっくりに歩いた。大谷山から寒風の殺陣は日本海から流れたガスが吹きつけて肌寒く長居できず、急ぎマキノスキー場に下りた。

(参加者) 岡崎知子 中川覚郎 加藤浩二 岡田恵章 中嶋日出男 栗岡克子 黒見輝生 栗飯原通弘 堀島 昭 山根弘美 山崎加奈子 林 正義 井上正章 小川富士雄 植場君子 高谷 昭 船本裕巳子 須藤浩子 金橋登治 水木加津菜 岩村春子 宮崎靖久 宮崎由美子 宮野野郎 宮野敏子 林 久美子 上田裕子 三上伸夫 加納由紀子 小松志信 夏山春子 三輪直文 朝倉松雄 堀 良方 平田和子

尾根を越えて浜に下り、海苔淵を目指す。山登りとはいえず、道があるというだけでほとんど整備されていらない石ころと落ち葉の滑りやすい道。マムシに出会ったりもした気の抜けない山歩きだった。海と浜と貝殻がとてきれいだ。

(参加者) 水戸鉄治 石田真由美 平 隆一 平 幸子 杉本多美雄 亀井悦子 川村政和 ○堀垣逸夫(計8名)

教習の山・野坂岳 (計38名)

9月26日(日) 晴れ

(集合) 紀伊長島道の駅「まんぼう」9・00(車)須賀利口9・40(1尾根)10・15(25)小池11・00(11・05)15(大池(元須賀利の社))13・50(1)浜14・00(30)1尾根14・55(15)05(須賀利口)15・50(16)50(車)道の駅「まんぼう」16・50(解散)

9月26日(日) くもり

(集合) J R教習駅9・00(車)井ノ口林道終点9・50(野坂岳)11・25(昼食)12・45(1)の岳12・55(1)井ノ口林道終点14・20(解散)

新ルートの西コース。蜂の襲撃を終始恐れた登山だったが、だれも刺されることなく無事だった。

(参加者) 堀田輝子 木村 豊 川田位子 神野孝允 西田俊治 木下朝子 岩本彰子 平塚明美 磯部 純 一芝義雄 一芝英知子 谷 守 加藤剛計 ○高島伸浩(計14名)

大峰・扇形山から笠木峠 (地図読み山行93)

9月27日(日) ○塚元一彦

*リーダーの都合で中止しました。

9月27日(日) ○塚元一彦

大峰・扇形山から笠木峠 (地図読み山行93)

9月27日(日) ○塚元一彦

*リーダーの都合で中止しました。

9月29日(日) ○竹谷礼司

*雨天のため中止しました。

9月30日(日) 晴れ

(集合) J R岐阜駅7・40(バス)

生活環境保全林にもなっている西ウレ分水嶺の森には、イチイやカツラ・サワラの木々、ブナが原生林などがすがすがしく、きれいな天然林が続いていた。紅葉の時期や花積雪期にも訪れてみたい。

(参加者) 堀田輝子 沢野美紀恵 ○鷺見守康(計3名)

飛騨山中・水無山と金剛堂山 (展望の山61)

10月3日(日) 4日(日) 1泊2日 (3日) 晴れ(集合) J R西岐原

駅6・50(車)新幹線岐阜羽島駅7・00(車)白川郷道の駅9・20(車)三方岩駐車場10・00(車)三方岩10・35(車)野谷萩河山11・30(車)砂山13・06(車)野谷萩河山14・20(車)三方岩15・20(車)駐車場15・50(車)白川郷道の駅16・30(車)五箇山17・00(車)民宿17・45(泊) (4日)晴れ)民宿7・30(車)金剛堂山登山口8・20(車)地点9・20(車)地点10・20(車)金剛堂山10・45(車)中金剛(最高地点)11・00(車)登山口14・00(車)民宿15・00(車)西岐阜駅17・20(解散)

予定の水無山は朝方の雨で中止としようとするが、ぜひにと言う人と4人で向かうも林道が荒れていて引き返し、天生峠近くを歩きソウレ山に行った。予定変更の人は三方岩から野谷萩河山・もうせん平まで行き、一部の人は妙法山まで行った。金剛堂山は最高地点の中金剛で食卓したが、先行した3人は奥金剛まで行った。両日共紅葉がきれいで、金剛堂山・三方岩等は見晴らしもよかった。ソウレ山の山頂は見事なブナ林だった

が、熊棚がほとんどの樹に見られる異様な風景だった。(参加者) 広瀬重見 中澤美香子 竹内正子 萩野暢子 生越恵美子 松村雅子 緒方山子 砂原恵美子 朝倉松雄 村田はる江 西谷眞実子 ○山田明男 (計13名) ○山田明男 (計13名)

風越山・鏡子ヶ口 (鈴鹿を歩く318) 10月4日(日) 晴れ *国道477号が通行止のため予定を変更して歩いた。 (集合) 紅葉尾崎崎崎広場8・10

予定の水無山は朝方の雨で中止としようとするが、ぜひにと言う人と4人で向かうも林道が荒れていて引き返し、天生峠近くを歩きソウレ山に行った。予定変更の人は三方岩から野谷萩河山・もうせん平まで行き、一部の人は妙法山まで行った。金剛堂山は最高地点の中金剛で食卓したが、先行した3人は奥金剛まで行った。両日共紅葉がきれいで、金剛堂山・三方岩等は見晴らしもよかった。ソウレ山の山頂は見事なブナ林だった

こと楽しんだ。(参加者) 武村千鶴 湯口靖孝 寺井博子 大西裕郎 奥野太一郎 小林 修 一芝義雄 一芝美知子 多田 徳 西村敏夫 池田隆一 谷 守 加藤四郎 石田真山美 北村正美 水戸鉄治 市井ユリエ 金谷 昭 栗岡寛子 ○山田景三 ○岩野 明 (計21名)

湖西・木地山峠から駒ヶ岳 (平日ふれあいハイキング) 10月8日(日) ○寺井恒夫 *雨天のため中止しました。

北八ヶ岳・横巻と薬科山 10月10日(日) 2泊3日 (10日) 晴れ(集合) J R京都駅 7・30(バス) 大河南ヒュッテ 15・30(泊) (11日) 晴れ 大河南ヒュッテ6・20(車)薬科山8・00(車)薬科山8・40(車)薬科山9・30(車)薬科山9・30(車)薬科山11・30(車)薬科山11・30(車)薬科山12・40(車)大石川林道一雨池峠分岐 13・40(車)雨池14・10(車)安草ヒュッテ15・50(泊)

(12日) 晴れ) 表京ヒュッテ6・55(車)丸山8・00(車)高見石8・30(車)白駒池9・50(車)青台荘10・00(車)白駒池駐車場10・30(車)白駒池温泉(親湯)11・45(バス) 豊科温泉(親湯)11・30(入浴) 豊科温泉 13・30(バス) 京都駅19・50(解散) 中央道の渋滞に遭い、初日の横断はカットして直接バスで大河南峠へ行った。薬科山の大展望に満足して魚甲池、双子池、雨池へと行き、最終日は白駒池へと、北八ヶ岳の池めぐりをした。(参加者) 多田 徳 須藤清子 猪野美枝子 西村文男 岡本正明 武部美美子 高橋雅治 吉野榮子 栗林崇吉 岩田晋士 岩村春子 森谷節枝 川田洋子 木村相恵 朝倉松雄 大嶋 勉 井上苗子 宮崎由美子 夏山春子 山本京子 上田裕子 藤田義博 宮野穂子 ○宮野哲郎 ○安倉正勝 ○村田哲俊(計28名)

湖北・カナ山 (近江の山シリーズ26) 10月11日(日) 晴れ (集合) J R京都駅7・26(バス)

30分早く駒取峠に着けた。縦走路の一部が台風の影響で紙しといつ情報もあったが、何ら支障なく快適に縦走を楽しんだ。(参加者) 下野正年 福島 昭 渡部和美 伊藤 晋 濱本美和恵 野野東彦 三井桂一 志水明美 上田裕子 島田 順 小川富士雄 今泉 敏 緒方由子 宮路ちへ子 小栗大直 三野 旭 市井ユリエ 竹村英樹 桜庭 榮 森藤哲良 ○竹田勝英 ○西上利和(計22名)

鳥越林道しも谷橋9・26(車)尾根取付点9・50(車)横瀬11・35(車)池12・43(車)昼食13・33(車)夜叉ヶ峠池13・45(車)カナ山(三角点)14・10(車)P1000(分岐)14・30(車)カヤ谷橋15・30(車)バス(京都駅)16・00(解散) 急登する横瀬はヤブがひどく、最近通る登山者もまれであろう。小池で昼食にしたが、夜叉ヶ峠池はもう少し先だ。夜叉ヶ峠池は水量が少なく神秘的とは言えなかった。下山道は植林道で整備されていた、一気にカヤ谷橋に下った。(参加者) 中川光郎 福津謙治 木村 豊 岩本健二 岩本彰子 沖 伸 松村雅子 山崎みよ子 岩佐 修 後藤康幸 狩野東彦 入江 照 磯部 純 船本裕巴子 小池一郎 小谷和子 吉岡うた子 青木一雄 市岡晴美 中 組行 ○村井寿和 ○藤原貞義(計22名)

六甲・山寺尾根から摩訶山 (火曜ハイキング) 10月13日(日) 晴れ (集合) 阪急六甲駅9・10(車)園神9・35(車)池谷登山口9・50(車)

山寺尾根一摩訶山11・50(車)尾根取付点12・40(車)天狗道P555分岐13・40(車)学校林道一分岐14・10(車)旧摩訶道一雷声寺14・40(車)新神戸駅15・00(解散) 山寺尾根にシラヤマギクが一輪。急登が続く摩訶山への最短の道をゆっくり登る。日中24での絶好の登山日和。下りは旧道を繋いで雷声寺奥の院へ出て解散した。(参加者) 木内純文 中嶋日出男 金谷 昭 加藤浩二 木下朝子 橋川常雄 上住忠雄 小石清子 小林 桂 吉川 彰 吉川あけみ 渡部和美 岩本彰子 加納由紀子 青木一雄 竹田勝英 ○沖 伸 ○仲谷礼司 (計18名)

台高・駒取峠から大滝山 10月15日(日) 晴れ (集合) 近鉄橿原駅宮前駅8・05(バス) 天理教管理事務所 駒取峠9・45(車)奥山10・45(車)大滝山11・30(車)昼食12・10(車)白雲寺13・00(車)新道峠14・15(車)みづえ青少年旅行村15・20(バス) 橿原神宮前駅17・00(解散) 車止めゲート前までバスが入れ、

湖北・太尾山城から鎌刃城跡 (金曜山ハイキング2) 10月17日(日) くもりのち晴 (集合) J R米原駅9・10(車)青岸寺9・15(車)池谷神社9・35(車)太尾山城切の峠9・55(車)北城跡10・00(車)南城跡10・20(車)林道駒取峠11・15(車)11・50(車)香場峠12・00(車)西登山口12・05(車)鎌刃城跡12・50(車)主郭・背懸見学13・50(車)東登山口林道14・20(車)蓮華寺前14・45(解散) 休憩 15・45(車)香場バス停15・53(バス) 米原駅16・15

10月18日(日) 晴れ (集合) 屏風岩下広場8・10(車)寺院広場8・25(車)高畑10・25(車)ケ山10・45(車)比婆山11・50(車)12・30(車)イワス13・10(車)大向13・30(車)屏風14・30(車)広場15・10(車)35

太尾山城から香場へくだり、水準点を見た後、鎌刃城跡へ登った。城跡の尾根は広く展望もあり、主郭や奥の背懸岡を見学。蓮華寺にくだったが、バスまで1時間の余裕があったのでここで解散し、米原駅まで歩く人と別れ、残った人は寺で休憩し、バスで帰った。(参加者) 岡崎知子 中嶋日出男 渡辺いく 尾野吉孝 東久保勝彦 林谷彰男 尾村信子 渋谷義光 林谷彰男 佐藤和子 宮村信夫 橋本芳雄 堀江功廣 朽名生石 安良陽子 林 信男 湯口靖孝 松井明恵 山根弘美 川島勝美 長沢佑美 布橋清美 藤井義治 中尾博子 小池一郎 北川嘉宏 白島忠子 ○楠原良彦 ○村田哲俊 (計29名)

10月18日(日) 晴れ (集合) 屏風岩下広場8・10(車)寺院広場8・25(車)高畑10・25(車)ケ山10・45(車)比婆山11・50(車)12・30(車)イワス13・10(車)大向13・30(車)屏風14・30(車)広場15・10(車)35

(解説)

若に覆われたカレンフェルトのなか、雲仙山の衛星峰をめぐり、途中、カラタチの実が熟して、エズのように使うと教えられ採取する人も。岩を御神体とした比婆神社や登山跡の残るイワスを巡った後、ハイヌガヤが驚ける大向に難渋したが、寶石のようなヤブサンザシの赤い実を愛でながらの楽しい山行だった(中澤美香子)。(参加者) 武村千鶴 中澤美香子 高橋壽治 磯部 純 中澤美香子 滝川 登 湯口清孝 奥野太郎 栗岡 康 栗岡克子 石田真由美 楠津謙治 吉岡 仁 白木やす子 大西篤郎 多田 徳 居原田幸弘 小林 修 ○後藤康幸

台高・明神平から槍塚
10月18日(日) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅 8・05
10(バス) 明神平登山口 9・20
11(明神平) 11・30 明神平(見立)
12(槍塚) 13・20 槍塚 14・30
13(スタハラ) 15・30 1千石平登山口ポスト前 16・00(バス) 橿原神宮

宮前駅 18・15(解説)
台風の影響で又又林道が崩壊し、悪戦苦闘して明神平に着く。下山ルートはスタハラ谷作楽道も2ヶ所でガレていたが、歩行には支障なかった。気の抜けない悪路とブナ林の紅葉が印象に残った。(参加者) 下郷正年 堀内恒智 中川光郎 狩野東彦 別所 英 加藤浩二 石田聖美 久保田玲子 竹内正子 和田純子 吉岡うた子 繁田広美 多賀久子 前川和佳子 三野 友田 毅 友田美保子 朝倉松雄 上田久子 村田はる江 岩村春子 山口充代 池田 茂 ○竹田勝英 ○西上利和(計25名)

さ(道)

11・20 品谷山 11・50(具食)
12・30 品谷峠 12・45 魔村八丁
13・20 13・40 魔屋 13・40 50 1衣
14 懸峠分岐 14・40 P 8 9 2 15
15 00 1ダンノ峠 15・40 音原 16・10
16 30(バス) 京都駅 18・40(解説)
色づき始めた山肌を見ながら歩いた。ダンノ峠分岐ピークで道を間違えて30分ロスしたが、品谷山へは予定通り着いた。魔村八丁の南尾根から東尾根コースはアップダウンが多くあり、一般向きとしてはやや厳しかったようだ。(参加者) 里見輝生 吉岡うた子 岩田育士 藤崎敬子 三野 旭 止中 賢 後藤智之 後藤美恵子 堀本愛子 秋枝秀實 神谷恵美子 堀家洋子 堀家正則 福井登彦 上住忠雄 楠津謙治 西島芳洋 白鳥忠子 中尾博子 武部美英子 大嶋 勉 吉野英子 若林文夫 森 和久 安達 孝 小谷和子 ○岡本正明 ○村田智俊(計28名)

品谷山から魔村八丁
(京都北山歩き 134)
10月25日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅 7・40 50(バス) 佐々里 9・50 10・10(グス) ノン時分岐ピーク 10・45(道迷)

登ったが少し早かったようだ。(参加者) 本家洗子 別所 英 志水明英 入江 勲 三井敏一 福島 昭 渡部和美 奥田剛夫 川俣 勲 飯田二郎 緒方山子 今泉 勲 竹村英樹 前川和佳子 森田久子 井上まら子 ○下郷正年 ○西上利和(計18名)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR橿原神宮前駅 8・05
(25日) 晴れ(集合) JR橿原神宮前駅 8・05
10(バス) 奥の院 11・15
11(見学) 具食 12・10
12(西河内) 12・10 池田登山口 12・30
13(主尾根) 13・15 空山 13・25 135
14(四等三角点) 14・30 1千石平登山口 15・10(バス) ロッジちく

10月28日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 7・40 50(バス) 北大路駅 8・02(バス) 花背峠 9・05 10 杉峠 9・21 滝谷山 9・55 10 03 林道 大見尾根分岐 10・18 滝谷分岐 12・00(具食) 12・45 交流の森散策路 13・25 尾根休憩所 13・43 50 交流の森バス停 14・15 40(バス) 北大路駅前 16・10(バス) 出町柳 16・22(解説)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

さ(道)

10月28日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 7・40 50(バス) 北大路駅 8・02(バス) 花背峠 9・05 10 杉峠 9・21 滝谷山 9・55 10 03 林道 大見尾根分岐 10・18 滝谷分岐 12・00(具食) 12・45 交流の森散策路 13・25 尾根休憩所 13・43 50 交流の森バス停 14・15 40(バス) 北大路駅前 16・10(バス) 出町柳 16・22(解説)

品谷山から魔村八丁
(京都北山歩き 134)
10月25日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅 7・40 50(バス) 佐々里 9・50 10・10(グス) ノン時分岐ピーク 10・45(道迷)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

さ(道)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

10月28日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 7・40 50(バス) 北大路駅 8・02(バス) 花背峠 9・05 10 杉峠 9・21 滝谷山 9・55 10 03 林道 大見尾根分岐 10・18 滝谷分岐 12・00(具食) 12・45 交流の森散策路 13・25 尾根休憩所 13・43 50 交流の森バス停 14・15 40(バス) 北大路駅前 16・10(バス) 出町柳 16・22(解説)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

さ(道)

10月28日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 7・40 50(バス) 北大路駅 8・02(バス) 花背峠 9・05 10 杉峠 9・21 滝谷山 9・55 10 03 林道 大見尾根分岐 10・18 滝谷分岐 12・00(具食) 12・45 交流の森散策路 13・25 尾根休憩所 13・43 50 交流の森バス停 14・15 40(バス) 北大路駅前 16・10(バス) 出町柳 16・22(解説)

品谷山から魔村八丁
(京都北山歩き 134)
10月25日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅 7・40 50(バス) 佐々里 9・50 10・10(グス) ノン時分岐ピーク 10・45(道迷)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

さ(道)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

10月28日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 7・40 50(バス) 北大路駅 8・02(バス) 花背峠 9・05 10 杉峠 9・21 滝谷山 9・55 10 03 林道 大見尾根分岐 10・18 滝谷分岐 12・00(具食) 12・45 交流の森散策路 13・25 尾根休憩所 13・43 50 交流の森バス停 14・15 40(バス) 北大路駅前 16・10(バス) 出町柳 16・22(解説)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

さ(道)

10月28日(日) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 7・40 50(バス) 北大路駅 8・02(バス) 花背峠 9・05 10 杉峠 9・21 滝谷山 9・55 10 03 林道 大見尾根分岐 10・18 滝谷分岐 12・00(具食) 12・45 交流の森散策路 13・25 尾根休憩所 13・43 50 交流の森バス停 14・15 40(バス) 北大路駅前 16・10(バス) 出町柳 16・22(解説)

品谷山から魔村八丁
(京都北山歩き 134)
10月25日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅 7・40 50(バス) 佐々里 9・50 10・10(グス) ノン時分岐ピーク 10・45(道迷)

10月24日(出) 25日(日) 1泊2日
(24日) 晴れ(集合) JR京都駅 7・35(バス) 浦底・螺螺ヶ岳登山口 10・05 20 1長谷水 11・35 40 1一枚岩展望台 12・10 1螺螺ヶ岳 12・30(具食) 13 10 1カモシカ台 13・45 50 13 10 1カモシカ台 13・45 50 15 10 1カモシカ台 13・45 50 15 05 1銀名水 15・25 奥の院 16・00 05 1常神社 16・20 140(バス) 京都駅 19・15(解説)

萩野暢子 緒方山子 ○小栗大直
○西上利和 (計21名)

比良・岳山から見張山
10月31日(出) 晴れ
(集合) JR近江高島駅9・00
20→大炊神社9・45→55→白坂
置地10・20→30→岳殿音堂10・
40→ザレ場11・00→10→岳山11・
25→鳥越11・40→オウム岩11・50
→55→鳥越峰→反射板東方の広場
12・10(昼食) 12・50→見張山
13・30→40→長法寺跡分岐13・45
→長法寺跡14・00→下の鼻打鉄塔
広場14・20→30→打下城跡14・50
→日吉神社15・20→35→近江高島
駅15・45(解散)

中川光郎 大槻一夫 林 久美子
夏山香子 織田知子 中嶋日出男
妹尾一正 中尾博子 大嶋 勉
須藤浩子 岩村春子 後藤純子
呉比呂美 山高多恵子
○山高義治 ○村田智俊(計30名)
敦賀の山・岩嶺山
10月31日(出) 晴れ
(集合) JR新定田駅9・00→05
→四等点(道分)10・40→インデ
アンプ平原11・55→岩嶺山12・10
→インディアンプ平原12・20(昼食)
13・20→四等点(奥野)14・35→
新定田駅15・25(解散)
南正田からインディアンプ平原に
至るルートは岩嶺山五本目の新ル
ート。急登、散やぶ、自然味たっ
ぷりの3時間コース。晴天に恵ま
れ、紅葉真っ盛り時のブナ林を楽し
んだ。

○高島仲浩 (計21名)
五台山と道峰山4日間
(霧国の山旅シリーズ②)
9月30日(雨)→10月3日(出)
3泊4日
(30日 晴れ)(集合) 関西空港7・
30→9・30(飛行機) 仁川空港
11・30→50(バス) 珍宮パンアグ
リ楽水16・00→40(バス)「ケン
シントンフロラホテル」16・50
(泊)
(1日 晴れ) ホテル8・30(バス)
月精寺8・50→9・10(バス)上
院寺登山口9・30→40→寂滅定宮
12・05→10→思慮峰11・55(昼食)
12・35→象王峰13・30→40→尾根
分岐14・00→林道14・25→35→上
院寺登山口15・30→55(バス)「ケ
ンシントンフロラホテル」16・
20(泊)
(2日 晴れ) ホテル7・40(バス)
ナン峠登山口8・00→老人峰9・
55→10→武陵溪谷広場11・45
(昼食) 12・20→白雲台13・20→
30→九龍橋14・00→10→小金剛登
山口15・05→15(バス)ソウル焼

肉店19・20(夕食) 20・30(バス)
「ノブレスメルディアンホテル」
20・50(泊)
(3日 晴れ) ホテル6・00(バス)
道峰洞登山口6・40→50→道峰山
荘8・30(朝食) 8・50→道峰山(神
仙台)9・20→10・00→ゴブネ溪
谷→道峰洞登山口12・00(バス)
北漢山牛耳洞登山口12・30(入浴・
昼食) 15・00(バス) 仁川空港
17・00→19・10(飛行機) 関西空
港20・40(解散)
五台山は2日間かけ、月精寺の
メタセコイヤの並木道(霧ドラ)夏
の「おくり」で有名を見て、紅葉
真っ盛りを歩いた。道峰山
の神仙台からは360度の大観
望。道峰山からは北漢山の仁寿峰・
白雲台がすばらしい。二山共
に印象に残る山だった。
(参加者) 田辺弘子 中嶋日出男
大岡陽子 山縣勝英 鈴木美代子
村井寿和 狩野東彦 白鳥忠子
宮西和子 ○村田智俊
(アルパイン) 本多直也 (計11名)
他現地ガイド1名
(9・10月の参加者 延727名)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年5号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千人の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。係り「リーダー」はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例年に参加されるときは、山行運営費として400円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも

○新入会員(定期購読者)紹介
新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5494番から5502番まで(敬称略)。

【滋賀】 梅田廣征
【京都】 浅野 剛 北川さゆり 植場君子
【大阪】 吉安純純 川崎美和子 井上正章 川口政新
【奈良】 益田 博 (9名)

○山行係(リーダー)募集
係は2ヶ月に1〜2回程度山行例会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイキングリーダー必携」をご参考にお送りします。

が下の三重線から大目になり、「湖北・余興トレイル」が上の行市山から刀根越になります。

*40ページ上段4行目「相賀」のルビ「おうが」→「おうが」下段1行目「芳草」のルビ「しゅくさ」→「はくさ」

*50ページ中段7行目「高瀬川」→「向」→「何」

*82ページ中段7行目「高瀬川」→「高瀬川」

*83ページ付近図の縮尺が間違っていました。3センチが1センチになります。

書店でお求めになりたい方へ
前もって身分ほしいと「購読予約」をされますと、この書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃(隔月刊)の発売